

ApeosWare Record Link

インストールガイド

- サポート情報、最新情報の入手先
次のサイトで製品情報を提供しています。
https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_record_link

はじめに

このたびは、ApeosWare Record Link をご利用いただき、まことにありがとうございます。

本書は、ApeosWare Record Link の概要やインストールの操作手順について説明しています。本製品をお使いになる前に、必ずこのマニュアルをお読みください。また、操作がわからないときや困ったときに、読み直してご活用ください。

本書の内容は、お使いのパーソナルコンピュータの環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピュータの環境の基本的な知識や操作方法については、それらのマニュアルをお読みください。

富士フイルムビジネスイノベーション株式会社

Microsoft、Windows、Microsoft Edge、および .NET Framework は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Xerox、Xerox ロゴ、Fuji Xerox ロゴ、および DocuCentre は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

PostgreSQL は、PostgreSQL の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の社名、または商品名等は、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

- ・このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- ・このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

本書の記載には富士ゼロックスブランドの商品を含みます。

富士ゼロックスブランドの商品は、米国ゼロックス社からライセンスを受けている商品です。

商品提供者は富士フイルムビジネスイノベーション株式会社です。

本書は、富士ゼロックス株式会社が過去に販売した次の機種にも適合するソフトウェアの説明を含みます。

https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_record_link/spec#model

FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。

Apeos、ApeosPort、ApeosPro、ApeosWare、および ContentsBridge は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

本書の表記

説明する内容によって、次の記号を使用しています。



注記 必ず知っておいていただきたい情報、操作するときに必ず確認していただきたい情報を記載しています。



補足 操作の参考になる情報を記載しています。



参照 参照先を記載しています。

次の表記を使用しています。

「 」 メッセージ、ファイル名、フォルダー名、入力値、入力例、および強調したい内容を表します。また、マニュアル内で参照する箇所を表します。

例： 「正常に終了しました」と表示されます。

『 』 参照するマニュアル名を表します。

例： 『操作ガイド』を参照してください。

[] PC の画面や複合機のパネルに表示される項目を表します。また、ウィンドウ、メニュー、ダイアログボックス、タブ、ボタンを表します。

例： [OK] をクリックします。

{ } ドライブ名やユーザー名など操作時に変わる値、またはユーザーの一覧など名前のない画面項目を表します。

例： [{ログインユーザー名}] から、[ログアウト] をクリックします。

> メニューや Web ページの階層を表します。

例： [スタート] > [プログラム] の順に選択します。

- ApeosWare Record Link を「Record Link」と表記しています。
- ApeosWare Record Link データ移行ツールを「データ移行ツール」と表記しています。
- Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- Microsoft Internet Information Services を「IIS」と表記しています。
- Microsoft .NET Framework を「.NET Framework」と表記しています。
- パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- このマニュアルでは、一部を除き Microsoft Edge を使用した場合の操作例を記載しています。それ以外の Web ブラウザーをお使いの場合は、操作方法や画面が異なることがあります。

もくじ

1 Record Link について

Record Link でできること	7
ソフトウェア構成	8
システム構成	9
標準的なハードウェアとソフトウェア	9
バーコード／QR コード	10
ユーザー権限	10
設置の流れ	10
設置の準備	10
サーバーへのインストール	10
クライアント PC へのインストール	11
サーバーの初期設定	11
サーバーの設置確認	11

2 設置の準備

設置の注意事項	12
プリンターの設定	13
ユーザーの権限	13
前提ソフトウェアの設置	13
IIS をアンインストールする	14
.NET Framework をインストールする	14
通信で使用するポート	16

3 インストール

インストールについて	17
IIS / ASP.NET をインストールする	17
PostgreSQL をインストールする	19
データベースを初期化する	24
FormDataEntry をインストールする	26
Web 登録サービスをインストールする	30
レコードオペレーターをインストールする	33
レコードデザイナーをインストールする	38
サーバーにインストールする場合	38
クライアント PC にインストールする場合	41
Input Service をインストールする	46

ツールをインストールする	49
インストール結果を確認する	50

4 サーバーの初期設定

リサイクル条件を設定する	52
クライアント PC から台帳データベースへの接続を設定する	55
ファイアウォールを設定する	55
PostgreSQL の接続を設定する	59
複合機を設定する	60
複合機の外部アクセスを設定する	60
外部アクセスを複合機のボタンに登録する	61
設定管理ツールで設定する	61
設定管理ツールを起動する	61
出力する複合機を設定する	62
メール通知を設定する	64
ライセンスに登録する	68
セキュリティ対策ソフトウェアの設定	70

5 サーバーの設置確認

設置の確認の流れ	71
レコードデザイナーで業務の情報を作成する	72
レコードデザイナーで帳票に登録する	75
Web 登録サービスで原紙に登録する	76
FormDataEntry で帳票を定義する	77
レコードデザイナーで表示を設定する	81
レコードデザイナーで業務のステータスを変更する	82
Web 登録サービスで情報を抽出する	83
レコードオペレーターで確認 / 訂正をする	85
サンプルデータを削除する	88
レコードデザイナーで業務を削除する	88
FormDataEntry でシナリオを削除する	88

6 アンインストール

アンインストールについて	90
アンインストールの流れ	90
アンインストールの注意事項	90
ツールをアンインストールする	90
Input Service をアンインストールする	91

レコードデザイナーをアンインストールする	91
レコードオペレーターをアンインストールする	91
レコードオペレーターソフトウェアをアンインストールする	91
RecordOperatorAppPool を削除する	92
Web 登録サービスをアンインストールする	94
FormDataEntry をアンインストールする	94
PostgreSQL をアンインストールする	94
ContentsBridge Utility をアンインストールする	95

7 旧バージョンからの移行

移行時の注意事項	96
異なる PC に環境を構築してデータを移行する	96
データ移行ツールの概要	96
データ移行の流れ	97
バックアップデータを取得する	97
データを移行する	98
データ移行ツールのログ	99
同一の PC 上で Record Link をバージョンアップする	99
移行ナビゲーションツールの概要	99
Record Link の環境を移行する	100
リカバリー	104
ログファイル	105

8 付録

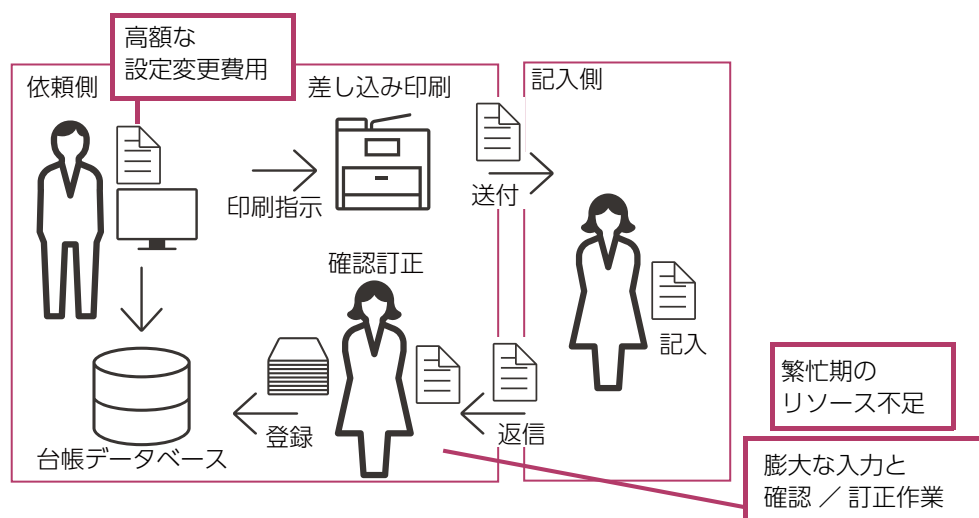
設定管理ツールの設定	107
設定管理ツールにログインする	107
レコードデザイナーの設定値を変更する	108
レコードオペレーターの設定値を変更する	113
Web 登録サービスの設定値を変更する	122
バックアップツールの設定値を変更する	129
Input Service の設定値を変更する	131
システム管理者パスワードを変更する	134
データベース管理者のパスワードを変更する	134
レコードライセンスを管理する	135
障害情報取得ツールについて	136
障害情報取得ツールを使用する	136
業務ログを収集する	140
障害情報取得ツールで収集できる情報	145

1 Record Link について

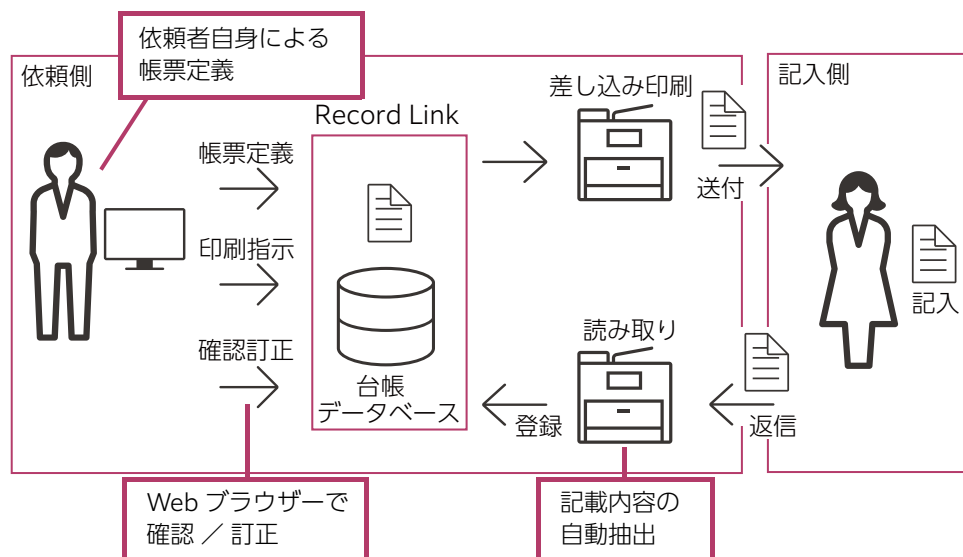
Record Link でできること

Record Link は、業務で使う帳票の煩雑なやり取りや管理を効率化する機能を提供します。

Record Link 導入前



Record Link 導入後

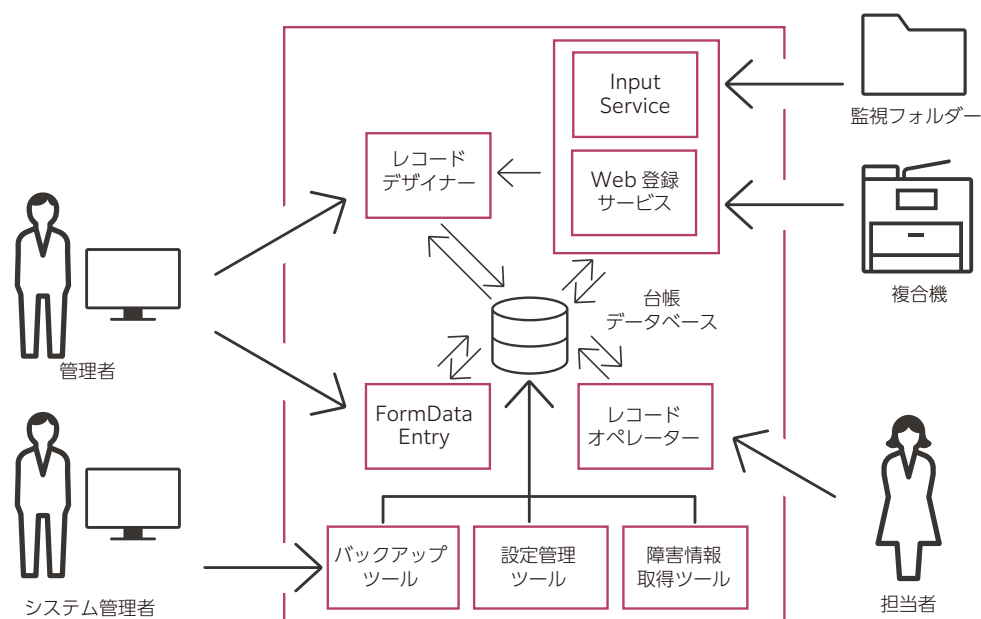


Record Link では、次のことができます。

- 紙の帳票から台帳データベースへのデータ入力が、複合機でできます。
- 依頼者自身で、台帳データベースのデータを、帳票に差し込み印刷できます。
- 帳票や台帳の改定時も依頼者自身で対応できます。
- 帳票への差し込み印刷や、台帳へのデータ入力作業の状況を Web ブラウザーで表示できます。
- 入力されたデータを CSV データに変換することで、他の基幹システムと連携できます。

ソフトウェア構成

Record Link は、用途に応じた各ソフトウェアで構成されていて、それぞれが連携して動作します。ソフトウェアの構成は次のとおりです。



ソフトウェア	利用者	説 明
FormDataEntry	管理者	専用アプリケーションで操作します。 ・読み取り用帳票を設定します。 ・Web 登録サービスで読み取り処理した帳票を解析します。
レコードデザイナー	管理者	専用アプリケーションで操作します。 ・業務の作成と設定、帳票の定義、原紙の印刷をします。
Web 登録サービス	管理者 担当者	複合機、または Web ブラウザーで操作します。 ・業務管理者が、読み取り帳票の原紙を登録します。 ・業務処理担当が、読み取り帳票をスキャン処理します。
Input Service	管理者 担当者	ローカルフォルダーを監視し、フォルダーに入力された画像ファイルを台帳データベースに登録します。 ・業務管理者が、監視対象フォルダーを作成します。 ・業務担当が、記入済み帳票の画像ファイルと属性データを、監視対象フォルダーに入力します。
レコードオペレーター	担当者	Web ブラウザーで操作します。 ・業務を処理します。差し込み帳票の印刷や、スキャン処理された読み取り帳票の管理、レコードの確認をします。
台帳データベース	—	帳票から読みとったデータや、登録したデータが蓄積されます。
設定管理ツール	システム管理者	Record Link の各ソフトウェア設定や、ライセンスの登録、データベースおよびシステム管理者のパスワードの変更をします。
障害情報取得ツール	システム管理者	Record Link の動作ログや Windows の情報を収集します。システムを診断し、トラブルの解決に役立てることができます。
バックアップツール	システム管理者	Record Link の台帳データベースをバックアップおよびリストアするツールです。



管理者は、Record Link 上で登録する業務を管理します。システム管理者は、Record Link のシステム全体を管理します。

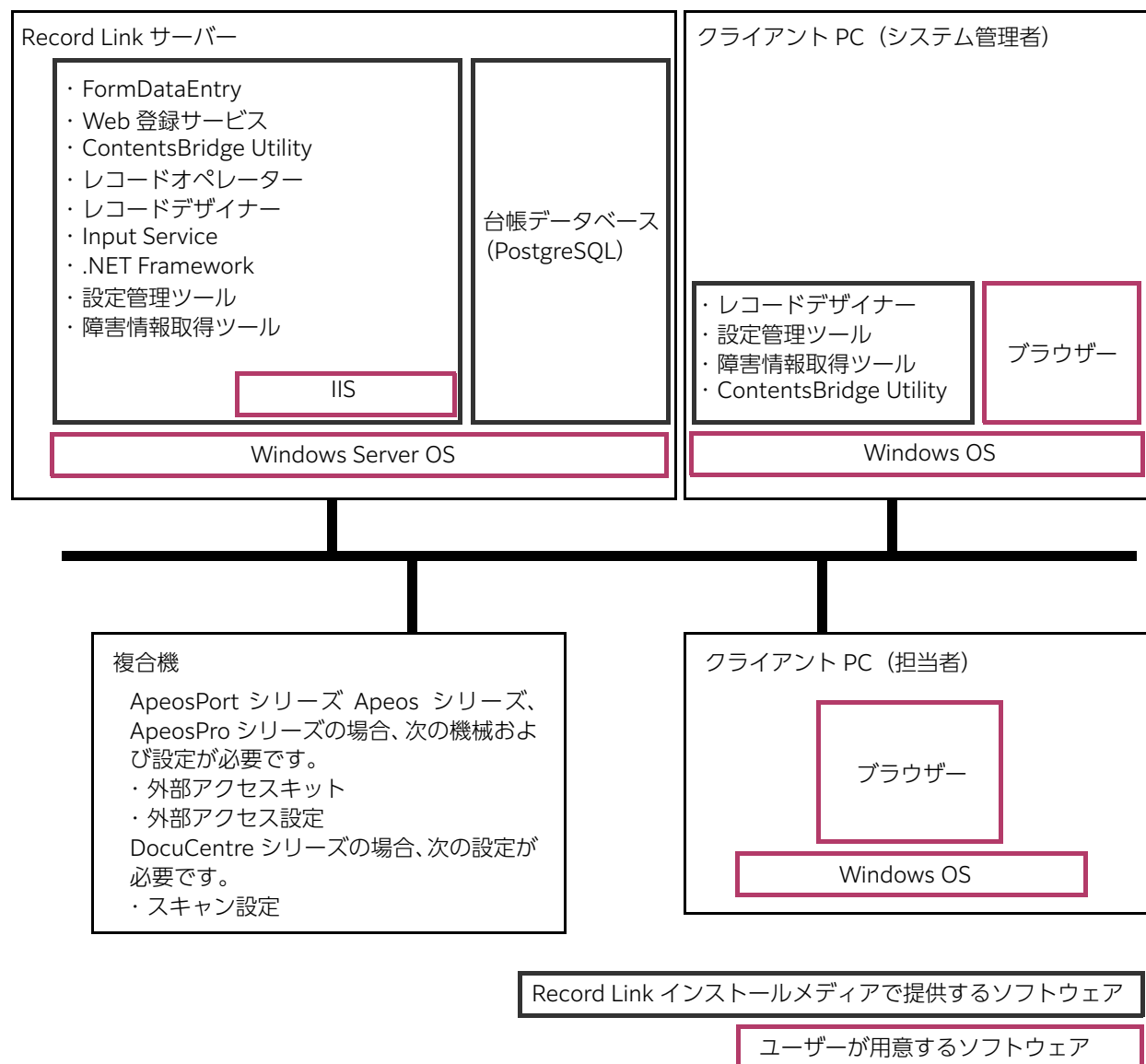
従来の Record Link の環境から帳票などのデータを 2.0 の環境に移行するツールは次のとおりです。
どちらかのツールを使用してデータを移行することができます。

ソフトウェア	利用者	説明
データ移行ツール	管理者	異なる PC に Record Link 2.0 の環境を用意し、従来の環境がインストールされている PC からデータを移行する場合などに使用するツールです。
移行ナビゲーションツール	管理者	同一の PC 上で、既存の Record Link 環境から 2.0 の環境へバージョンアップし、かつ帳票などのデータを移行する場合に使用するツールです。

システム構成

標準的なハードウェアとソフトウェア

標準的なハードウェアとインストールするソフトウェアは、次のとおりです。



バーコード／QRコード

Record Link で読みとり可能なバーコードと QR コードの規格は、次のとおりです。

- ・ 一次元バーコード：NW-7 / CODE39 / CODE128
- ・ QR コード：モデル 2 (Model2) ver 1 ～ 40

ユーザー権限

Record Link のユーザー権限とそれぞれの役割は、次のとおりです。

ユーザー権限	役 割
システム管理者	システムの起動や停止、バックアップ、ユーザーの権限の管理など、Record Link システム全体の管理をします。
管理者	帳票の設計、読み取り領域の定義、担当者の割り当てをします。
担当者	帳票のスキャン、読み取り結果の確認訂正などの実業務を担当します。

設置の流れ

Record Link の設置作業の流れは、次のとおりです。

設置の準備

順番	作業項目	参照
1	作業環境の確認	「設置の注意事項」 (P.12)
2	作業ユーザーのアカウント制御設定の変更	「ユーザーの権限」 (P.13)
3	前提ソフトウェアの設置 IIS のアンインストール .NET Framework のインストール	「前提ソフトウェアの設置」 (P.13)

サーバーへのインストール

順番	作業項目	参照
1	IIS / ASP.NET のインストール	「IIS / ASP.NET をインストールする」 (P.17)
2	PostgreSQL のインストール	「PostgreSQL をインストールする」 (P.19)
3	データベース初期化	「データベースを初期化する」 (P.24)
4	FormDataEntry のインストール	「FormDataEntry をインストールする」 (P.26)
5	Web 登録サービスのインストール	「Web 登録サービスをインストールする」 (P.30)
6	レコードオペレーター / ContentsBridge Utility for Windows のインストール	「レコードオペレーターをインストールする」 (P.33)
7	レコードデザイナーのインストール	「サーバーにインストールする場合」 (P.38)
8	Input Service のインストール	「Input Service をインストールする」 (P.46)
9	設定管理ツールのインストール	「ツールをインストールする」 (P.49)
10	障害情報取得ツールのインストール	
11	インストールしたソフトウェアの確認	「インストール結果を確認する」 (P.50)

クライアント PC へのインストール

順番	作業項目	参照
1	レコードデザイナーのインストール	「クライアント PC にインストールする場合」 (P.41)
2	設定管理ツールのインストール	「ツールをインストールする」 (P.49)
3	障害情報取得ツールのインストール	
4	インストールしたソフトウェアの確認	「インストール結果を確認する」 (P.50)

サーバーの初期設定

順番	作業項目	参照
1	IIS リサイクル設定 IIS で稼動する Record Link を定期的に再設定する タイミングを指定します。	「リサイクル条件を設定する」 (P.52)
2	データベースアクセス制御設定 PostgreSQL へアクセス可能な PC を設定します。	「クライアント PC から台帳データベースへの接続を設定する」 (P.55)
3	設定管理ツールを利用した初期設定 Record Link の初期設定を行います。	「設定管理ツールで設定する」 (P.61) 「設定管理ツールの設定」 (P.107)

サーバーの設置確認

順番	作業項目	参照
1	ソフトウェアの動作を確認 Record Link メディアにあるサンプルデータを使用して、 基本機能が正常に動作することを確認します。	「5 サーバーの設置確認」 (P.71)

2 設置の準備

設置の注意事項

Record Link サーバーの設置時の注意事項を説明します。設置の前に必ず確認してください。

- Record Link の設置には、必ずインストールメディアに格納されているソフトウェアを使用してください（ただし、.NET Framework 設置に必要な OS 更新プログラムは除きます）。

インターネットなどで公開されている PostgreSQL を使用した場合、Record Link と組み合わせたときの品質は保証できません。

- 設置対象の PC に IIS が設置されている場合は、ほかの Web アプリケーションが IIS を利用していないことを確認してください。設置済みの IIS は Record Link の設置手順でアンインストールするため、ほかの Web アプリケーションで利用されていると不具合が発生するおそれがあります。
- 設置対象の PC に PostgreSQL 14 が設置されていないことを確認してください。PostgreSQL 14 は、Record Link 専用にする必要があります。

作業前に PostgreSQL 14 をアンインストールする場合は、必ずアンインストール後にインストール先フォルダーをリネームしてください。アンインストールしただけでは、データベースデータは削除されず、設置時に影響する場合があります。

- リモートデスクトップを使用して設置する場合は、コンソールモードで接続してください。コンソールモード以外では、PostgreSQL の設置時に障害が発生するおそれがあります。
- 作業ユーザーには、必ず管理者権限を割り当ててください。また、インストーラーのアプリケーションは「管理者として実行」で起動させてください。

管理者権限の有無は、コマンドプロンプトを起動し、ウィンドウのタイトルに「管理者」と表示されることで確認できます。

- 「コントロールパネル」>「日付と時刻」を選択し、システム時刻のタイムゾーンが「(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京」になっていることを確認してください。また、タイムゾーンを変更した場合は、OS を再起動し、再度確認してください。

タイムゾーンが不適切な場合、Record Link が正常に動かなくなるおそれがあります。



注記

タスクバーから「日付と時刻」のプロパティを表示すると、Windows ユーザーに依存したタイムゾーンが表示されます。タイムゾーンは、必ず「コントロールパネル」から確認してください。

- インストーラーを起動するとき、インストーラーやソフトウェアの絶対パスに日本語が含まれないようにしてください。基本メディアの内容をハードディスクにコピーして、そのインストーラーを起動する場合は、注意が必要です。
- 作業終了後に、設置作業ユーザーを無効化、または削除しないでください。パッチのインストールやバージョンアップは、設置作業をしたユーザーと同一のユーザーでアクセスして作業します。
- ドメインに参加している場合でも、ローカルアカウントで作業することを推奨します。ローカルアカウントで作業することで、ドメインコントローラーの障害などによる影響を少なくできます。

プリンターの設定

Record Link を利用して帳票を印刷する場合、サーバー上に設定されたプリンターを使用します。

Record Link をインストールする前に、対象となる複合機のプリンタードライバーをインストールし、正常に印刷できることを確認してください。

ユーザーの権限

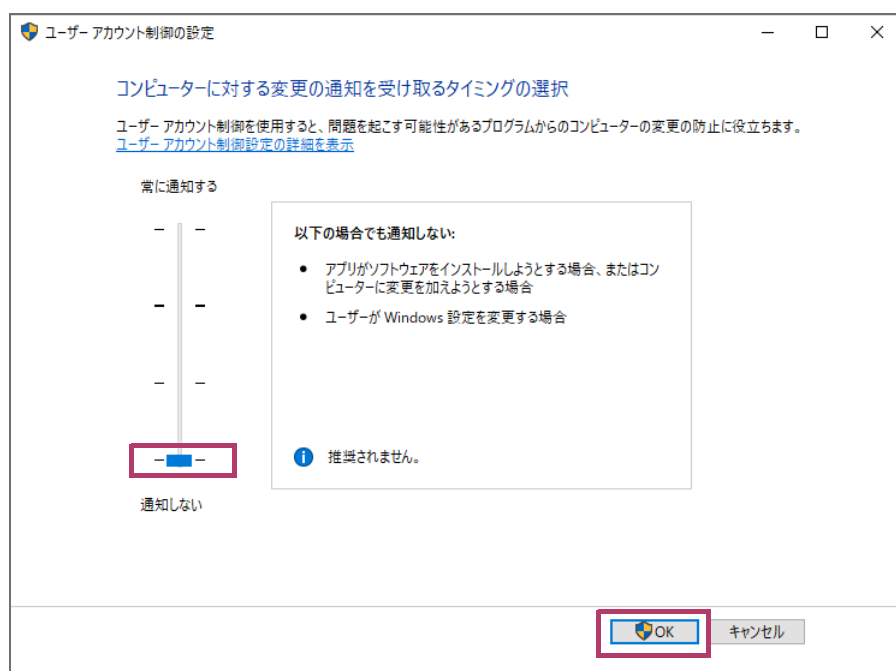
サーバーおよびクライアント PC に Record Link をインストールするときは、インストールする PC の Administrators グループのユーザーで実行する必要があります。インストールするユーザーが、Administrators グループに所属しているかどうかを事前に確認してください。

また、クライアント PC にインストールする場合は、ユーザーアカウント制御（UAC）設定を解除することを推奨します。設定手順は次のとおりです。



ここで説明する操作は、Windows Server 2022 の場合です。OS が異なる場合は、操作が異なることがあります。

1. [コントロールパネル] > [ユーザーアカウント] > [ユーザー アカウント制御設定の変更] をクリックします。
[ユーザーアカウント制御の設定] ダイアログボックスが表示されます。
2. [コンピューターに対する変更の通知を受け取るタイミングの選択] のスライダーを [通知しない] までドラッグし、[OK] をクリックします。



前提ソフトウェアの設置

Record Link サーバー設置に向けた、次の作業を実施します。

- IIS のアンインストール
- .NET Framework のインストール

IIS をアンインストールする

IIS は、Record Link Launcher を利用してインストールします。サーバーにすでに IIS がインストールされている場合は、最初にアンインストールする必要があります。

IIS のアンインストールは、サーバーマネージャーを開き、[管理] > [役割と機能の削除] から行います。詳細手順は、OS に付属のマニュアルを参照してください。

アンインストール後は、IIS が利用した inetpub フォルダーも削除してください。ただし、inetpub フォルダーには他のシステムプロセスが利用しているファイルがあります。削除できない旨のメッセージが表示されたときは、該当ファイルの削除をスキップしてください。



注記

IIS をアンインストールするときは、IIS マネージャーを表示して、他の Web アプリケーションがインストールされていないことを確認してください。

.NET Framework をインストールする

Record Link の設置に必要な .NET Framework 本体と言語パックを、サーバー にインストールします。



補足

ここで説明する操作は、Windows Server 2016 の場合です。OS が異なる場合は、操作が異なることがあります。

1. 必要なパッチをインストールするために、Windows Update を実行します。
インターネットに接続できない環境の場合は、この操作は省略します。
2. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。
3. [.Net Framework] の [インストール済み] 欄に [4.7.x] または [4.8] が表示されているかどうかを確認します。

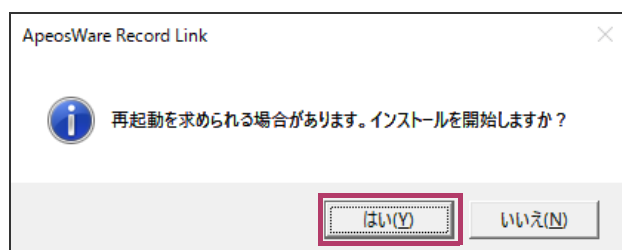


- [インストール済み] 欄に [4.7.x] または [4.8] が表示されている場合
必要な .NET Framework がすでにインストールされています。以降の操作は必要ありません。
- [インストール済み] 欄が空白、[4.7.x] または [4.8] 以外が表示されている
.NET Framework 4.7.2 のインストールが必要です。手順 4 以降に進んでください。

4. Record Link Launcher の一覧から [.Net Framework] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。

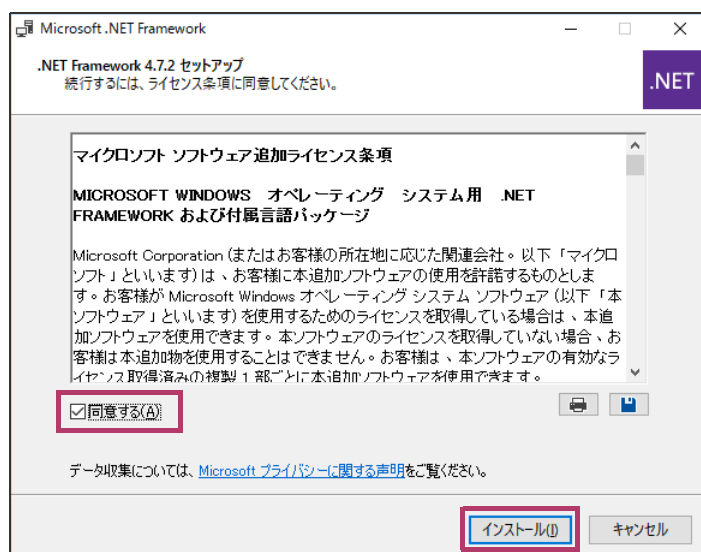


5. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



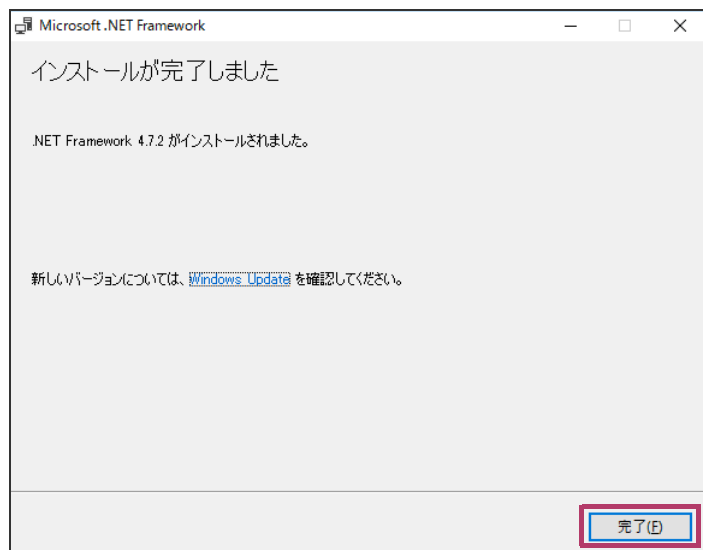
6. 次の操作をします。

1. [マイクロソフト ソフトウェア 追加ライセンス条項] を確認し、[同意する] にチェックマークを付けます。
2. [インストール] をクリックします。



7. 「プログラムを自動的に閉じますか？」という関連アプリケーションの終了を求めるメッセージが表示された場合は、Windows サービスなどに登録されているアプリケーションを停止し、[いいえ] をクリックします。

8. [完了] をクリックします。



通信で使用するポート

Record Link サーバーでは、次のポートを通信で使します。

サーバーと各クライアント端末および複合機間でのネットワーク通信経路上のポートを開放するようにしてください。

- レコードデザイナー
5432 (PostgreSQL)
9100 (LPR)
- レコードオペレーター
9100 (LPR)
- Web 登録サービス
80 (HTTP)
443 (HTTPS)
25 (SMTP)
137-139 (SMB)
- FormDataEntry
5432 (PostgreSQL)

3 インストール

インストールについて

Record Link のソフトウェアは、ApeosWare Record Link メディアから Record Link Launcher を起動してインストールします。



注記

- Record Link Launcher からアンインストールを実行しないでください。Launcher から実行しようとすると、正しくアンインストールできません。
アンインストールする方法は、「6 アンインストール」(P.90) を参照してください。
また、再インストールする場合は、「アンインストールの流れ」(P.90) の手順でアンインストールしたあと、再度、Record Link Launcher からインストールしてください。
- Windows 画面の文字の大きさの設定を、初期値 (100%) から変更しないでください。Record Link Launcher のボタンが正しく表示されないなど、レイアウトが崩れることがあります。

IIS / ASP.NET をインストールする

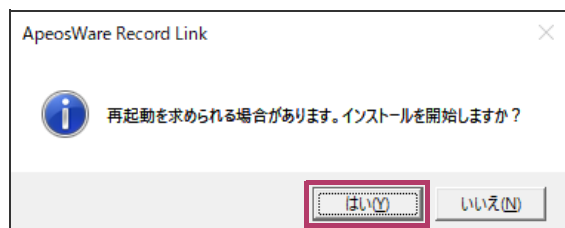
Record Link では Web アプリケーションを使用するため、IIS をサーバー にインストールします。

1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。

2. [IIS / ASP.NET] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



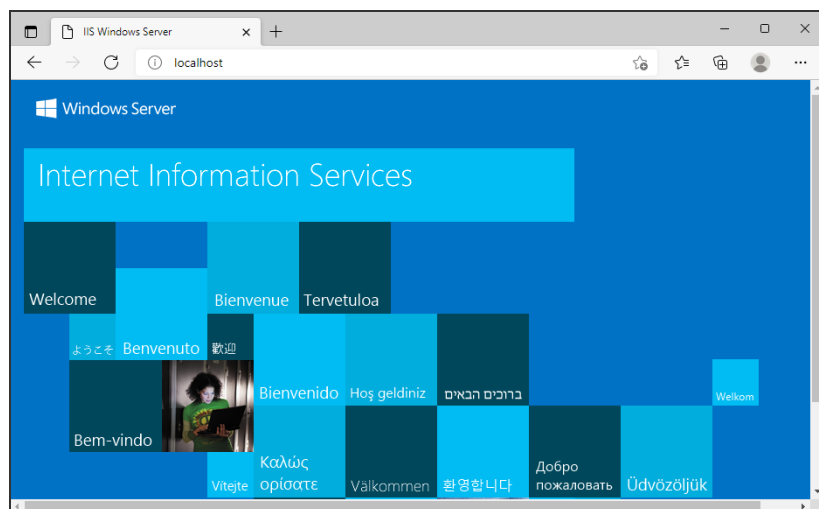
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



[Windows コンポーネントのインストール] 画面が表示され、インストールが開始されます。インストールが終了すると、Record Link Launcher の画面に戻ります。



4. Web ブラウザーを起動し、「http://localhost/」にアクセスして、動作を確認します。
次の画面が表示されたら、IIS と ASP.NET のインストールは正常に終了しています。



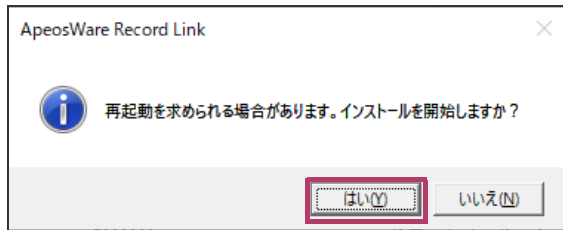
PostgreSQL をインストールする

PostgreSQL をサーバーにインストールします。

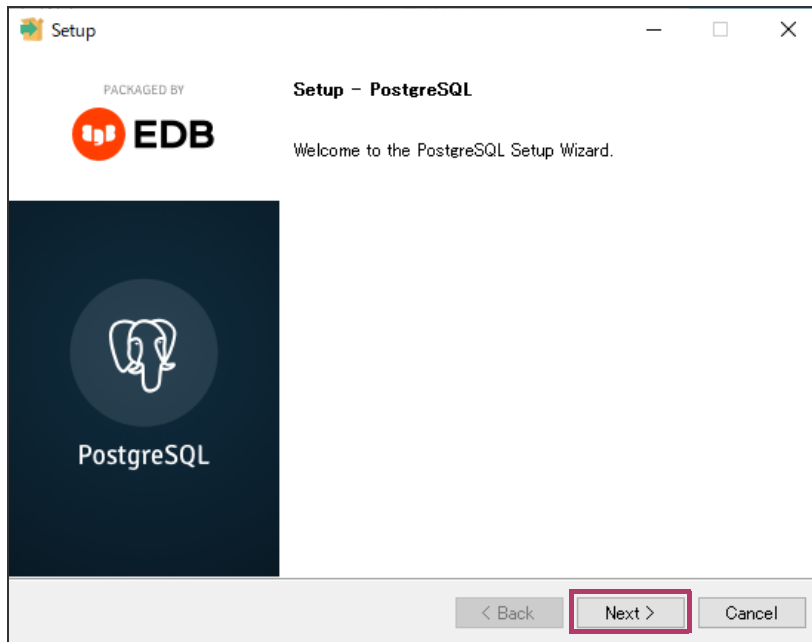
1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。
2. [PostgreSQL] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



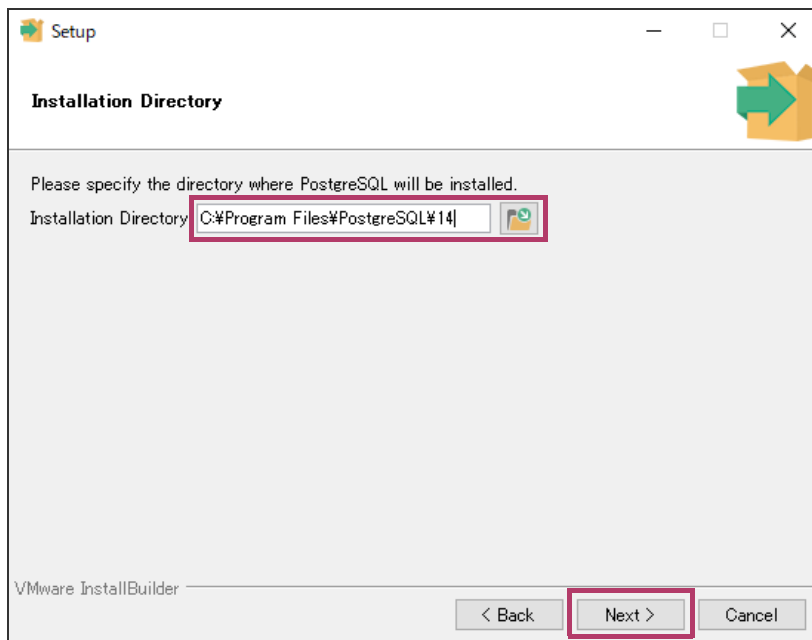
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



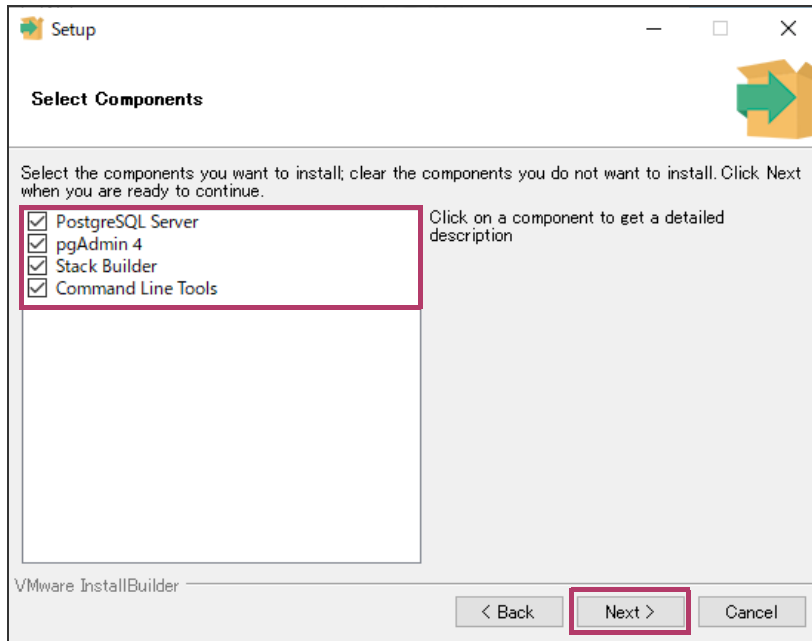
4. [Next] をクリックします。



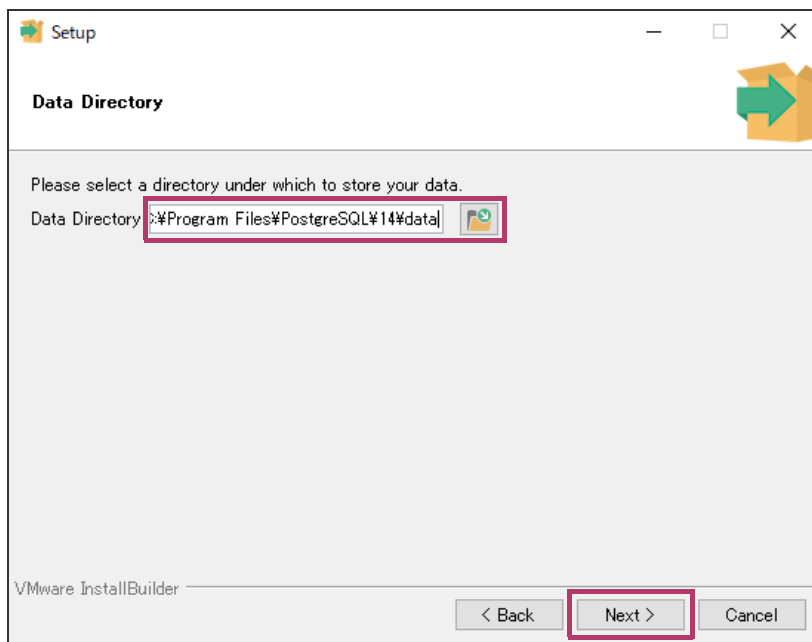
5. インストールする場所を指定し、[Next] をクリックします。



6. 項目のすべてにチェックマークが入っていることを確認し、[Next] をクリックします。



7. データ格納場所を指定し、[Next] をクリックします。



補足

ここで指定する場所には使用に応じてデータが蓄積されます。十分な容量が確保されている場所を指定してください。

8. [Password] 欄と [Retype password] 欄にパスワードが入力されていることを確認し、[Next] をクリックします。



注記

- ・あらかじめ入力されているパスワードを変更しないでください。変更すると、システムが正常に起動しません。
- ・変更が必要な場合は、Record Link のインストールが完了したあと、設定管理ツールから変更してください。



補足

このパスワードは、Windows 上の Postgres ユーザーとデータベース管理者 (postgres) のパスワードです。パスワードは、ここでは変更できません。

9. [Port] 欄に「5432」が入力されていることを確認し、[Next] をクリックします。



注記

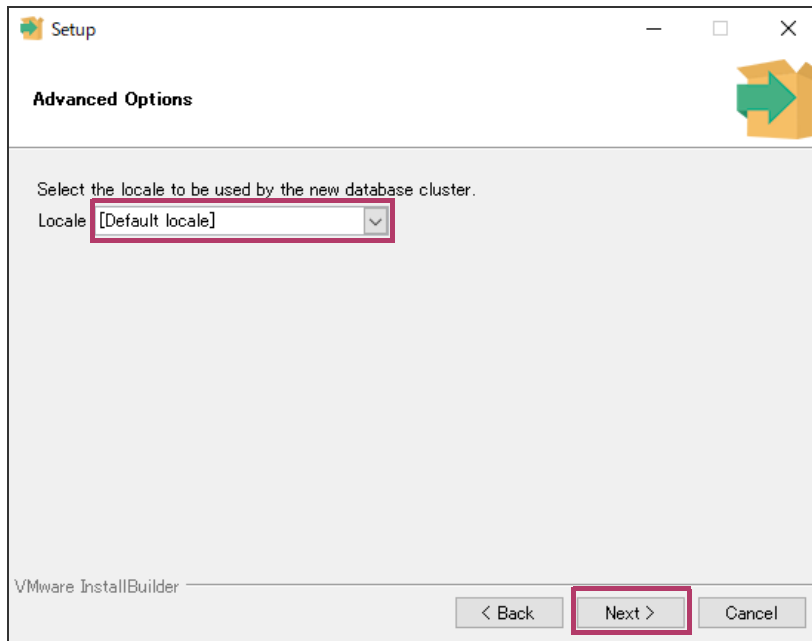
ポート番号は変更できません。あらかじめ入力されているポート番号「5432」を使用してください。表示されたポート番号を変更すると、システムが正常に起動しません。

10. [Default locale] が選択されていることを確認し、[Next] をクリックします。

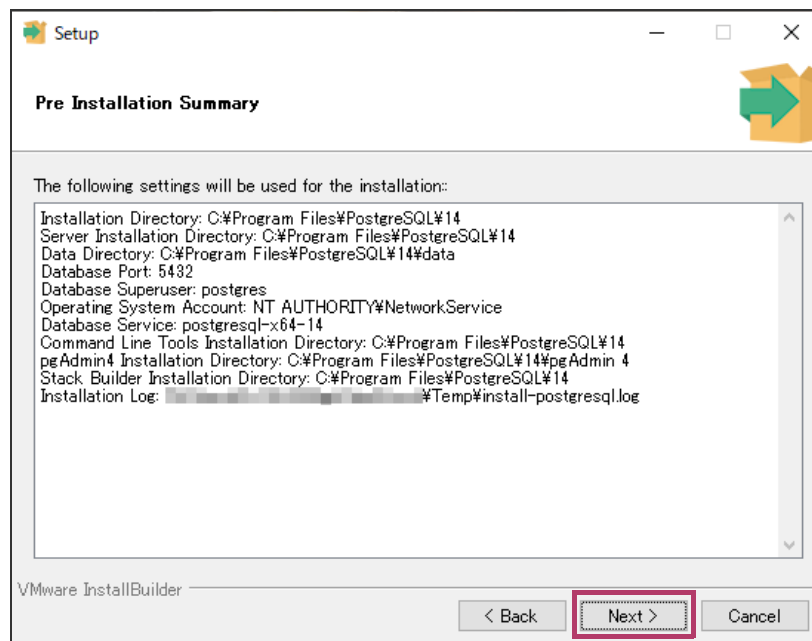


注記

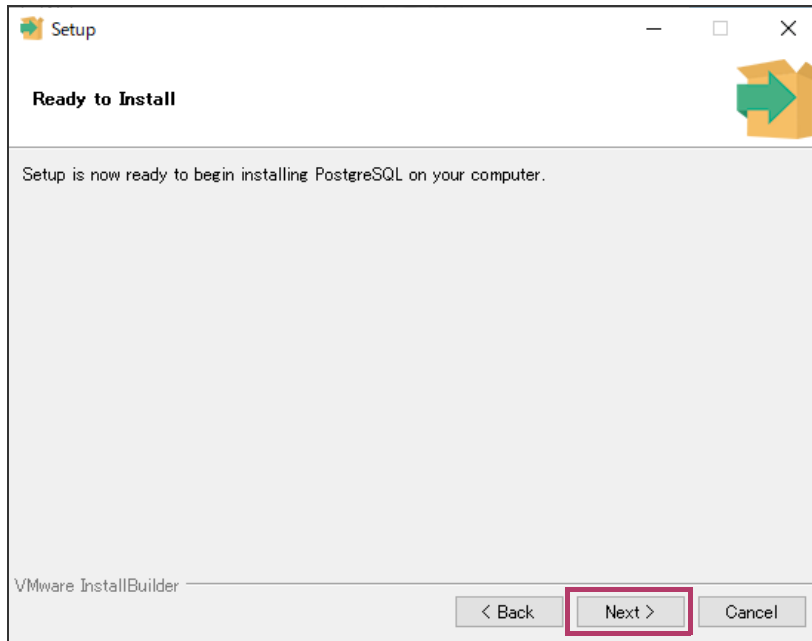
必ず [Default locale] を指定してください。



11. [Next] をクリックします。

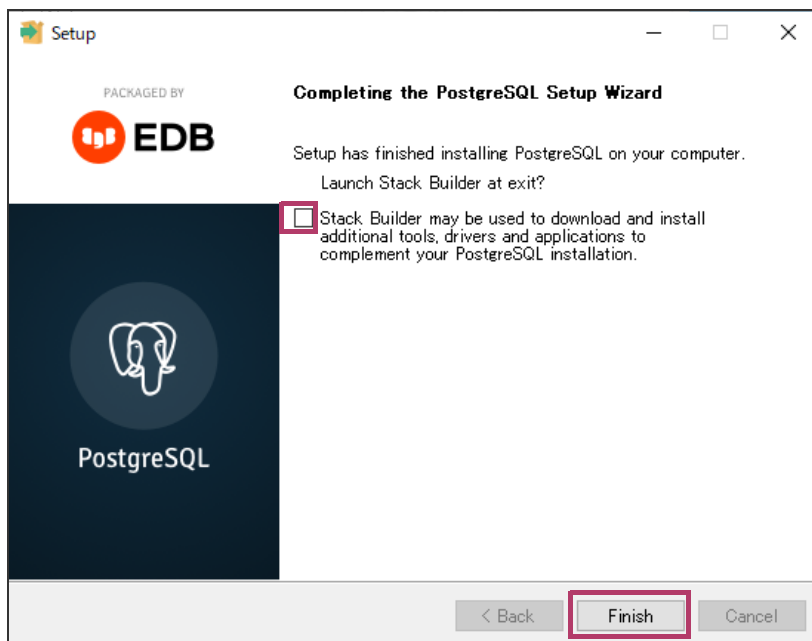


12. [Next] をクリックします。



インストールが開始されます。

13. [Stack Builder may be used to download and install additional tools, drivers and applications to complement your PostgreSQL installation.] のチェックマークを外し、[Finish] をクリックします。



14. [コントロールパネル] > [システムとセキュリティ] > [管理ツール] > [サービス] を起動し、PostgreSQL サービスが [実行中] になっていることを確認します。

データベースを初期化する

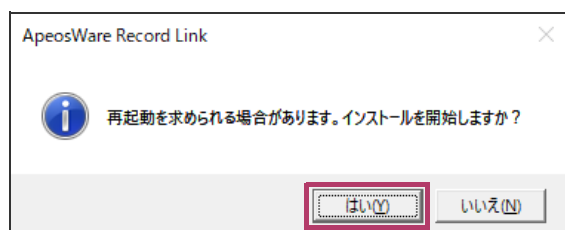
サーバーのデータベースをカスタマイズし、初期テーブルを作成します。

1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。

2. [データベース初期化] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



コマンドプロンプトが自動で起動して、データベースの初期化が開始されます。
データベースの初期化が完了すると、画面が自動で閉じ、Launcherに戻ります。

4. [データベースの初期化] の [インストール済み] 欄にバージョンが表示されたことを確認します。



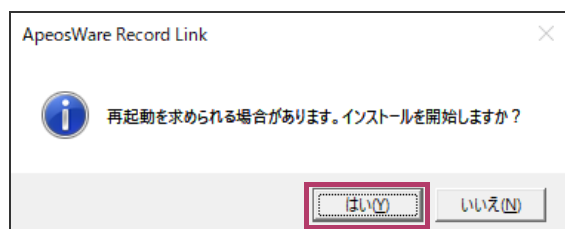
FormDataEntry をインストールする

FormDataEntry をサーバーにインストールします。

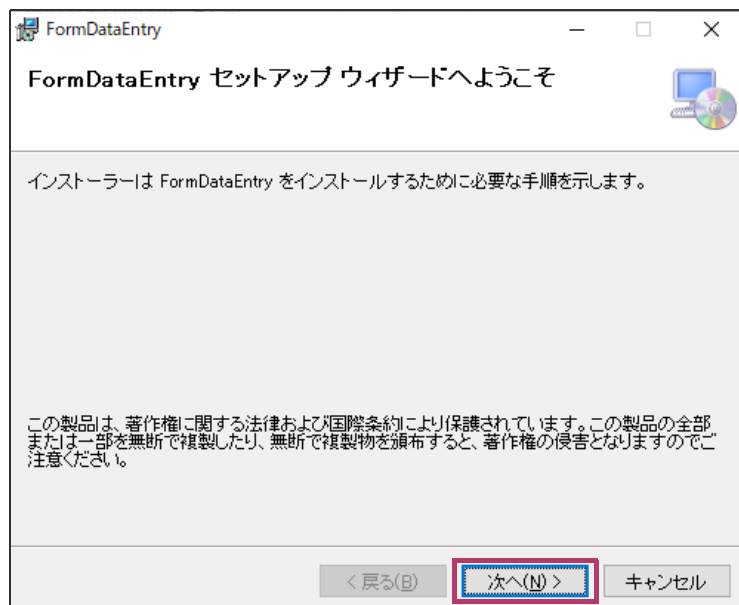
1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。
2. [FormDataEntry] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



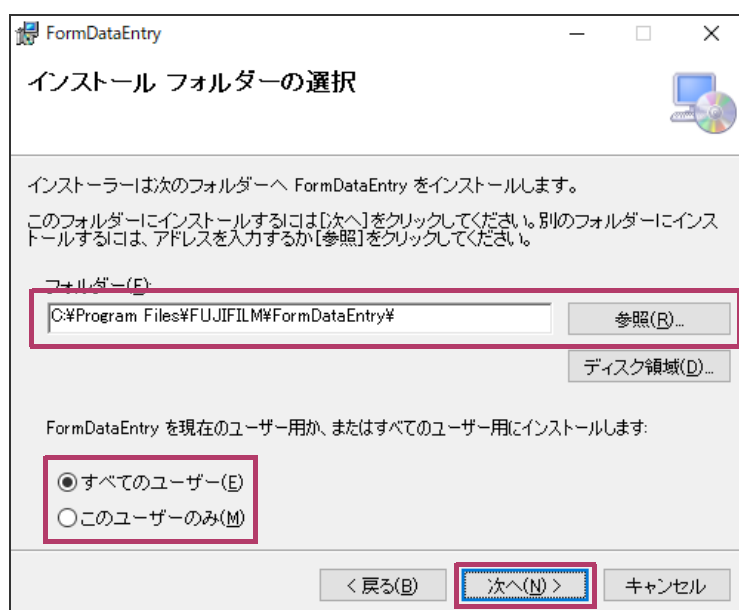
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



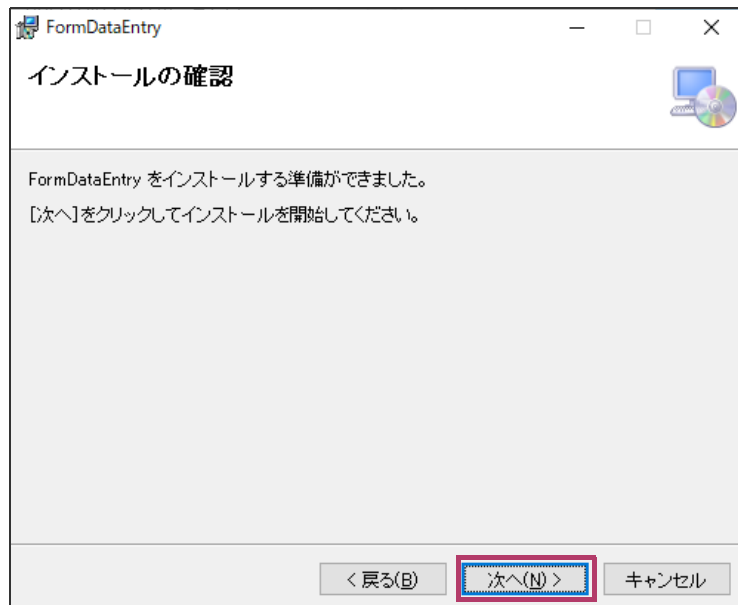
4. [次へ] をクリックします。



5. インストールする場所を指定し、[すべてのユーザー] または [このユーザーのみ] を選択して、[次へ] をクリックします。

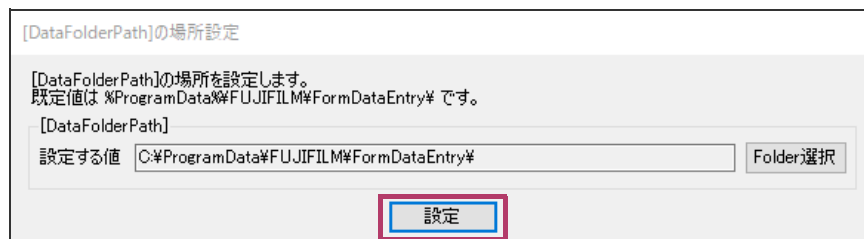


6. [次へ] をクリックします。

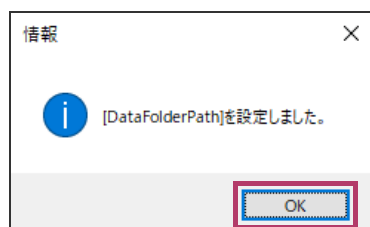


インストールが実行されます。

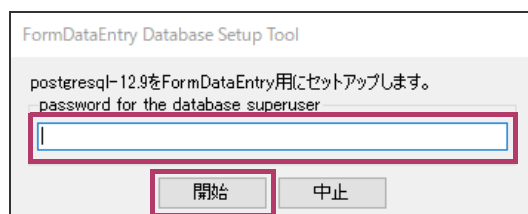
7. [設定] をクリックします。



8. メッセージを確認し、[OK] をクリックします。

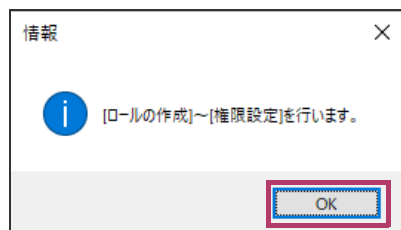


9. データベースのパスワードを入力し、[開始] をクリックします。

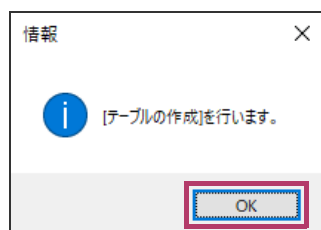


初期パスワードは、「P@ssw0rd」です。

10. メッセージを確認し、[OK] をクリックします。

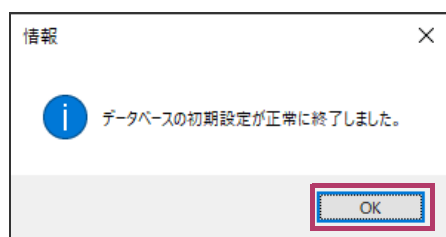


11. メッセージを確認し、[OK] をクリックします。

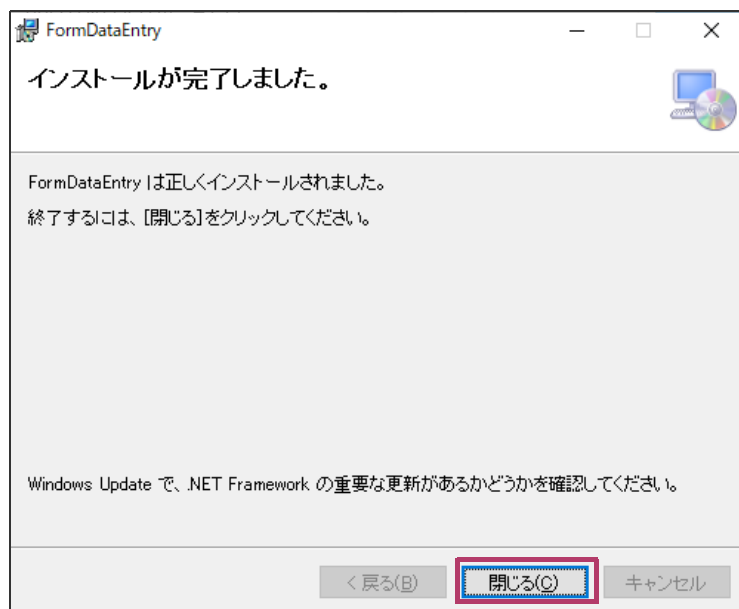


12. [使用可能なデータベース一覧を表示] ダイアログボックスが表示された場合は、[OK] をクリックします。

13. 次のメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。



14. [閉じる] をクリックします。



15. [コントロールパネル] > [システムとセキュリティ] > [管理ツール] > [サービス] を起動し、次のサービスが[実行中]になっていることを確認します。

- FUJIFILM FormDataEntry Job Manager Service

Web 登録サービスをインストールする

Web 登録サービスをサーバーにインストールします。

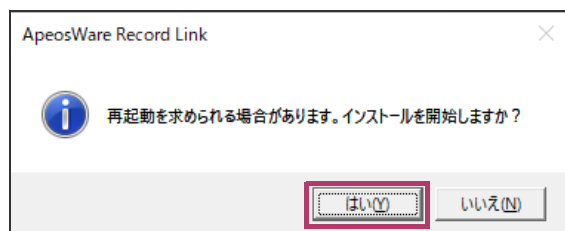


Apeos シリーズ、ApeosPro シリーズの複合機を使用する場合は、Web 登録サービスから原紙登録や情報抽出を行います。

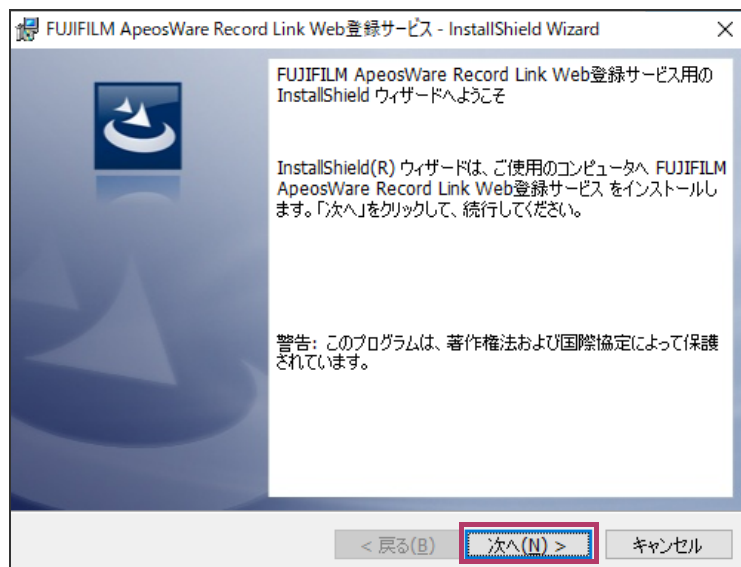
1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。
2. [Web 登録サービス] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



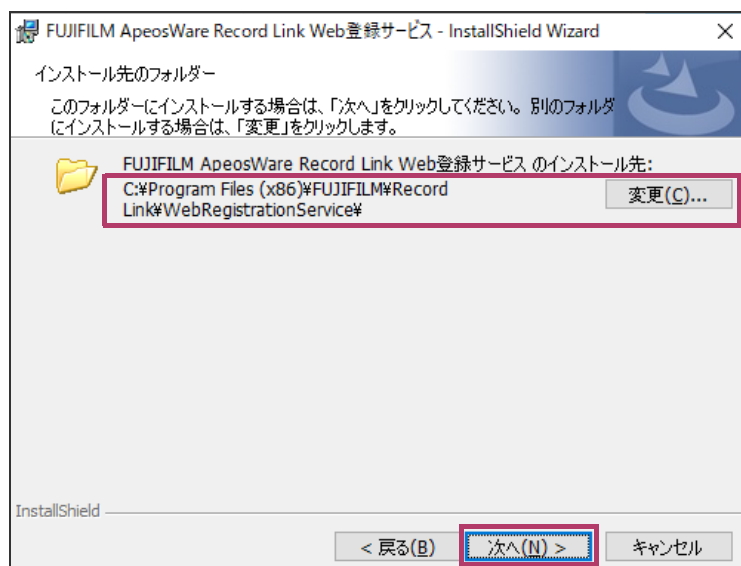
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



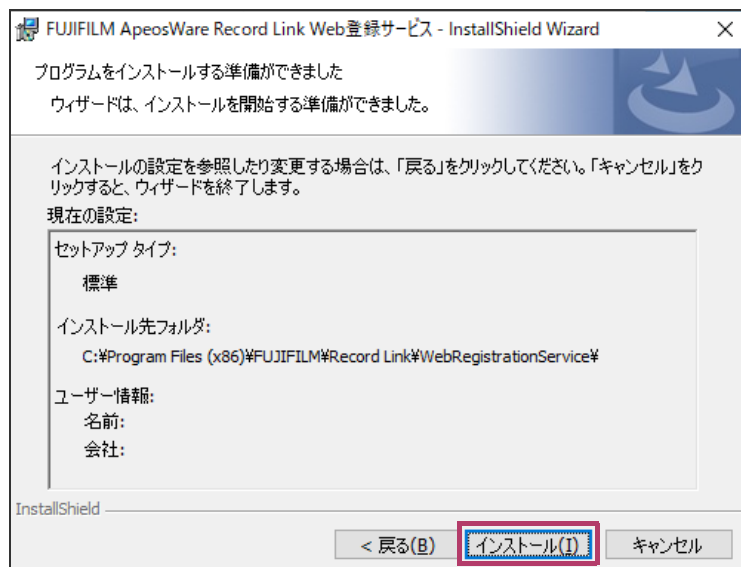
4. [次へ] をクリックします。



5. インストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。



6. 現在の設定内容を確認し、[インストール] をクリックします。

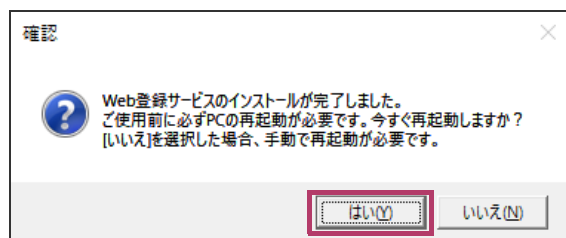


インストールが開始されます。

7. [完了] をクリックします。



8. 他に起動しているアプリケーションがあれば終了し、[はい] をクリックします。



サーバー が再起動します。



注記

- ・ インストール完了後は再起動が必要です。
- ・ 「今すぐ再起動しますか」の確認画面で [はい] をクリックすると、強制的に PC が再起動します。[はい] をクリックする前に、起動しているアプリケーションを必ず終了してください。

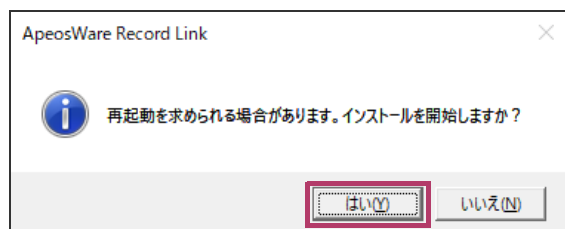
レコードオペレーターをインストールする

ContentsBridge Utility をインストールし、そのあとレコードオペレーターをインストールします。サーバーにインストールします。

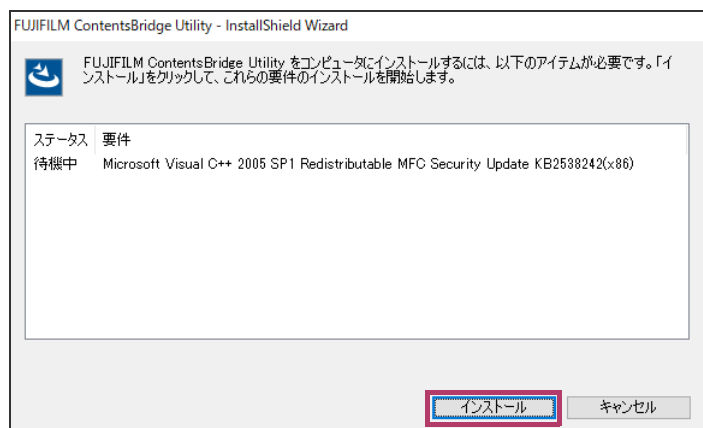
1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。
2. [レコードオペレーター] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



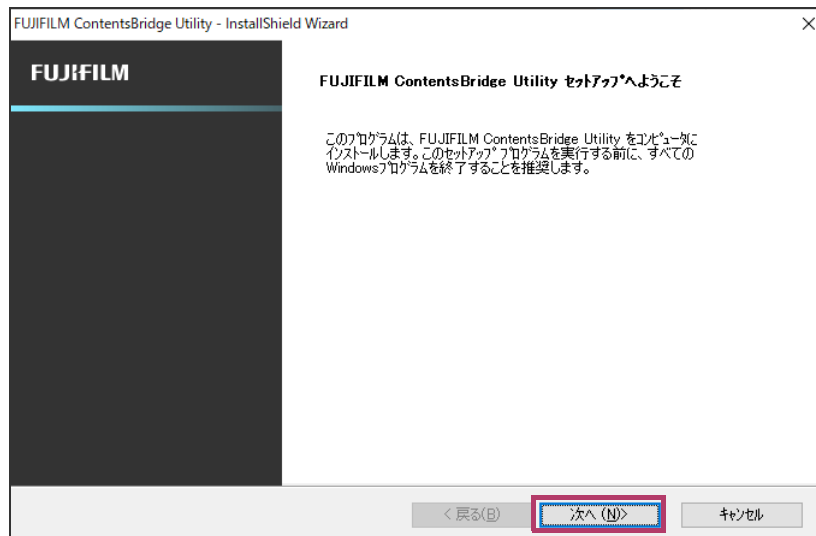
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



4. インストールされるプログラムを確認し、[インストール] をクリックします。



5.最初に ContentsBridge Utility for Windows をインストールします。
[次へ] をクリックします。



6.内容を確認し、[はい] をクリックします。

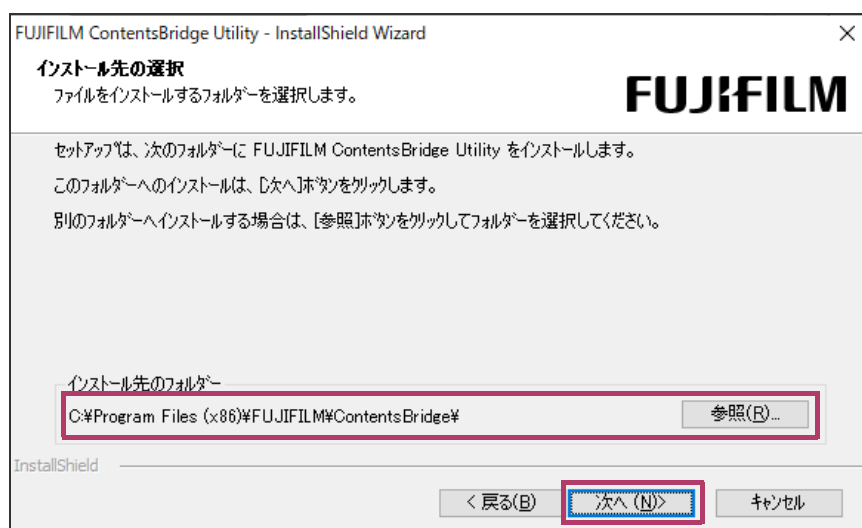


7. 次の操作をします。

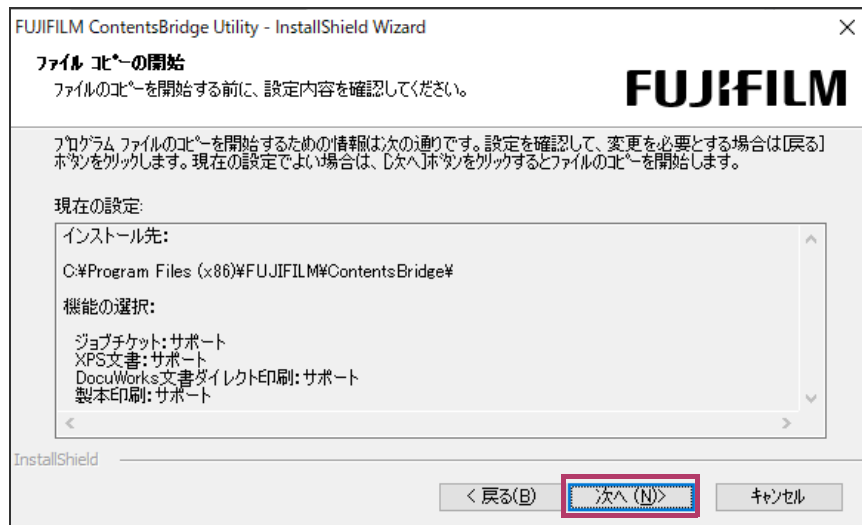
1. [全て選択] をクリックし、すべての機能にチェックマークが付いたことを確認します。
2. [次へ] をクリックします。



8. ContentsBridge Utility をインストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。

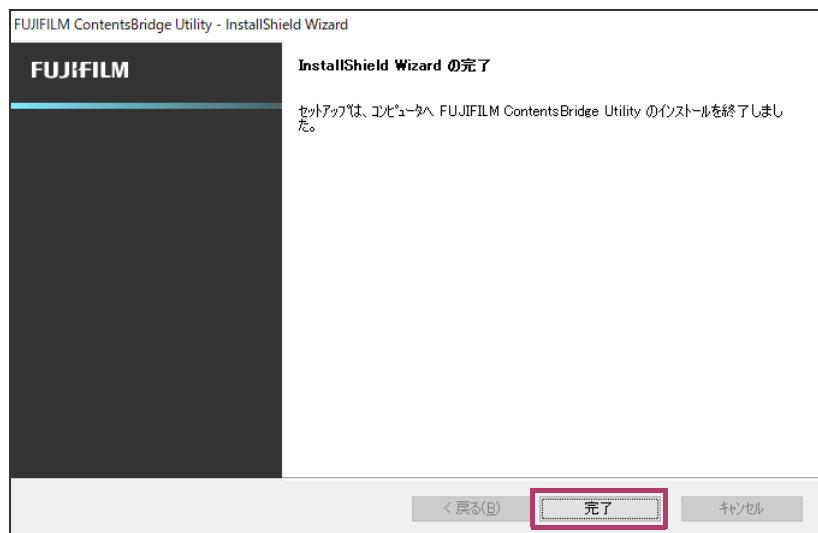


9. 現在の設定内容を確認し、[次へ] をクリックします。

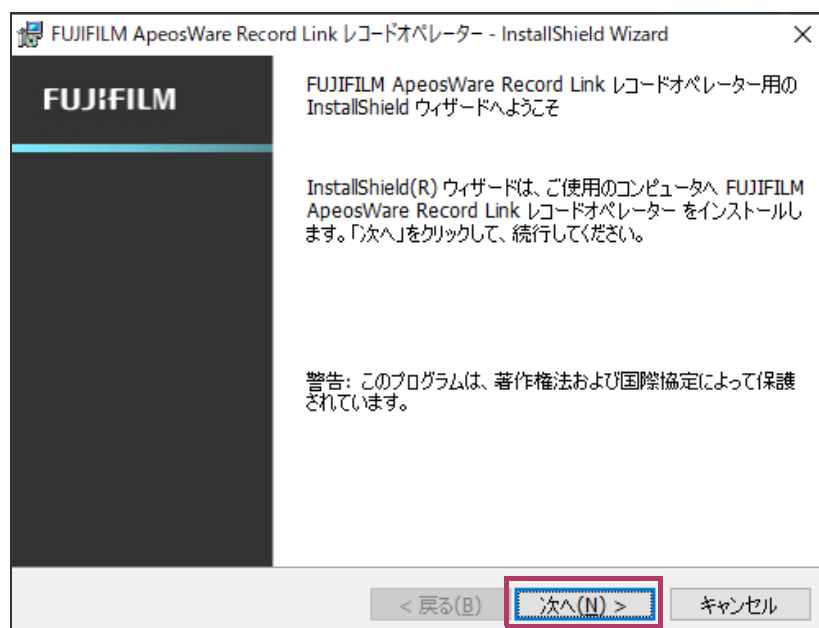


インストールが開始されます。

10. [完了] をクリックします。



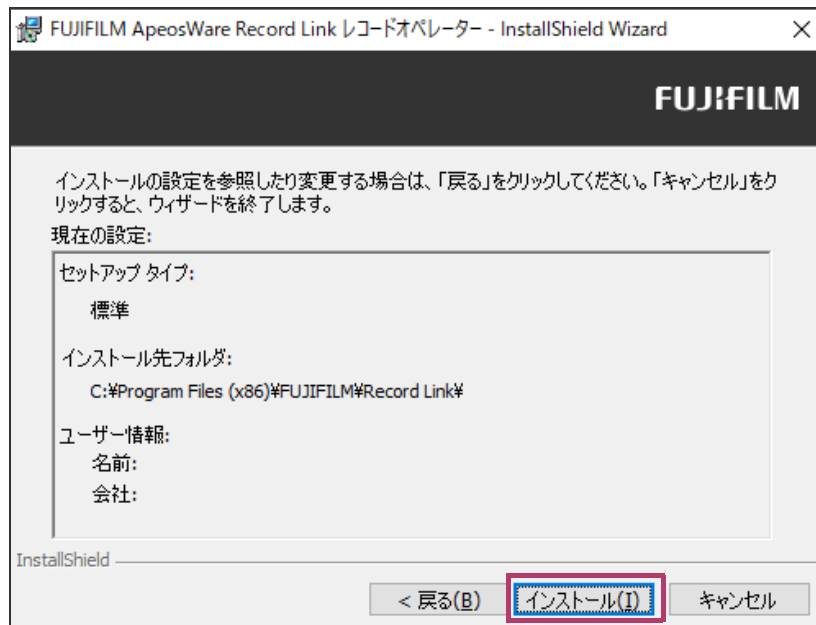
11. 次に、レコードオペレーターをインストールします。
[次へ] をクリックします。



12. レコードオペレーターをインストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。

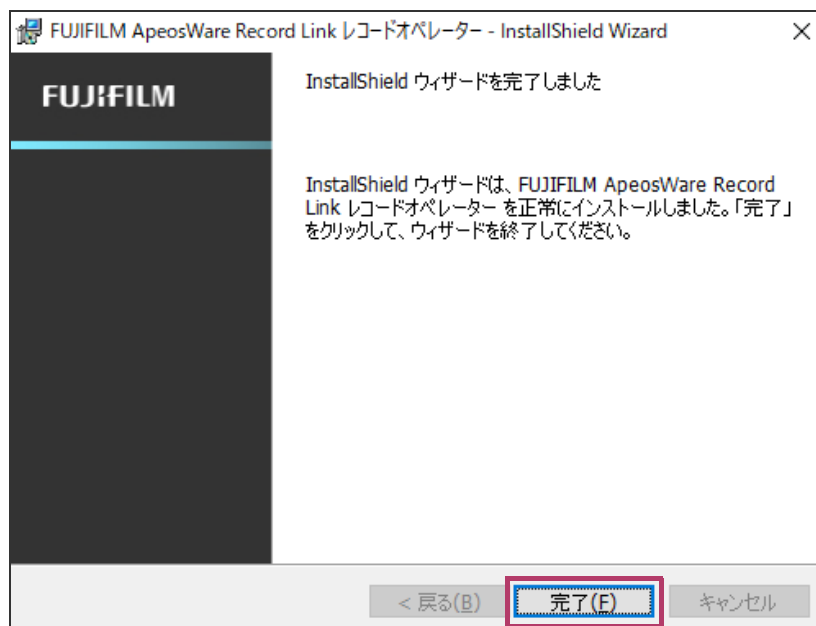


13. 現在の設定内容を確認し、[インストール] をクリックします。



インストールが開始されます。

14. [完了] をクリックします。



レコードデザイナーをインストールする

レコードデザイナーは、サーバー、クライアント PC どちらにもインストールできます。それぞれの操作について説明します。

サーバーにインストールする場合

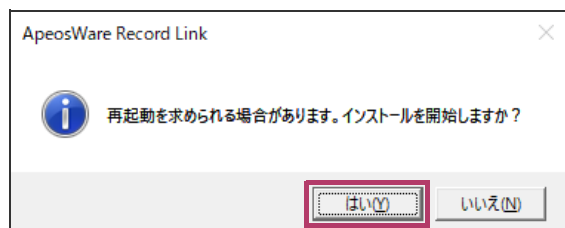
レコードデザイナーをサーバー にインストールします。

1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。

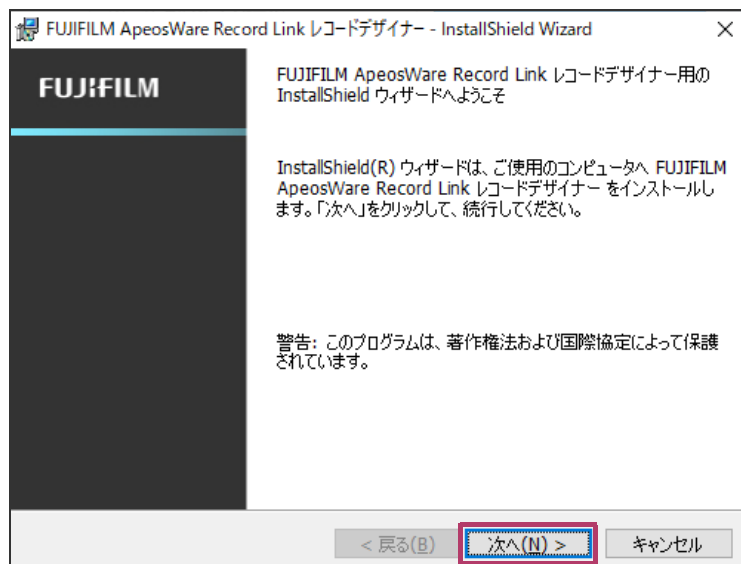
2. [レコードデザイナー] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



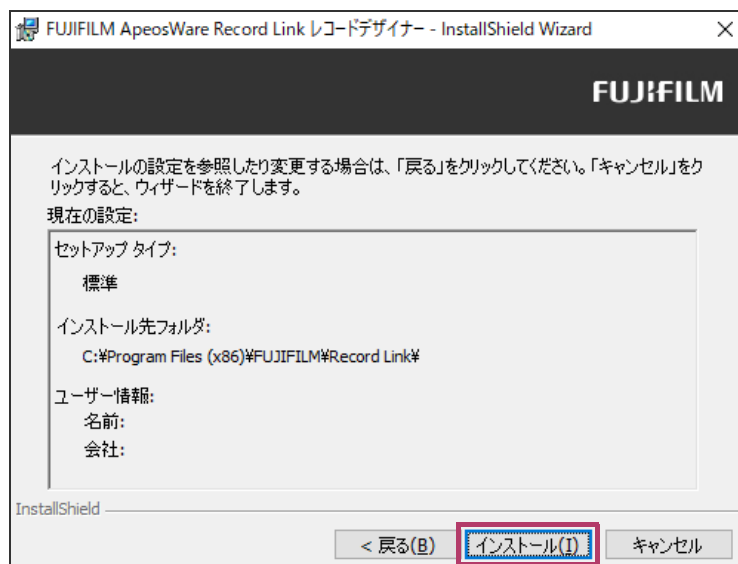
4. [次へ] をクリックします。



5. インストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。

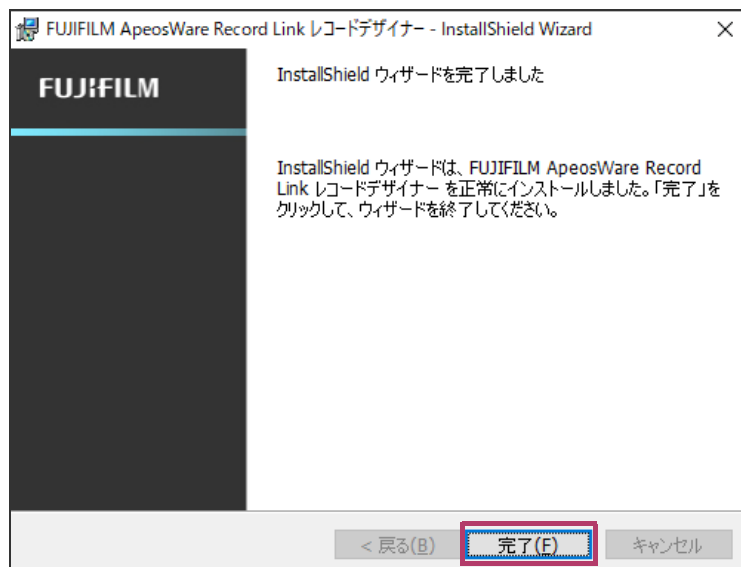


6. 現在の設定内容を確認し、[インストール] をクリックします。



インストールが開始されます。

7. [完了] をクリックします。



クライアント PC にインストールする場合

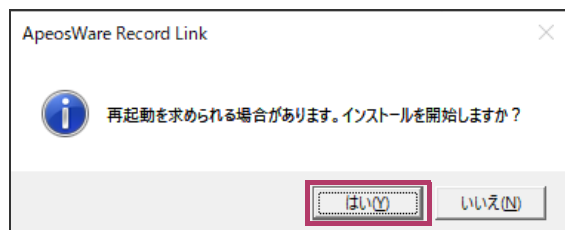
クライアント PC にインストールする場合は、ContentsBridge Utility とレコードデザイナーをインストールします。

この操作は、管理者権限で実行します。管理者権限で実行するには、Launcher を右クリックすると出てくるメニューから、[管理者として実行] を選択します。

1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。
2. [レコードデザイナー] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



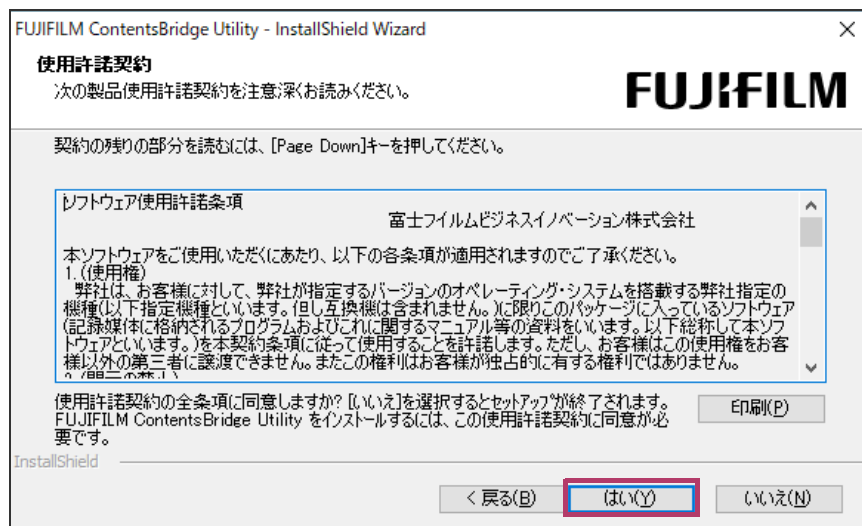
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



4. 最初に ContentsBridge Utility for Windows をインストールします。 [次へ] をクリックします。



5. 内容を確認し、[はい] をクリックします。



6. 次の操作をします。

1. [全て選択] をクリックし、すべての機能にチェックマークが付いたことを確認します。
2. [次へ] をクリックします。



7. ContentsBridge Utility をインストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。

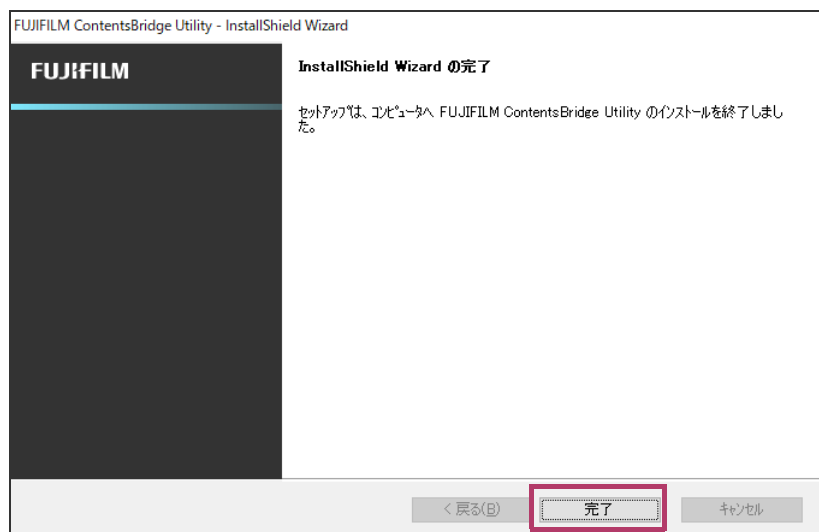


8. 現在の設定内容を確認し、[次へ] をクリックします。



インストールが開始されます。

9. [完了] をクリックします。



10. 次にレコードデザイナーをインストールします。
[次へ] をクリックします。



11. インストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。

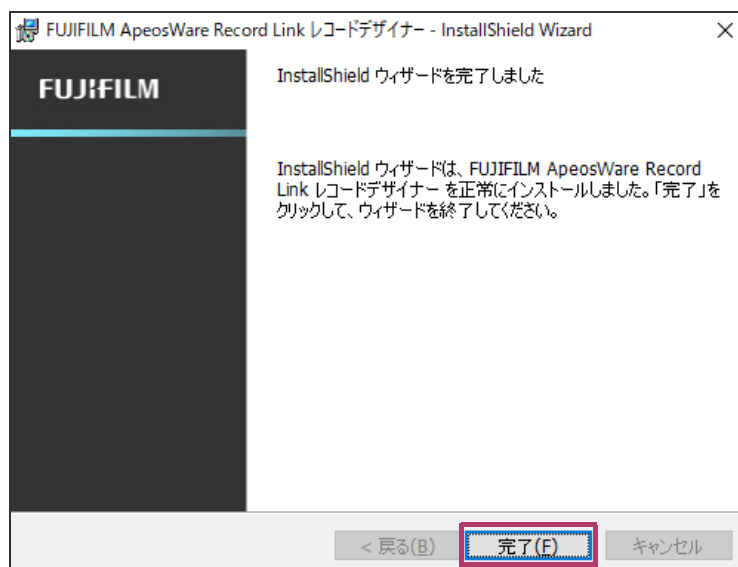


12. 現在の設定内容を確認し、[インストール] をクリックします。



インストールが開始されます。

13. [完了] をクリックします。



Input Service をインストールする

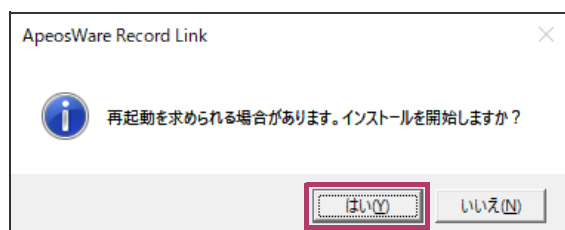
Input Service を、サーバー にインストールします。

1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。

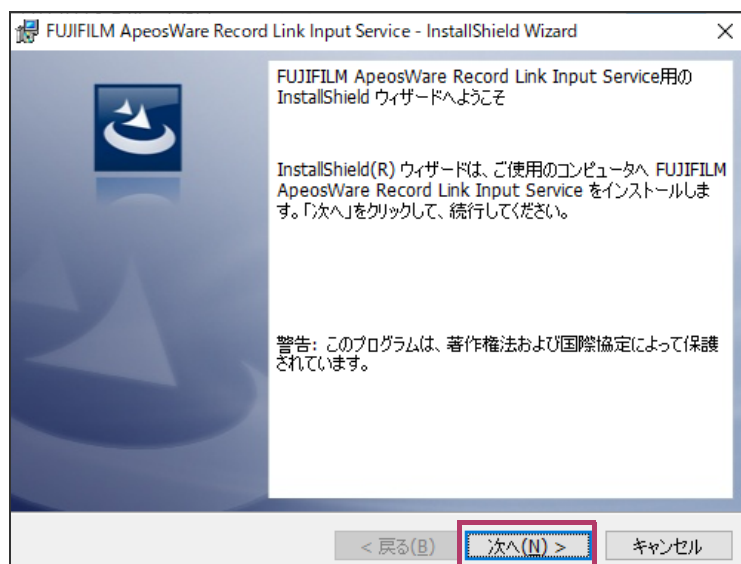
2. [Input Service] を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



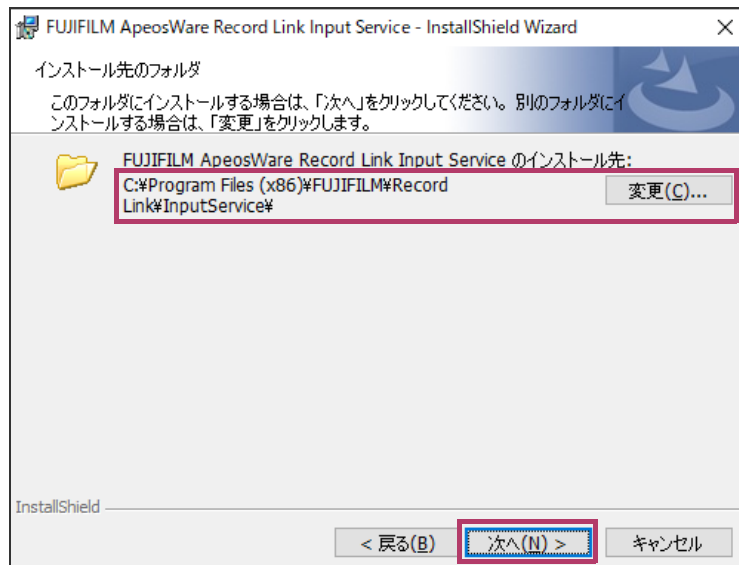
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



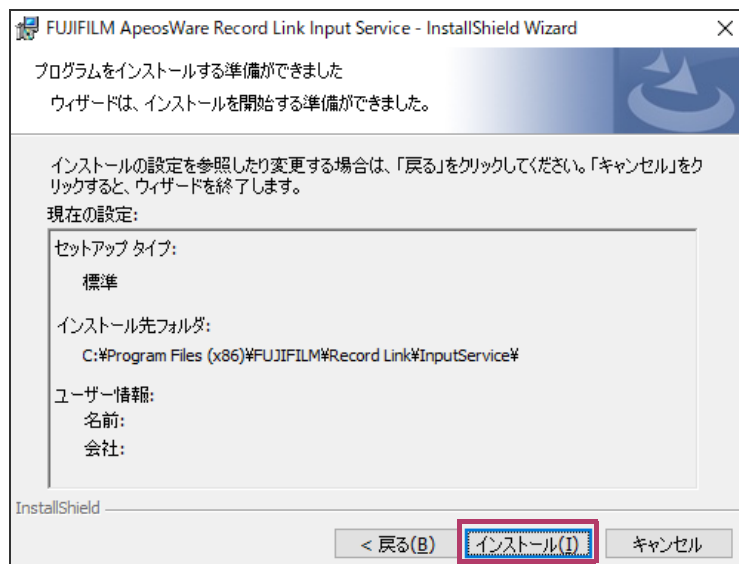
4. [次へ] をクリックします。



5. インストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。

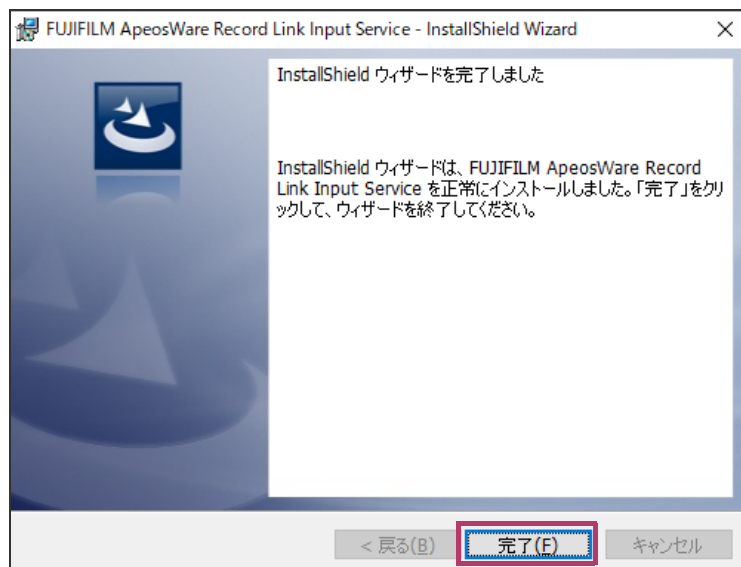


6. 現在の設定内容を確認し、[インストール] をクリックします。



インストールが開始されます。

7. [完了] をクリックします。



ツールをインストールする

次のツールを、サーバーまたはクライアント PC にインストールします。

- ・ 設定管理ツール
- ・ 障害情報取得ツール

クライアント PC にインストールする場合は、管理者権限で実行します。管理者権限で実行するには、Launcher を右クリックすると出てくるメニューから、[管理者として実行] を選択します。



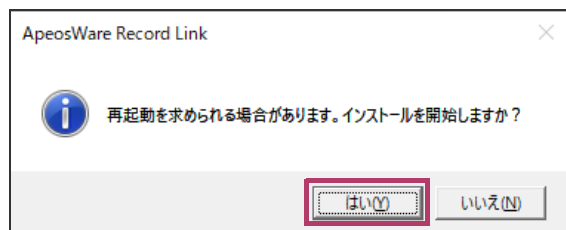
補足

このマニュアルではサーバーにインストールする操作手順を説明しています。

1. ApeosWare Record Link メディアから、Record Link Launcher を起動します。
2. インストールするツールを選択し、[起動／インストール] をクリックします。



3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。



4. [次へ] をクリックします。

5. インストールするフォルダーを指定し、[次へ] をクリックします。

6. 現在の設定内容を確認し、[インストール] をクリックします。 インストールが開始されます。

7. [完了] をクリックします。

インストール結果を確認する

すべてのインストールが終了したら、Record Link Launcher の [インストール済み] 欄に、インストールしたソフトウェアのバージョンが表示されることを確認します。

サーバーの場合



クライアント PC の場合



4 サーバーの初期設定

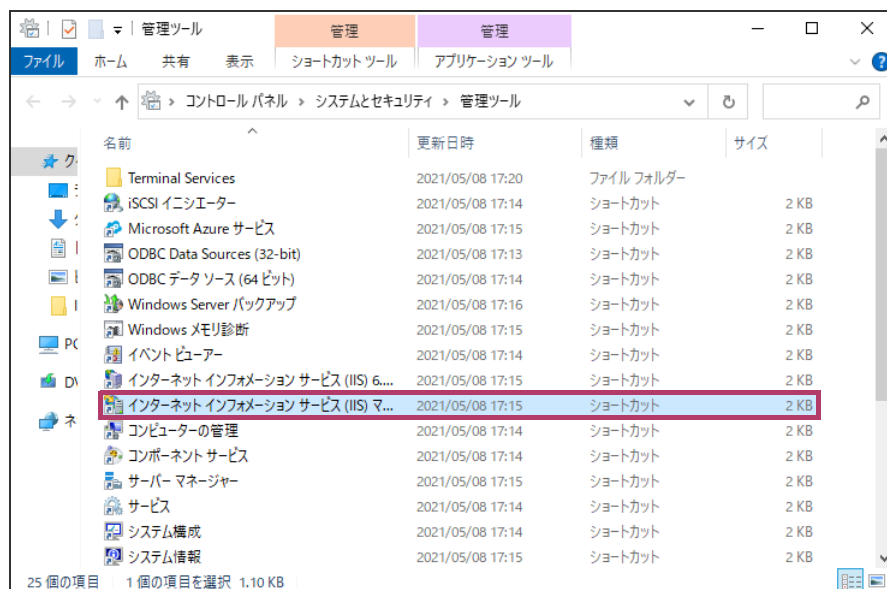
リサイクル条件を設定する

IIS の WWW サイト全体に、IIS が監視する Record Link の Web アプリケーションの設定を行います。Record Link を安定して動作させるための設定です。

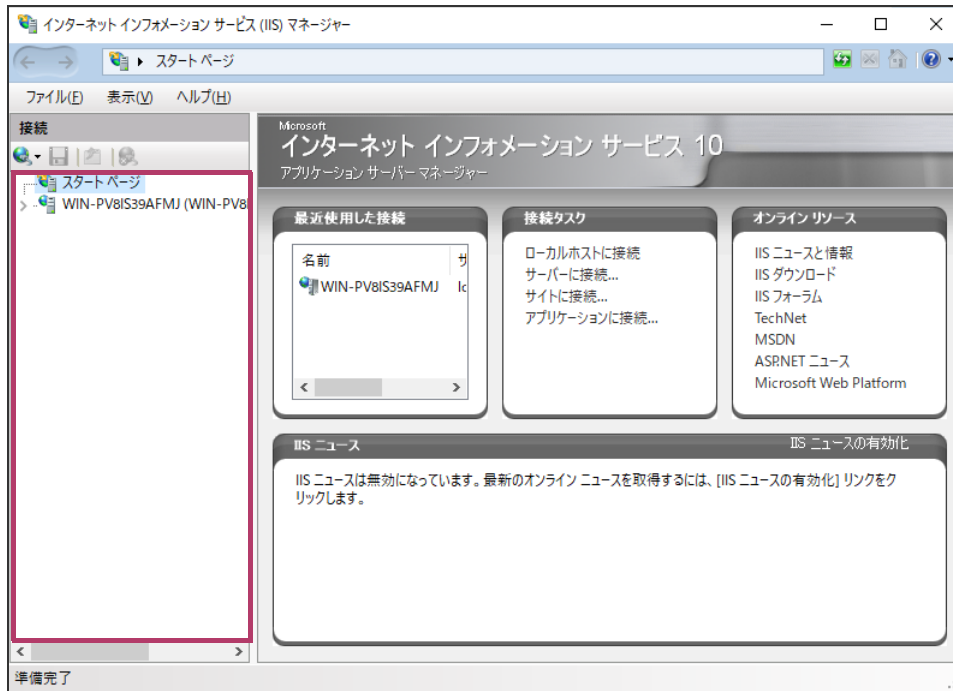


サーバー だけ設定します。

1. [コントロールパネル] > [システムとセキュリティ] > [管理ツール] を開きます。
2. [インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャー] をダブルクリックします。



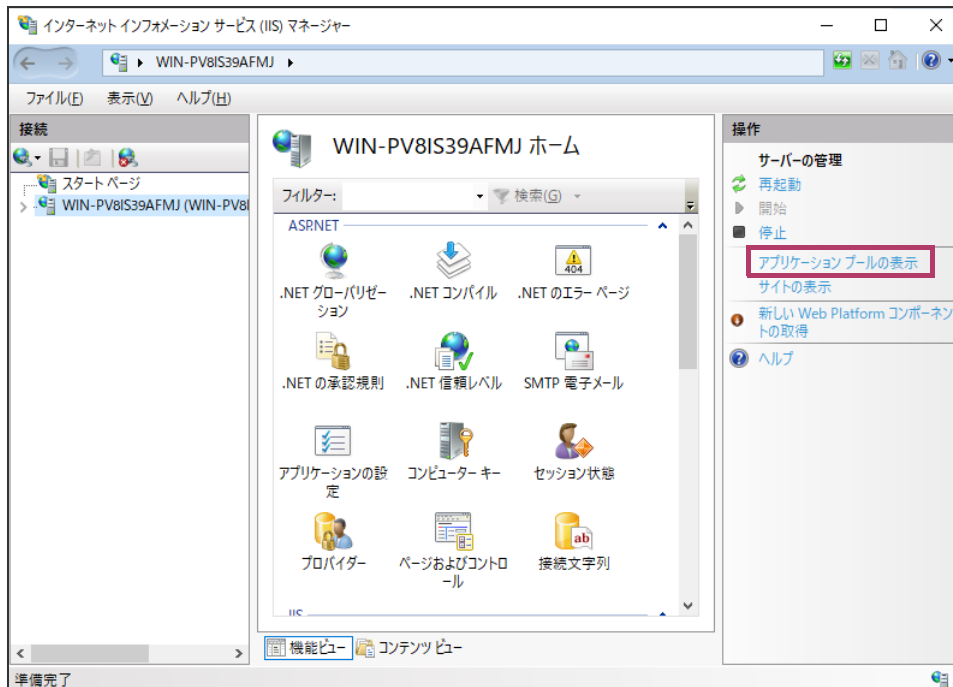
3. 左側の [接続] メニューから、PC を選択します。



補足

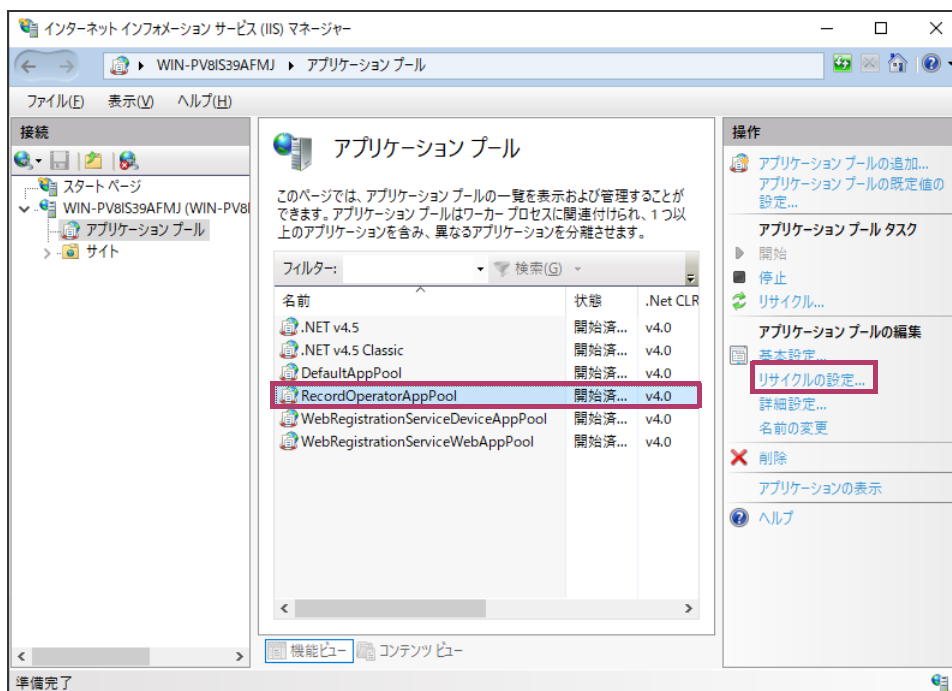
「Microsoft Web Platform を使用開始するかどうか」の確認ダイアログボックスが表示された場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

4. 右側の [操作] メニューから、[アプリケーション プールの表示] をクリックします。



5. [アプリケーション プール] 画面で、次の操作をします。

1. 一覧から [RecordOperatorAppPool] を選択します。
2. 右側の [操作] メニューから [リサイクルの設定] をクリックします。



6. [リサイクル条件] 画面で、次の操作をします。

1. [定期的な期間] のチェックマークを外します。
2. [特定の時間] にチェックマークを付け、任意の時間を入力します。

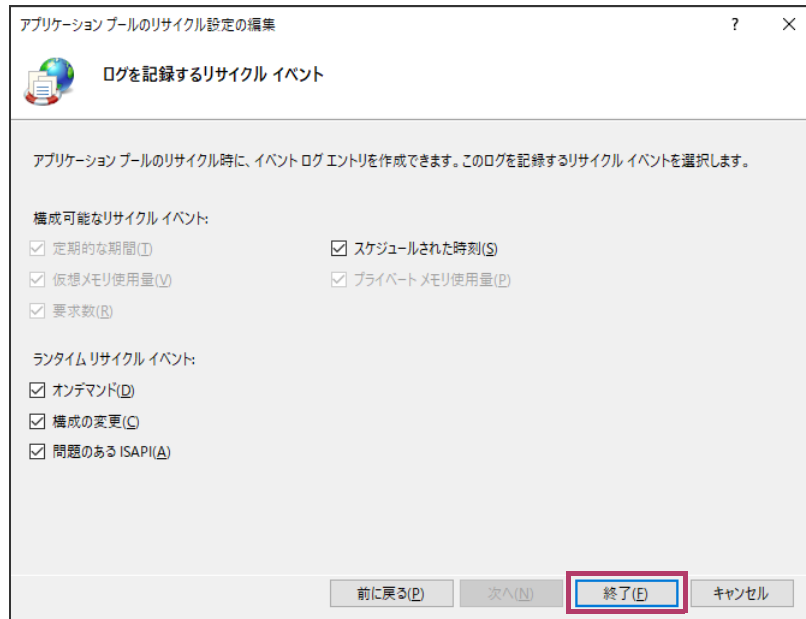


注記

Record Link を使用しない時間を指定してください。また、指定した時間帯は Record Link 上で操作を行わないでください。データに不整合が発生する可能性があります。

3. [次へ] をクリックします。

7. [終了] をクリックします。



8. [アプリケーション プール] 画面の一覧にある「WebRegistrationServiceDeviceAppPool」および「WebRegistrationServiceWebAppPool」についても同様に、手順5～7を繰り返してリサイクル条件を設定します。

クライアント PC から台帳データベースへの接続を設定する

Windows ファイアウォールを利用している場合、クライアント PC のレコードデザイナーから PostgreSQL に接続するための除外設定をします。



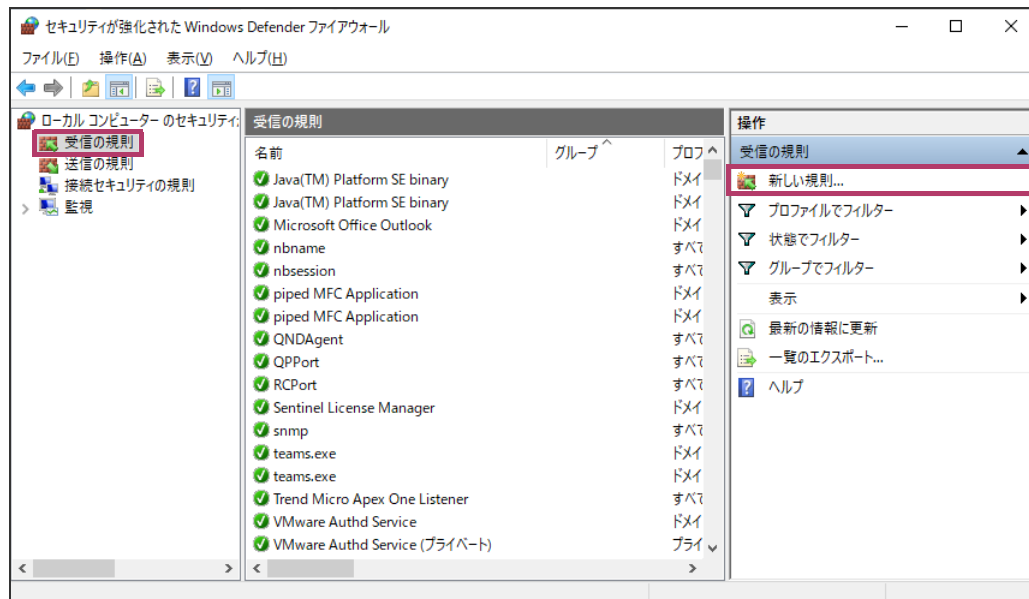
補足

サーバーだけ設定します。

ファイアウォールを設定する

1. [コントロールパネル] > [システムとセキュリティ] > [Windows ファイアウォール] を開きます。
2. [詳細設定] をクリックします。

3. 左側のメニューから【受信の規則】を選択し、右側の操作メニューから【新しい規則】をクリックします。



4. 次の操作をします。

1. 【ポート】を選択します。
2. 【次へ】をクリックします。



5. 次の操作をします。

1. [TCP] を選択します。
2. [特定のローカルポート] に「5432」を入力します。
3. [次へ] をクリックします。

新規の受信の規則ウィザード

プロトコルおよびポート
この規則を適用するプロトコルとポートを指定してください。

ステップ:

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

TCP と UDP のどちらにこの規則を適用しますか?

☒ TCP(T) ☐ UDP(U)

すべてのローカル ポートと特定のローカル ポートのどちらを対象にこの規則を適用するかを選択してください。

☐ すべてのローカル ポート(A) ☒ 特定のローカル ポート(S): 5432

199.80.44.0/24 60000-60100

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. 次の操作をします。

1. [接続を許可する] を選択します。
2. [次へ] をクリックします。

新規の受信の規則ウィザード

操作
規則で指定された条件を接続が満たす場合に、実行される操作を指定します。

ステップ:

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

接続が指定の条件に一致した場合に、どの操作を実行しますか?

☒ 接続を許可する(A)
IPsec を使用して保護された接続と保護されていない接続の両方を含みます。

☐ セキュリティで保護されている場合のみ接続を許可する(C)
IPsec を使用して認証された接続のみを含みます。接続は、IPsec プロパティ内の設定と接続セキュリティ規則ノード内の規則を使用して、セキュリティ保護されます。

カスタマイズ(Z)

☐ 接続をブロックする(K)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. 次の操作をします。

1. すべての項目にチェックマークを付けます。
2. [次へ] をクリックします。

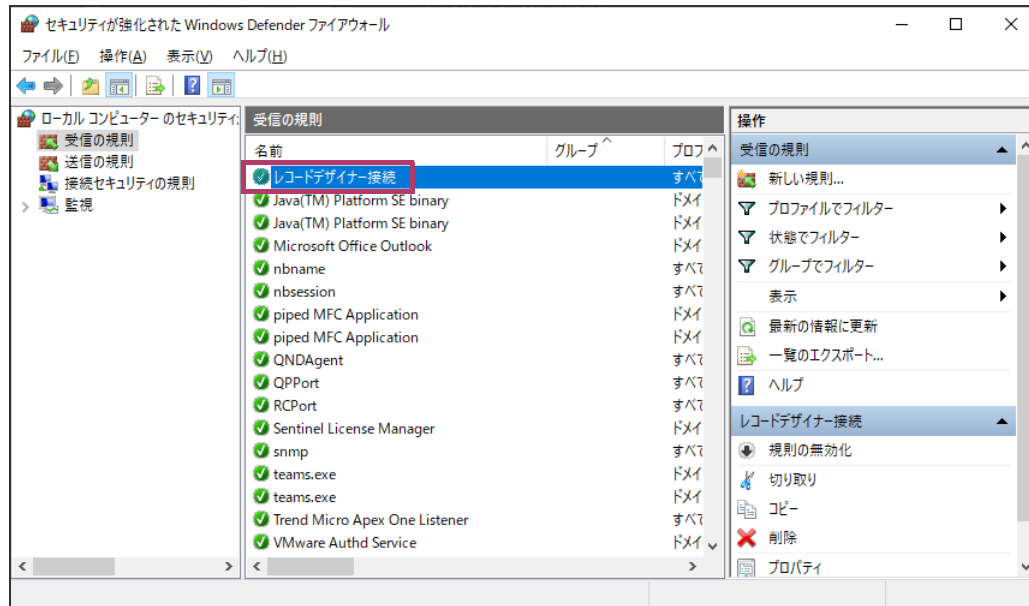


8. 次の操作をします。

1. [名前] に任意の文字列を入力します。
2. [完了] をクリックします。



9. [受信の規則] 一覧に、作成した内容が登録されていることを確認します。



PostgreSQL の接続を設定する



注記

- ・ Config ファイル（{PostgreSQL インストールディレクトリ} ¥data¥pg_hba.conf）は編集前にコピーし、バックアップを作成してください。
- ・ 指定できる IP アドレスは、IPv4 形式だけです。

1. 「{PostgreSQL インストールディレクトリ} ¥data¥pg_hba.conf」をメモ帳で開きます。



補足

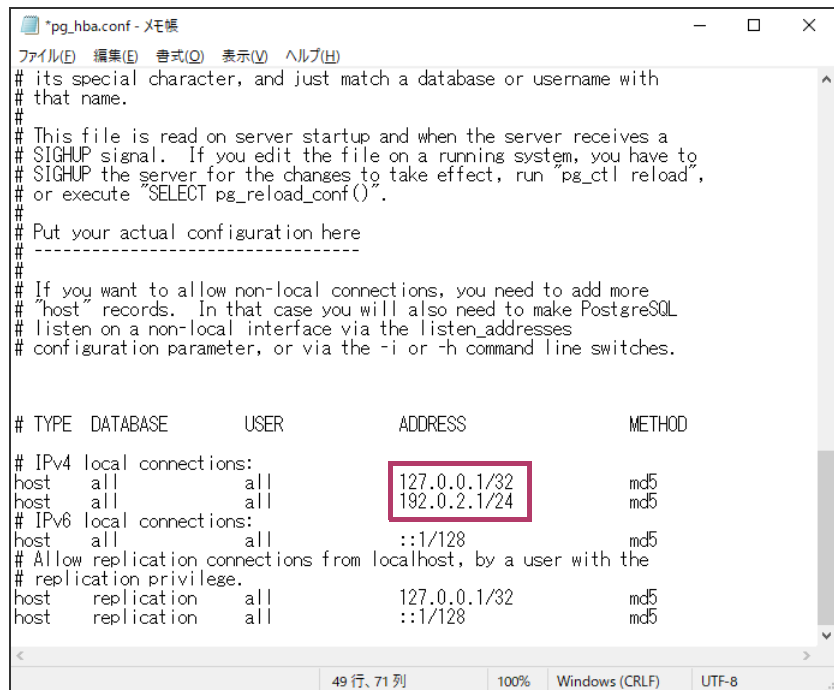
PostgreSQL インストールディレクトリの初期値は次のとおりです。
「C:¥Program Files¥PostgreSQL¥14」

2. アクセス可能な IP ネットワークアドレスの範囲を指定します。

「#IPv4 local connections:」の次の行の「ADDRESS」の値を変更します。

設定例：

アクセス可にするホストの IP アドレスを指定する場合	192.0.2.1 255.255.255.0
アクセス可にするホストの IP アドレスの範囲を指定する場合	192.0.2.0/24 上記の例の場合、192.0.2.0 ～ 192.0.2.255 の範囲で有効になります。



```
# its special character, and just match a database or username with
# that name.
#
# This file is read on server startup and when the server receives a
# SIGHUP signal. If you edit the file on a running system, you have to
# SIGHUP the server for the changes to take effect, run "pg_ctl reload",
# or execute "SELECT pg_reload_conf()".
#
# Put your actual configuration here
#-----
#
# If you want to allow non-local connections, you need to add more
# "host" records. In that case you will also need to make PostgreSQL
# listen on a non-local interface via the listen_addresses
# configuration parameter, or via the -i or -h command line switches.


# TYPE DATABASE USER ADDRESS METHOD
# IPv4 local connections:
host all all 127.0.0.1/32 md5
host all all 192.0.2.1/24 md5
# IPv6 local connections:
host all all ::1/128 md5
# Allow replication connections from localhost, by a user with the
# replication privilege.
host replication all 127.0.0.1/32 md5
host replication all ::1/128 md5
```

3. [ファイル] メニューから [上書き保存] を選択し、ファイルを閉じます。

複合機を設定する

複合機の画面から帳票の情報抽出または原紙登録を利用するために、環境を設定します。
外部アクセスキットが設定されている必要があります。

複合機の外部アクセスを設定する

1. 複合機に機械管理者でログインします。

Apeos シリーズ、ApeosPro シリーズの場合：

⚙️ > [設定] > [アプリ設定] > [外部アクセス設定] > [接続先の登録]

ApeosPort シリーズの場合：

[仕様設定／登録] > [仕様設定] > [外部アクセス設定] > [接続先の登録]

2. 手順 1 で表示された画面から登録できる場所を選択します。

3. 次の内容を登録します。

1. 原紙登録

- 接続先名：原紙登録（例）
- URL：
http-v5p0://{Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス}/WebRegistrationService-Device/
Menu?work=OriginalForm
- 本体／認証情報の通知：通知する
- 接続先のサーバー種別：ApeosiiX 準拠

2. 情報抽出

- 接続先名：情報抽出（例）
- URL：
http-v5p0://{Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス}/WebRegistrationService-Device/
Menu?work=Ocr
- 本体／認証情報の通知：通知する
- 接続先のサーバー種別：ApeosiiX 準拠

外部アクセスを複合機のボタンに登録する

1. 複合機に機械管理者でログインします。

2. 次の操作をします。

- メニュー画面の下に [カスタマイズ] がある機種

[カスタマイズ] をタップして、設定します。

- それ以外の機種

[仕様設定／登録] > [仕様設定] > [共通設定] > [画面／ボタンの設定] > [メニュー画面の機能配列]
から、複合機の外部アクセスの設定を任意のボタンに登録します。

設定管理ツールで設定する

設定管理ツールを使って、Record Link サーバーで設置後に必要な設定をします。

設定管理ツールは、Record Link のさまざまな設定をするツールです。ここでは、最初に設定が必要な項目について説明します。その他の設定については、「設定管理ツールの設定」(P.107) を参照してください。

設定管理ツールを起動する

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM] > [Record Link 設定管理ツール] を選択して、設定管理ツールを起動します。
2. [接続確認エラー] ダイアログボックスが表示された場合は [OK] をクリックし、データベースへの接続情報を入力して [更新] をクリックします。

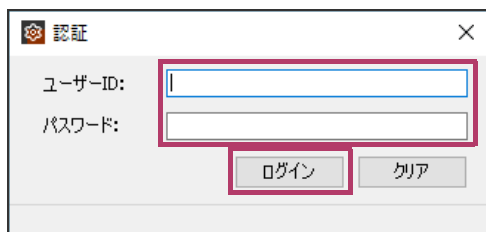
3. [認証] ダイアログボックスで、次の操作をします。

1. システム管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。



システム管理者の [ユーザー ID] および [パスワード] の初期値は「admin」です。これらの値は、設定管理ツールで変更できます。ユーザー ID とパスワードの変更方法は、「システム管理者パスワードを変更する」(P.134) を参照してください。

2. [ログイン] をクリックします。



出力する複合機を設定する

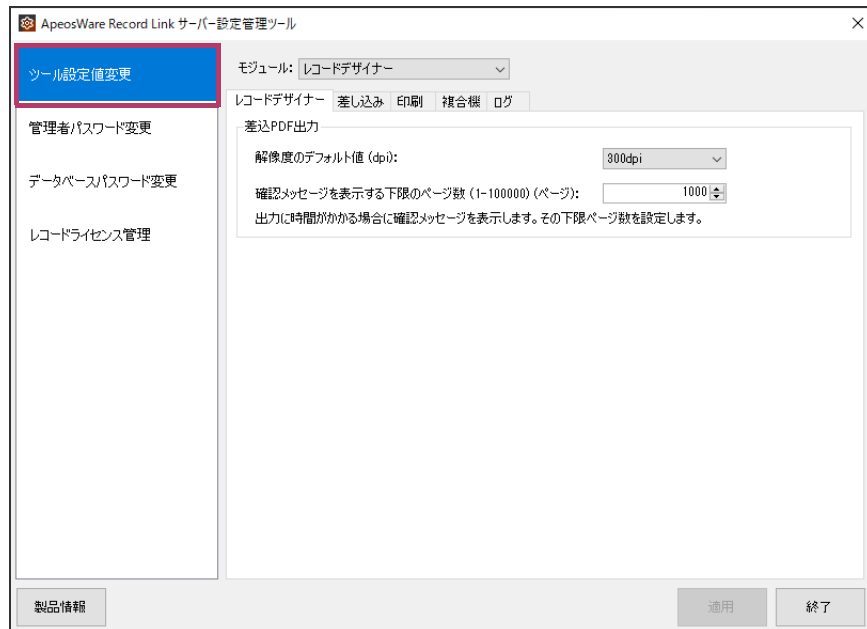
レコードデザイナーおよびレコードオペレーターで使用する複合機を設定します。

1. 設定管理ツールを起動し、システム管理者でログインします。



「設定管理ツールを起動する」(P.61)

2. [ツール設定値変更] を選択します。



3. レコードデザイナーで使用する複合機を設定します。

1. [モジュール] から [レコードデザイナー] を選択します。
2. [複合機] タブを選択します。
3. [使用可能な複合機] エリアで、使用する複合機にチェックマークを付けます。

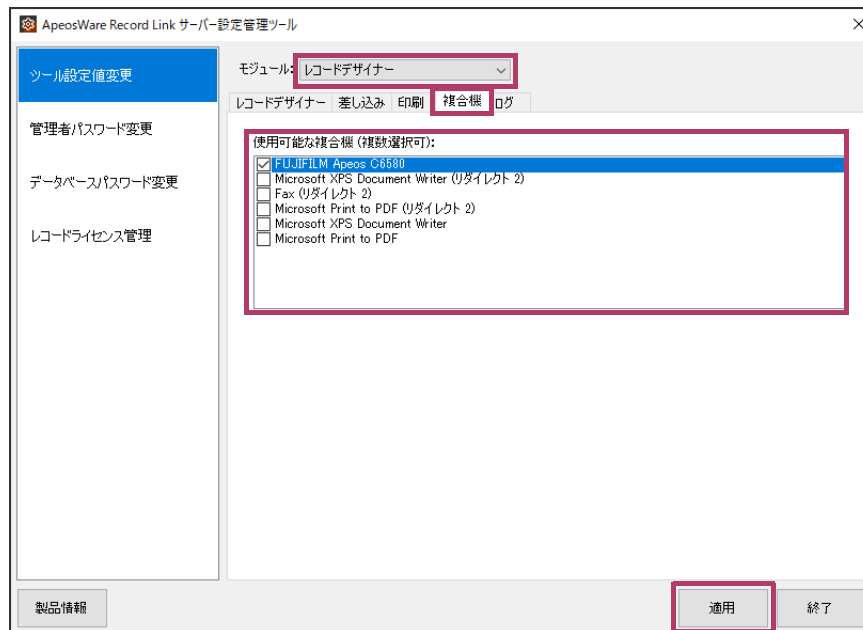


ContentsBridge Utility がサポートしている複合機以外を設定した場合は、エラーになります。



【使用可能な複合機】は複数選択できます。

4. 【適用】 をクリックします。



「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

5. 【はい】 をクリックします。

設定が反映されます。

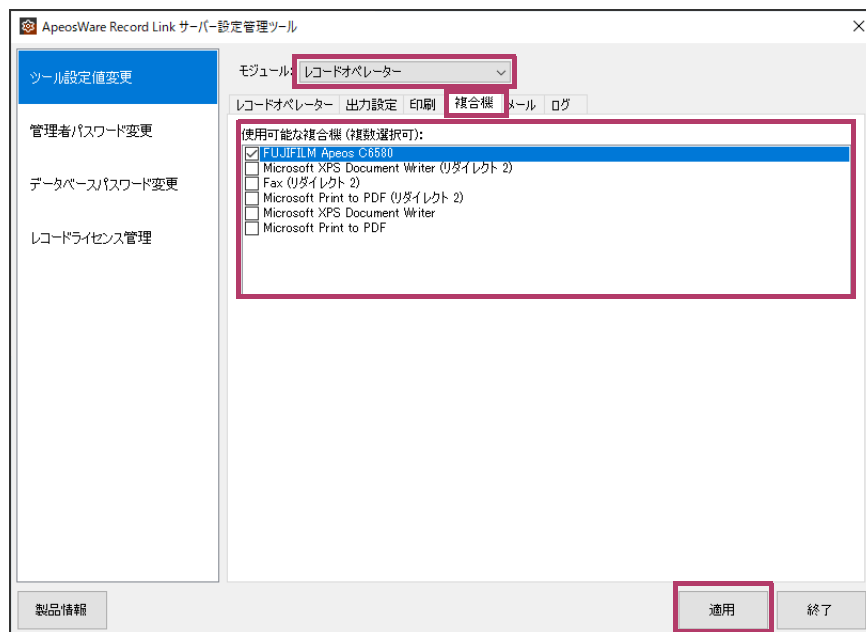
4. レコードオペレーターで使用する複合機の設定をします。

1. 【モジュール】 から【レコードオペレーター】を選択します。
2. 【複合機】 タブを選択します。
3. 【使用可能な複合機】 エリアで、使用する複合機にチェックマークを付けます。



【使用可能な複合機】は複数選択できます。

4. [適用] をクリックします。



「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

5. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

メール通知を設定する

レコードオペレーターや Web 登録サービスで、エラー時にメールを送信するように設定するには、次の操作をします。



メール通知されるタイミングは次のとおりです。

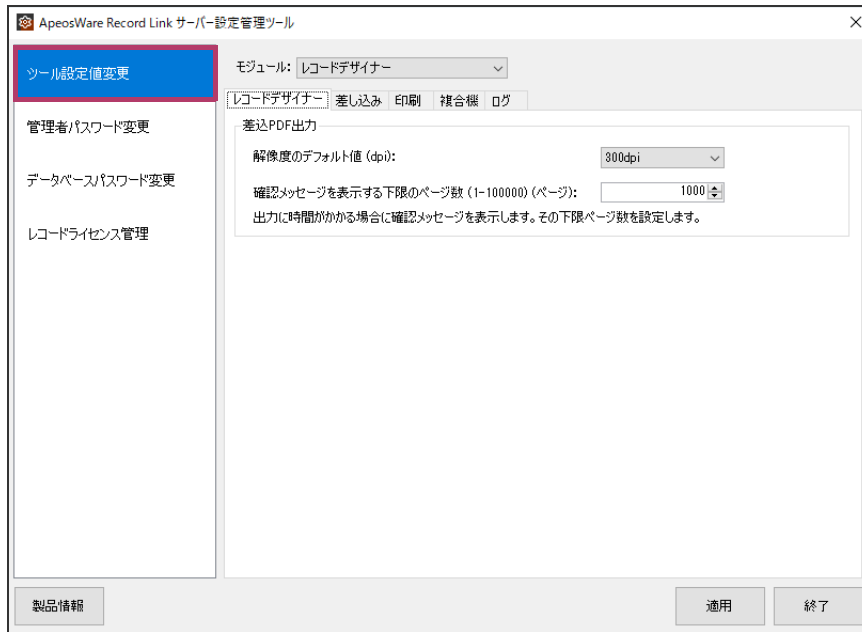
- ・ スキャン処理に失敗した場合
- ・ 情報抽出処理に失敗した場合

1. 設定管理ツールを起動し、システム管理者でログインします。



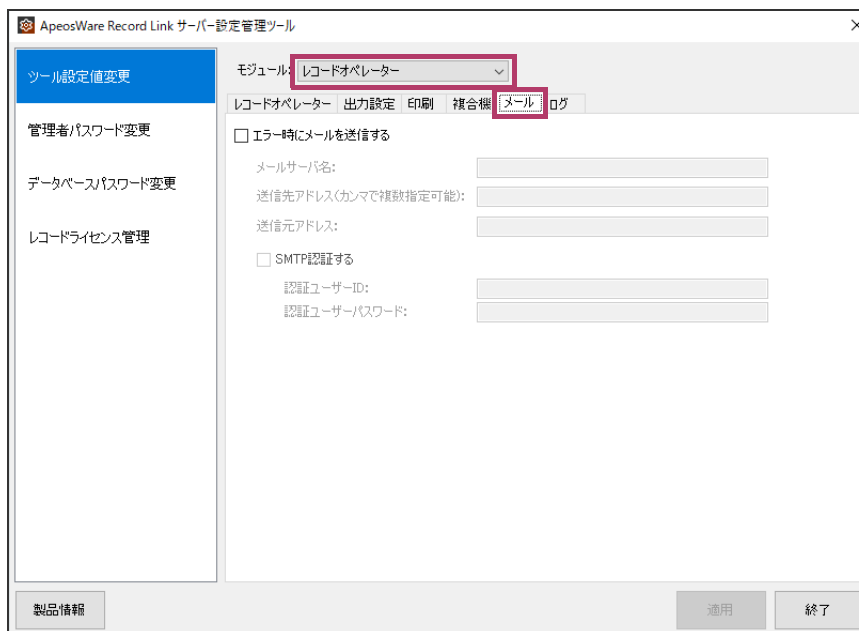
「設定管理ツールを起動する」(P.61)

2. [ツール設定値変更] を選択します。

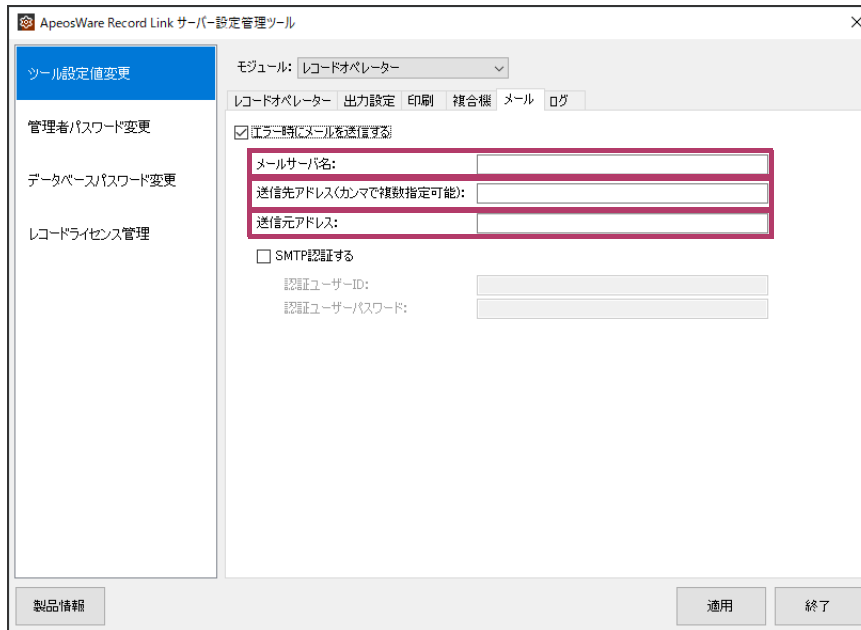


3. レコードオペレーターのメール通知を設定します。

1. モジュールから [レコードオペレーター] を選択します。
2. [メール] タブを選択します。

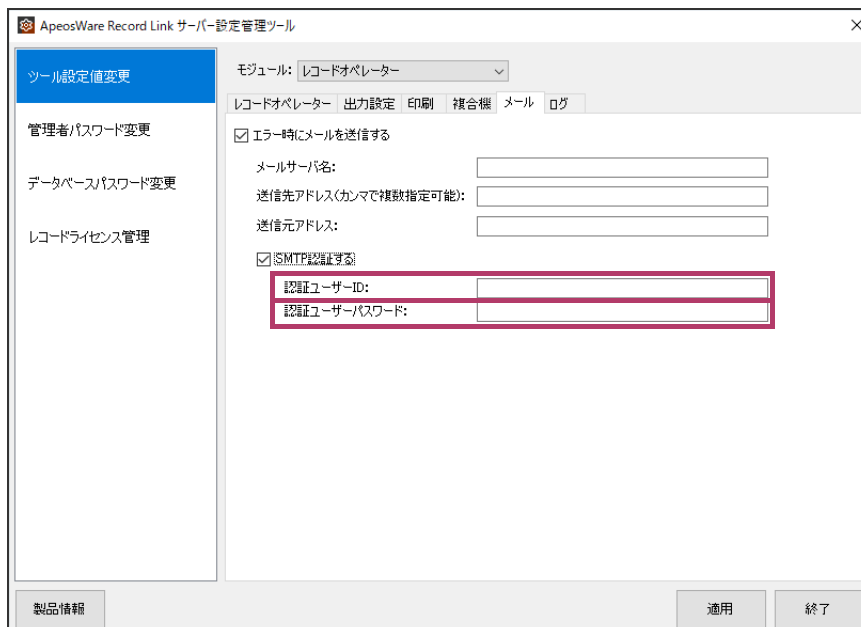


3. [エラー時にメールを送信する] にチェックマークを付け、次を設定します。



項 目	説 明
メールサーバ名	メールサーバー名を入力します。
送信先アドレス	送信先のアドレスを入力します。カンマ (,) を使うことで、複数のアドレスを指定できます。
送信元アドレス	送信元のアドレスを入力します。

4. SMTP 認証をする場合は、[SMTP 認証する] にチェックマークを付け、次を設定します。



項 目	説 明
認証ユーザー ID	SMTP 認証のユーザー ID を入力します。
認証ユーザーパスワード	SMTP 認証のユーザーパスワードを入力します。

5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

4. Web 登録サービスのメール通知を設定します。

1. [モジュール] から [Web 登録サービス] を選択します。

2. [メール] タブを選択します。

ApeosWare Record Link サーバ設定管理ツール

モジュール: Web 登録サービス

FormDataEntry連携 | 入力画面 | RecordLinkMonitor | **メール** | ログ

☐ エラー時にメールを送信する

メールサーバ名:

送信先アドレス(カンマで複数指定可能):

送信元アドレス:

☐ SMTP認証する

認証ユーザーID:

認証ユーザーパスワード:

製品情報 | 適用 | 終了

3. [エラー時にメールを送信する] にチェックマークを付け、次を設定します。

ApeosWare Record Link サーバ設定管理ツール

モジュール: Web 登録サービス

FormDataEntry連携 | 入力画面 | RecordLinkMonitor | **メール** | ログ

☒ エラー時にメールを送信する

メールサーバ名:

送信先アドレス(カンマで複数指定可能):

送信元アドレス:

☐ SMTP認証する

認証ユーザーID:

認証ユーザーパスワード:

製品情報 | 適用 | 終了

項 目	説 明
メールサーバ名	メールサーバー名を入力します。
送信先アドレス	送信先のアドレスを入力します。カンマ (,) を使うことで、複数のアドレスを指定できます。

項 目	説 明
送信元アドレス	送信元のアドレスを入力します。

4. SMTP 認証をする場合は、[SMTP 認証する] にチェックマークを付け、次を設定します。

The screenshot shows the 'ApeosWare Record Link サーバ設定管理ツール' (Server Setting Management Tool) window. On the left is a sidebar with options like 'Tool Setting Value Change', 'Admin Password Change', 'Database Password Change', and 'Record License Management'. The main area shows settings for the 'Web登録サービス' (Web Registration Service) module. Under the 'メール' (Mail) tab, the 'エラー時にメールを送信する' (Send mail when an error occurs) checkbox is checked. Below it are input fields for 'メールサーバ名' (Mail server name), '送信先アドレス(カンマで複数指定可能):' (Destination address (comma-separated)), and '送信元アドレス:' (Origin address). The 'SMTP認証する' (Enable SMTP authentication) checkbox is also checked. Below this, the '認証ユーザーID:' (Authentication user ID) and '認証ユーザーパスワード:' (Authentication user password) fields are highlighted with a red rectangular box. At the bottom are buttons for '製品情報' (Product information), '適用' (Apply), and '終了' (End).

項 目	説 明
認証ユーザー ID	SMTP 認証のユーザー ID を入力します。
認証ユーザーパスワード	SMTP 認証のユーザーパスワードを入力します。

5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

ライセンスを登録する

オプションのライセンスキーを購入した場合は、次の操作をします。



補足

- ・ Record Link 基本パッケージを購入した場合、台帳レコードの上限は 10000 件です。
- ・ Record Link 基本パッケージを購入した場合は、ライセンスキーの登録は必要ありません。

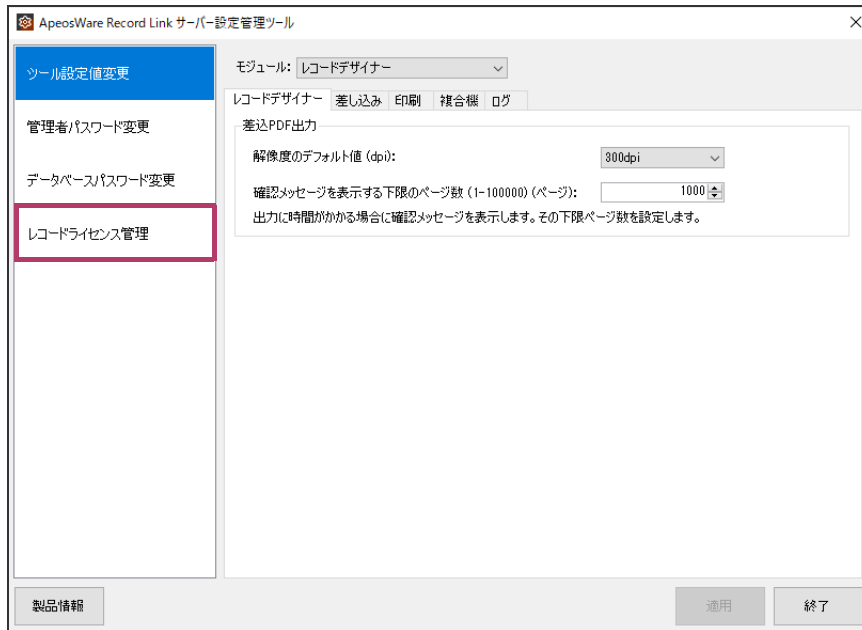
1. 設定管理ツールを起動し、システム管理者でログインします。



参照

「設定管理ツールを起動する」(P.61)

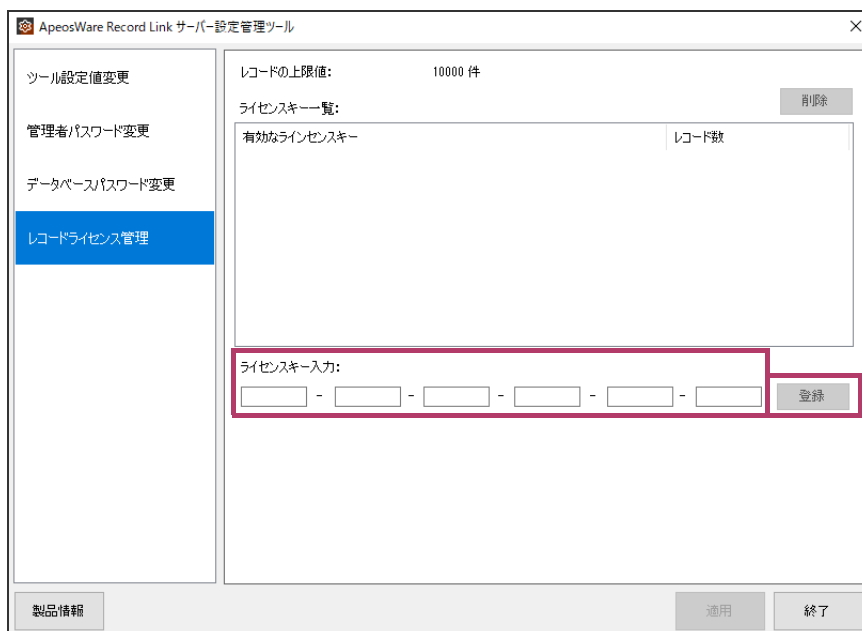
2. [レコードライセンス管理] を選択します。



現在のレコードの上限値や有効なライセンスキーが表示されます。

3. [ライセンスキー入力] エリアに、使用するライセンスキーを入力します。

4. [登録] をクリックします。



5. 「ライセンスキーを登録しますか？」というメッセージを確認し、[はい] をクリックします。 [ライセンスキー一覧] エリアにライセンスキーが登録され、レコードの上限値が上がります。

6. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

7. [はい] をクリックします。 設定が反映されます。

セキュリティ対策ソフトウェアの設定

セキュリティ対策ソフトウェアのリアルタイム検知機能は、Record Link の動作を不安定にするなどパフォーマンスに影響を与えることがあります。

次のファイルおよびフォルダー以下を、除外設定にすることを推奨します。

- ・ {Web 登録サービスのインストール先パス} ¥Web¥Modules¥bin¥
- ・ {Web 登録サービスのインストール先パス} ¥Web¥CoreMgmt¥bin¥
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework¥v4.*¥Config¥Browsers¥
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework64¥v4.*¥Config¥Browsers¥
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework¥v4.*¥Config¥web_hightrust.config
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework¥v4.*¥Config¥web_lowtrust.config
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework¥v4.*¥Config¥web_mediumtrust.config
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework¥v4.*¥Config¥web_minimaltrust.config
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework64¥v4.*¥Config¥web_hightrust.config
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework64¥v4.*¥Config¥web_lowtrust.config
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework64¥v4.*¥Config¥web_mediumtrust.config
- ・ {%SystemRoot%} ¥Microsoft.NET¥Framework64¥v4.*¥Config¥web_minimaltrust.config
- ・ {Web 登録サービスのインストール先パス} ¥Web
- ・ {Web 登録サービスのインストール先パス} ¥Web¥Modules¥Global.asax
- ・ {Web 登録サービスのインストール先パス} ¥Web¥Modules¥web.config
- ・ {Web 登録サービスのインストール先パス} ¥Web¥CoreMgmt¥web.config
- ・ C:¥ProgramData¥FUJIFILM¥Record Link¥
- ・ C:¥ProgramData¥FUJIFILM¥WebRegistrationService¥
- ・ C:¥ProgramData¥FUJIFILM¥Record Link¥WebRegistrationService
- ・ {FormDataEntry インストール時に設定した DataFolder パス} ¥
- ・ C:¥ProgramData¥FUJIFILM¥FormDataEntry¥
- ・ {PostgreSQL のインストール先パス} ¥data¥
- ・ C:¥Users¥ {Windows ユーザー名} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥FormDataEntry¥
- ・ C:¥Users¥ {Windows ユーザー名} ¥Documents¥FUJIFILM¥Record Link¥
- ・ {FormDataEntry の各シナリオで指定した出力フォルダーのパス} ¥
- ・ {PostgreSQL のインストール先パス} ¥data¥



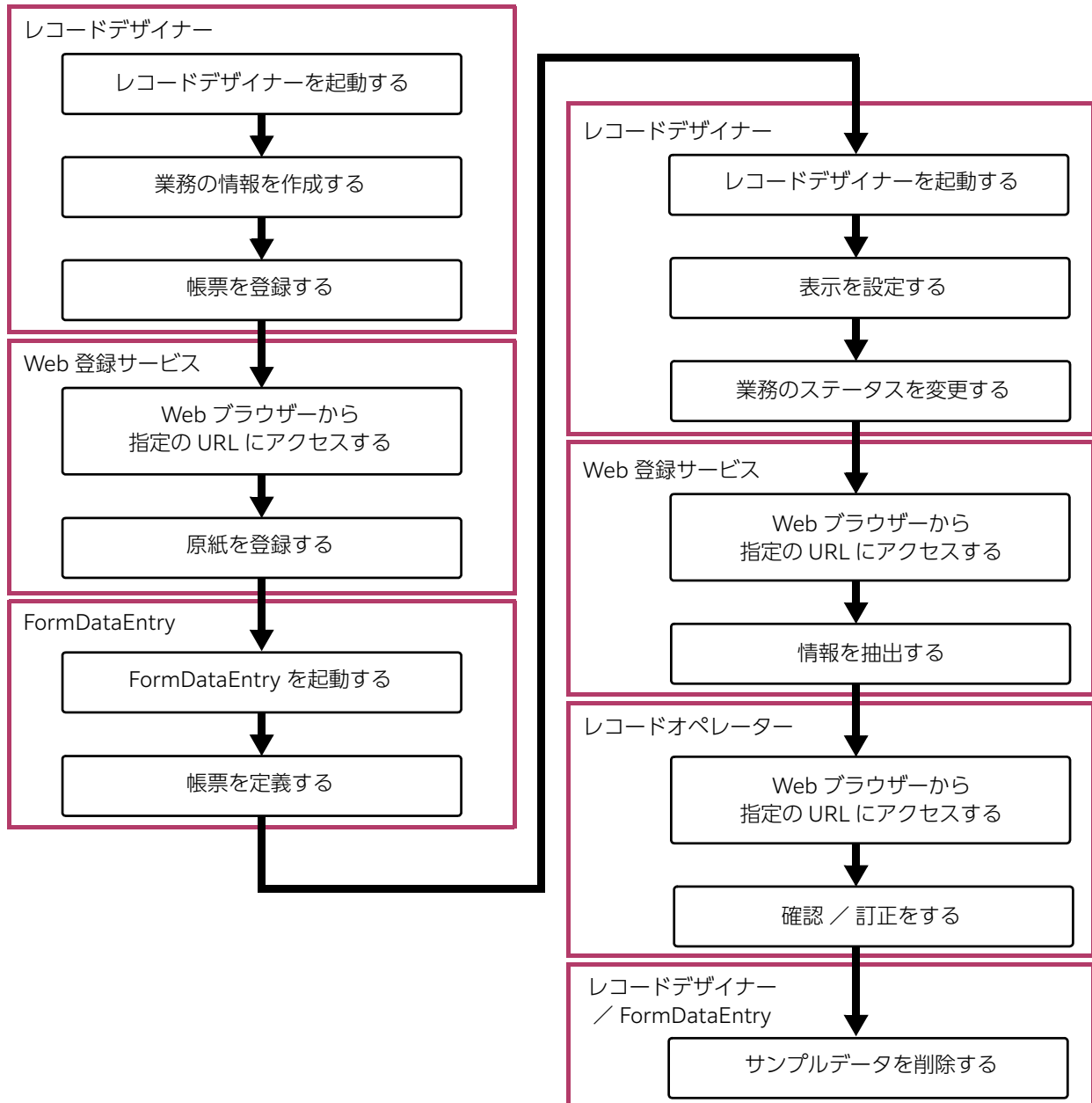
- ・ 「v4.*」 は、「v4.」 から始まるフォルダー名すべてが対象です。
- ・ 「Windows ユーザー名」 はインストール実行時のユーザー名です。

5

サーバーの設置確認

設置の確認の流れ

設置の確認の流れは、次のとおりです。



レコードデザイナーで業務の情報を作成する



サーバーで行います。

1. デスクトップ上にある「Record Link レコードデザイナー」のアイコンをダブルクリックします。
レコードデザイナーが起動します。
2. ログイン画面で次の操作をします。
 1. システム管理者の【ユーザー ID】と【パスワード】を入力します。



システム管理者の【ユーザー ID】および【パスワード】の初期値は「admin」です。これらの値は、設定管理ツールで変更できます。



ユーザー ID とパスワードの変更：「システム管理者パスワードを変更する」(P.134)

2. 【IP アドレス】に、Record Link サーバーのアドレスを入力します。
入力できる IP アドレスは、IPv4 形式だけです。
3. 【ログイン】をクリックします。

システム管理者としてログインします。

3. ユーザーを新しく作成します。
 1. 【ユーザー管理】タブを選択します。
 2. 【新規作成】をクリックします。

3. 【ユーザー ID】、【ユーザー名】、【パスワード】、および【確認パスワード】を入力します。

4. [OK] をクリックします。

ユーザーの新規作成

ユーザーID (必須):

ユーザー名 (必須):

パスワード (必須):

確認パスワード (必須):

OK キャンセル(C)

5. ユーザー作成の確認ダイアログボックスが表示されるので、[はい] をクリックします。

4. 業務の情報を新しく作成します。

1. [業務管理] タブを選択します。
2. [新規作成] をクリックします。

ApeosWare Record Link レコードデザイナー

業務管理 ユーザー管理

業務一覧

新規作成(N)... 編集(E)... 削除(D) 帳票設定(B)... 表示設定(V)... 出力設定(O)... データ管理(M) ▼

業務ID	業務名	出力設定	ステータス

ログアウト(O) 製品情報 閉じる(C)

3. [業務名] に、任意の業務名を入力します。

4. [業務ユーザーの設定] をクリックします。

業務の新規作成

業務名 (必須):

業務ユーザー: 業務ユーザーの設定(U)...

レコード追加 (必須):

参照(R)...

現在のレコード使用量: 0 件 / 10,000 件

OK キャンセル(C)

5. 手順3で作成したユーザーのチェックボックスにチェックマークを付け、[追加] をクリックします。

業務ユーザーの設定

業務名:

ユーザー検索

ユーザーID またはユーザー名

検索(D)

<input checked="" type="checkbox"/>	ユーザーID	ユーザー名	作成日時
<input checked="" type="checkbox"/>	user01	富士太郎	2022/01/11 17:09

業務ユーザー

追加(A) ▼

削除(D) ▲

<input type="checkbox"/>	ユーザーID	ユーザー名	権限
--------------------------	--------	-------	----

OK

キャンセル(C)

適用(U)

6. 業務ユーザー設定の確認ダイアログボックスが表示されるので、[はい] をクリックします。

7. [権限] を [管理者] に設定します。

8. [OK] をクリックします。

業務ユーザーの設定

業務名:

ユーザー検索

ユーザーID またはユーザー名

検索(D)

<input type="checkbox"/>	ユーザーID	ユーザー名	作成日時
<input type="checkbox"/>	user01	富士太郎	2022/01/11 17:09

業務ユーザー

追加(A) ▼

削除(D) ▲

<input type="checkbox"/>	ユーザーID	ユーザー名	権限
<input type="checkbox"/>	user01	富士太郎	管理者

OK

キャンセル(C)

適用(U)

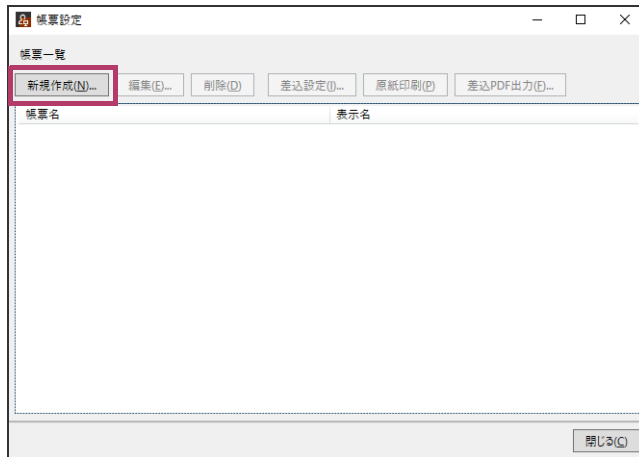
9. [参照] をクリックし、ApeosWare Record Link メディアの「Sample」フォルダーの「台帳レコード.csv」を選択します。

10. [OK] をクリックします。

新しく作成した業務情報が、業務名一覧エリアの最後に表示されます。

レコードデザイナーで帳票を登録する

1. [業務一覧] エリアで作成した業務の情報を選択し、[帳票設定] をクリックします。
2. [新規作成] をクリックします。



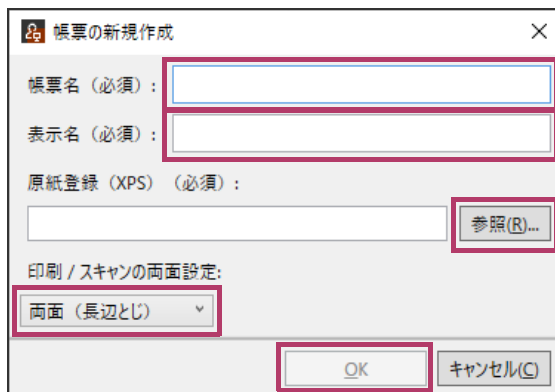
3. 次を設定します。
 1. [帳票名] に任意の帳票名を登録します。
 2. [表示名] に任意の表示名を入力します。



補足

[表示名] に入力した内容は、複合機の帳票選択画面や、レコードオペレーターの画面などで使用されます。

3. [参照] をクリックし、Sample フォルダの「原紙登録.xps」を選択します。
4. [印刷 / スキャンの両面設定] で、[両面 (長辺とじ)] を選択します。
5. [OK] をクリックします。



6. 帳票作成の確認ダイアログボックスが表示されるので、[はい] をクリックします。

Web 登録サービスで原紙を登録する

Sample フォルダーに同梱されている帳票を原紙として登録します。

原紙の登録には、複合機を使う方法と Web ブラウザーを使う方法があります。ここでは Web ブラウザーを使う方法を説明します。

1. Web ブラウザーから次の URL にアクセスします。
http:// {Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス} /WebRegistrationService-Web/Menu
例：
http://localhost/WebRegistrationService-Web/Menu
2. [読み取り用原紙登録] をクリックします。
3. 設定管理ツールで認証設定を有効にしている場合、次の操作をします。
 1. [レコードデザイナーで業務の情報を作成する] (P.72) で設定した、[ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。



システム管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] でもログインできます。

2. [ログイン] をクリックします。

4. 次の操作をします。
 1. [業務選択] プルダウンリストから業務を選択します。
 2. [帳票選択] プルダウンリストから帳票を選択します。
 3. [ファイル選択] で登録しておいた TIFF ファイルを選択します。

4. [登録] をクリックします。

5. [業務選択に戻る] をクリックします。

これで原紙の登録は終了です。

FormDataEntry で帳票を定義する

FormDataEntry で帳票を定義します。

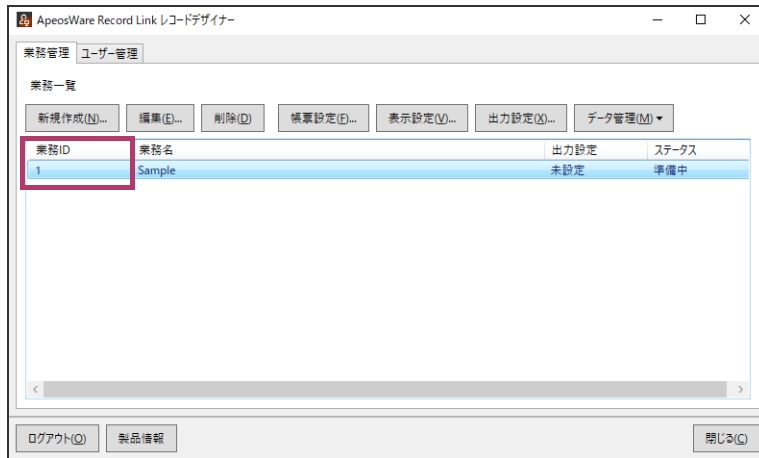
1. レコードデザイナーで、新規に作成した業務の [業務 ID] を確認します。
 1. レコードデザイナーを起動します。
 2. システム管理者の [ユーザー ID] および [パスワード] を入力します。



補足

システム管理者の [ユーザー ID] および [パスワード] の初期値は「admin」です。

3. [ログイン] をクリックします。
4. [業務管理] タブの [業務一覧] エリアで、[業務 ID] を確認します。
初回の業務作成時は「1」です。

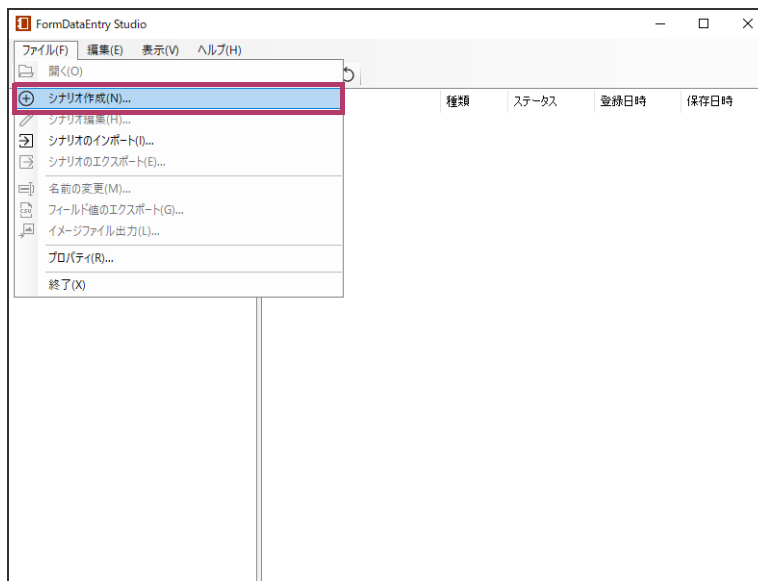


2. 次のフォルダーが作成されているかを確認します。
 {%USERPROFILE%\Documents\FUJIFILM\Record Link\Scenario\ {業務 ID}
 このフォルダーは、FormDataEntry のシナリオで設定するための入力フォルダーです。初回の業務作成時の業務 ID フォルダー名は「00001」です。

3. 次のフォルダーを手動で作成します。
 {%USERPROFILE%\Documents\FUJIFILM\Record Link\Out_ {業務 ID}
 このフォルダーは、FormDataEntry のシナリオで設定するための出力フォルダーです。

4. FormDataEntry Studio を起動します。
 1. [スタート] をクリックします。
 2. 画面の左下隅近くにある下矢印をクリックします。
 3. [アプリ] 画面で、[FUJIFILM] カテゴリー下にある [Studio] をクリックします。

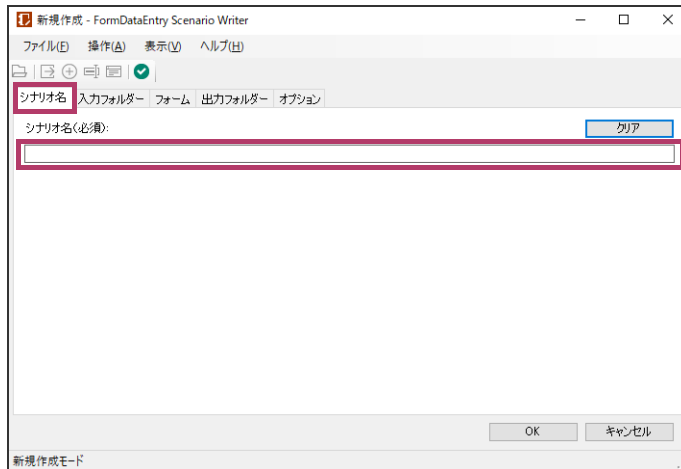
5. [ファイル] > [シナリオ作成] を選択します。



[新規作成] ダイアログボックスが表示されます。

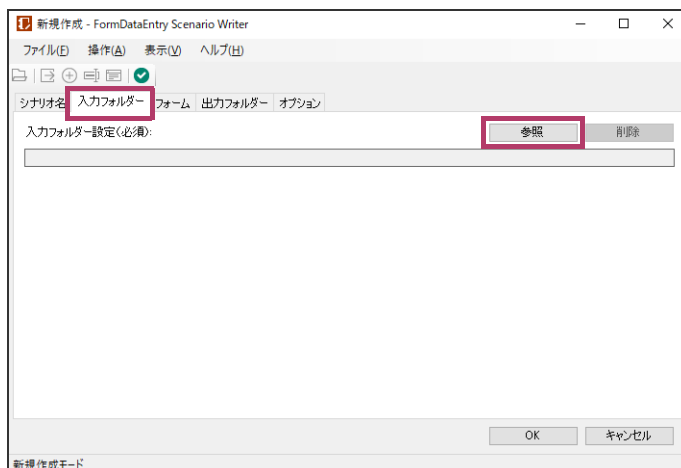
6. シナリオ名を設定します。

1. [シナリオ名] タブを選択します。
2. [シナリオ名] に任意の名前を入力します。



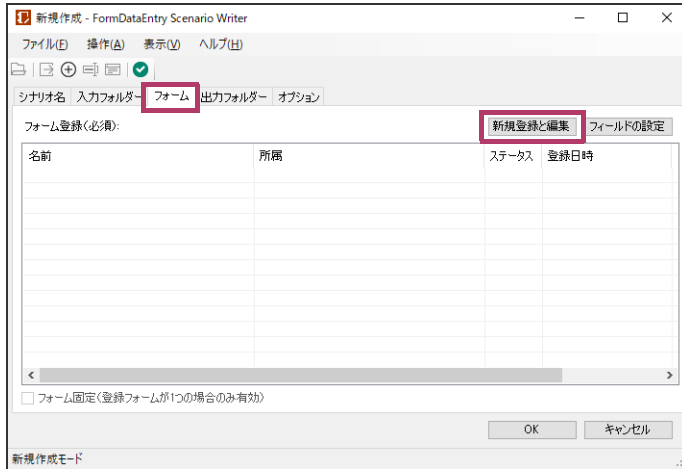
7. 入力フォルダーを設定します。

1. [入力フォルダー] タブを選択します。
2. [参照] をクリックし、次の入力フォルダーを指定します。
{%USERPROFILE%} ¥Documents¥FUJIFILM¥Record Link¥Scenario¥ {業務 ID}



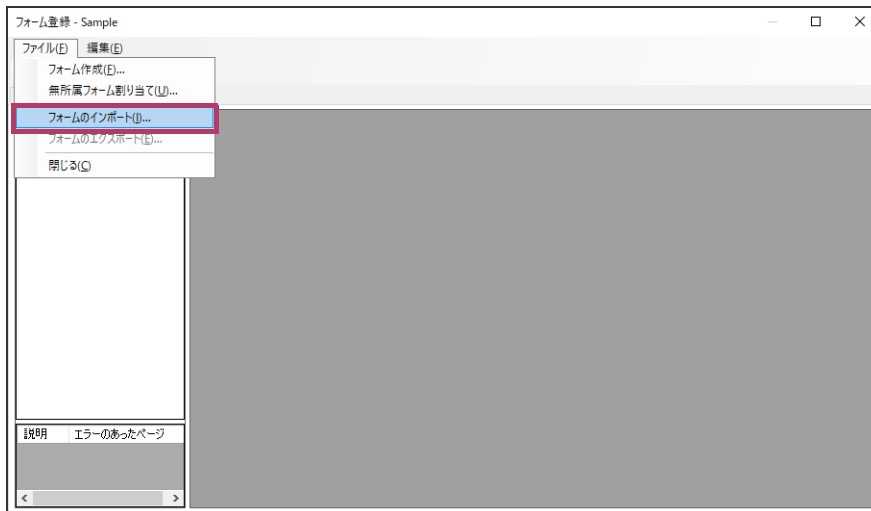
8. フォームを登録します。
 1. [フォーム] タブを選択します。
 2. [新規登録と編集] をクリックします。

1. [フォーム] タブを選択します。
2. [新規登録と編集] をクリックします。



[フォーム登録] ダイアログボックスが表示されます。

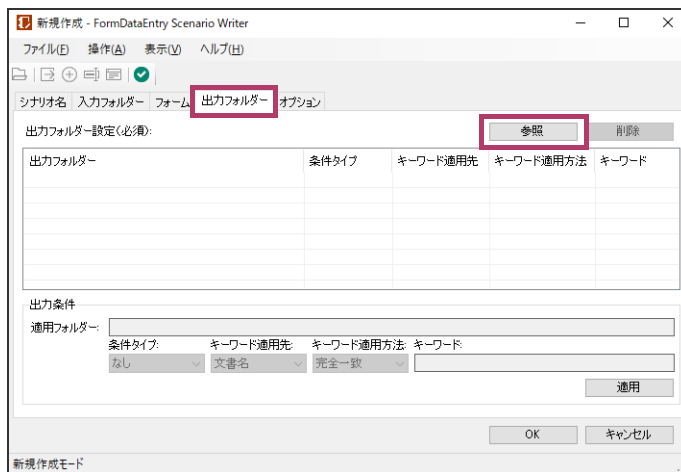
3. [ファイル] > [フォームのインポート] をクリックします。



4. Sample フォルダの「帳票定義 .ddef」を選択し、[開く] をクリックします。
5. 「1 個のフォームをインポートしました。」というメッセージを確認し、[OK] をクリックします。
6. [ファイル] > [閉じる] をクリックします。

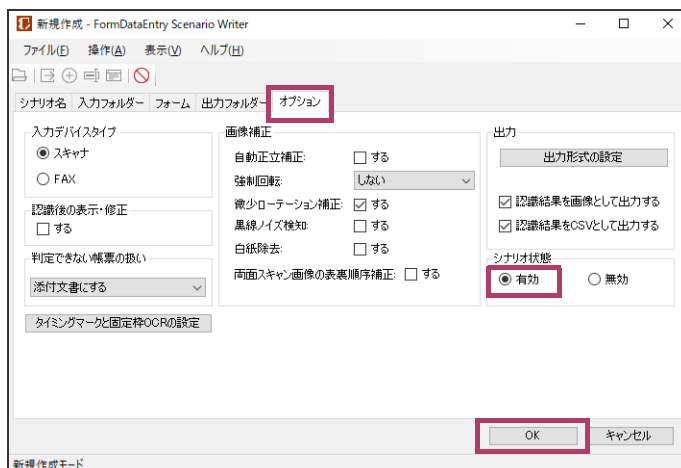
9. 出力フォルダーを設定します。

1. [出力フォルダー] タブを選択します。
2. [参照] をクリックし、次の出力フォルダーを指定します。
 {%USERPROFILE%\Documents\FUJIFILM\Record Link\Out_ (業務 ID)}



10. オプションを設定します。

1. [オプション] タブを選択します。
2. シナリオ状態を [有効] にします。
3. [OK] をクリックします。



11. [ファイル] メニューから [終了] を選択し、FormDataEntry Studio を終了します。

レコードデザイナーで表示を設定する

レコードデザイナーで、レコードオペレーターに表示される項目を設定します。

1. レコードデザイナーを起動し、ログインします。



補足

システム管理者、または業務の管理者がログインしてください。

2. [業務一覧] で表示項目を設定する業務を選択し、[表示設定] をクリックします。 [表示設定] ダイアログボックスが表示されます。

3. 表示項目を設定します。

1. [表示項目候補] から、レコードオペレーターで表示したい項目にチェックマークを付けます。
2. [追加] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。



4. 「表示項目設定を更新します。よろしいですか。」というメッセージを確認し、[はい] をクリックします。

レコードデザイナーで業務のステータスを変更する

1. レコードデザイナーを起動し、ログインします。

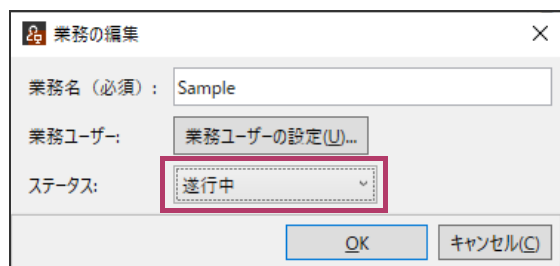


補足

システム管理者、または業務の管理者がログインしてください。

2. [業務一覧] で表示項目を設定する業務を選択し、[編集] をクリックします。

3. [ステータス] を [遂行中] に変更します。



4. [OK] をクリックします。

5. 「入力された内容で業務の更新を行います。よろしいですか。」というメッセージを確認し、[はい] をクリックします。

Web 登録サービスで情報を抽出する

Web 登録サービスで情報を抽出します。

情報抽出には、複合機を使う方法と Web ブラウザーを使う方法があります。ここでは Web ブラウザーを使う方法を説明します。

1. Web ブラウザーから次の URL にアクセスします。
[http:// {Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス} /WebRegistrationService-Web/Menu](http://{Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス} /WebRegistrationService-Web/Menu)
 例：
<http://localhost/WebRegistrationService-Web/Menu>
2. 設定管理ツールで認証設定をオンにしている場合、次の操作をします。
 1. 「レコードデザイナーで業務の情報を作成する」(P.72) で設定した、[ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。



システム管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] でもログインできます。

2. [ログイン] をクリックします。

3. [情報抽出] をクリックします。
4. 次の操作をします。
 1. [業務選択] プルダウンリストから業務を選択します。
 2. [帳票選択] プルダウンリストから帳票を選択します。
 3. [ファイル選択] で登録しておいた TIFF ファイルを選択します。

4. [登録] をクリックします。

5. [閉じる] をクリックします。

これで情報抽出は完了です。

レコードオペレーターで確認／訂正をする

ここでは、Web 登録サービスで読み込んだ帳票データの確認／訂正をします。

1. Web ブラウザーから次の URL にアクセスします。
[http:// {Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス} /RecordOperator/Login.aspx](http://{Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス} /RecordOperator/Login.aspx)
 localhost の場合：
<http://localhost/RecordOperator/Login.aspx>
2. 次の操作をします。
 1. 「レコードデザイナーで業務の情報を作成する」で設定した、[ユーザーID] と [パスワード] を入力します。



システム管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] でもログインできます。

2. [ログイン] をクリックします。

3. [業務選択] プルダウンリストから、業務を選択します。

4. [表示レコード範囲設定] で [OK] をクリックします。

業務に登録されているレコード一覧が表示されます。

5. 確認訂正をするため、[帳票ビュー] を起動します。

1. 確認訂正したいレコードにチェックを入れます。
2. [確認訂正] をクリックします。



6. 帳票ビューで表示する帳票を選択します。

1. [帳票ビュー] を選択します。
2. [帳票] ドロップダウンリストから確認または訂正する帳票を選択します。
3. [OK] をクリックします。
帳票ビューが表示されます。

7. 確認して訂正をします。



補足

Sample フォルダの帳票定義をそのまま使用している場合、今回読み込める項目は「児童氏名 x」、「児童続柄 x」、「児童生年月日 x」、「同居・別居の別 x」、「監護（養育事実）の有無 x」、「生計関係 x」、および「住所内外 x」（x は 1 または 2）です。

1. スキャン画像と認識結果を見比べます。
2. スキャン画像と認識結果が合っている場合、[確認] 欄にチェックマークを付けます。
3. スキャン画像と認識結果が違っている場合、次の操作をします。

■ 自由記入欄の場合

スキャン画像下のテキストボックス内を、正しい情報に修正します。

■ チェックボックスまたはセレクトボックスの場合

スキャン画像のチェックマークを、正しい情報に修正します。

確認訂正 - 1

表示設定

設問名 スキャン画像 / 認識結果 確認 ☒ ▼

*本画面の中のみを記入してください。

平成27年度 児童手当・特別給付 現況届

下記のとおり、現況を届け出します。
なお、支給資格の審査のために現行法規による所得額等の確認に同意します。

受給者 (フリガナ) フジ タロウ
氏名 登記生押印 富士 太郎 ⑩ 成年

住所 神奈川県横浜西区みなとみらい6-1 配偶者の
住所 氏名

電話番号 123-456-7890 変更の場合 区 市内 区外 海外 配偶者の職業

平成27年1月1日時点の住所 市内 区外 海外

受給者の属性 父 母 未成年後見人 父母指定者 その他

氏名	続柄	生年月日	国籍・別居の別	別居の理由
富士 太郎	子	2010年6月26日	⑩ 別	<input checked="" type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
富士 次郎	子	2013年12月12日	⑩ 別	<input checked="" type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
			同 別	<input type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
			同 別	<input type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
			同 別	<input type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外

受給者の加入年金資格・勤務先又は職業

☐ 厚生年金 ☐ 国民年金 ☐ 未加入

勤務番号 (- -)

不特定 年金 所得

※本画面の情報は勤務先での申請・登録となります。
※児童手当が支給対象にしている場合や児童の父兄以外の場合には特別な
届出が必要となります。
※児童手当に「児童手当」の記載がない場合は、児童手当の支給は一時
停止となります。

児童氏名1 富士 次郎

児童続柄1 子

児童生年月日 2010年6月26日

1 2010年6月26日

前回の様式 次回の様式

キャンセル 適用



画面右上の「確認」の横にあるチェックボックスにチェックマークを付けると、すべての項目にチェックマークが付きます。

8. 確認と訂正が終わったら、「適用」をクリックします。

9. 右上の「×」をクリックし、確認訂正画面を閉じます。

ApesWare Record Link レコードオペレーター - フロアファイル - Microsoft Edge

localhost/RecordOperator/FormsFormat.aspx

確認訂正 - 1

表示設定

設問名 スキャン画像 / 認識結果 確認 ☒ ▼

*本画面の中のみを記入してください。

平成27年度 児童手当・特別給付 現況届

下記のとおり、現況を届け出します。
なお、支給資格の審査のために現行法規による所得額等の確認に同意します。

受給者 (フリガナ) フジ タロウ
氏名 登記生押印 富士 太郎 ⑩ 成年

住所 神奈川県横浜西区みなとみらい6-1 配偶者の
住所 氏名

電話番号 123-456-7890 変更の場合 区 市内 区外 海外 配偶者の職業

平成27年1月1日時点の住所 市内 区外 海外

受給者の属性 父 母 未成年後見人 父母指定者 その他

氏名	続柄	生年月日	国籍・別居の別	別居の理由
富士 太郎	子	2010年6月26日	⑩ 別	<input checked="" type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
富士 次郎	子	2013年12月12日	⑩ 別	<input checked="" type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
			同 別	<input type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
			同 別	<input type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外
			同 別	<input type="checkbox"/> 区内 <input type="checkbox"/> 区外

受給者の加入年金資格・勤務先又は職業

☐ 厚生年金 ☐ 国民年金 ☐ 未加入

勤務番号 (- -)

不特定 年金 所得

※本画面の情報は勤務先での申請・登録となります。
※児童手当が支給対象にしている場合や児童の父兄以外の場合には特別な
届出が必要となります。
※児童手当に「児童手当」の記載がない場合は、児童手当の支給は一時
停止となります。

児童氏名1 富士 次郎

児童続柄1 子

児童生年月日 2010年6月26日

1 2010年6月26日

前回の様式 次回の様式

キャンセル 適用

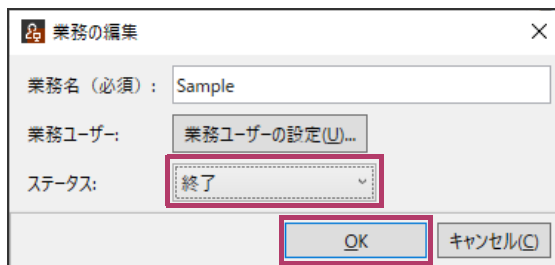
これで設置確認は完了です。

サンプルデータを削除する

設置確認で作成したサンプルデータを、Record Link から削除します。

レコードデザイナーで業務を削除する

1. レコードデザイナーを起動します。
2. [ユーザー ID] および [パスワード] を入力し、[ログイン] をクリックします。
3. 次の操作をします。
 1. [業務管理] タブで、削除したい業務を選択します。
 2. [編集] をクリックします。
4. [業務の編集] 画面で、次の操作をします。
 1. [ステータス] プルダウンリストから [終了] を選択します。
 2. [OK] をクリックします。

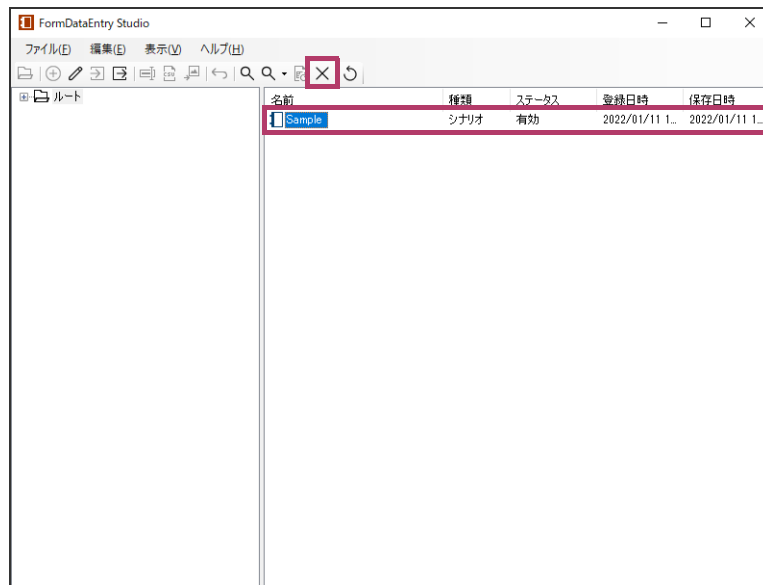


3. 業務の編集の確認ダイアログボックスが表示されるので [はい] をクリックします。
ステータスが [終了] に変わります。
5. 次の操作をします。
 1. [業務管理] タブで、削除したい業務を選択します。
 2. [削除] をクリックします。
6. 「選択した業務を削除します。」というメッセージを確認し、[はい] をクリックします。
業務が削除されます。

FormDataEntry でシナリオを削除する

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM] > [Studio] を選択して、FormDataEntry Studio を起動します。
2. 次の操作をします。
 1. サンプルのシナリオを選択します。

2. **X** をクリックします。



3. 「シナリオの削除を強行しますか？」というメッセージを確認し、問題がなければ「はい」をクリックします。
シナリオが削除されます。

6 アンインストール

アンインストールについて

Record Link のソフトウェアをアンインストールします。

アンインストールの流れ

次の順番でアンインストールします。

サーバー

順番	作業項目
1	設定管理ツール、障害情報取得ツールのアンインストール
2	Input Service のアンインストール
3	レコードデザイナーのアンインストール
4	レコードオペレーターのアンインストール
5	Web 登録サービスのアンインストール
6	FormDataEntry のアンインストール
7	PostgreSQL のアンインストール
8	ContentsBridge Utility のアンインストール

クライアント PC

順番	作業項目
1	設定管理ツール、障害情報取得ツールのアンインストール
2	レコードデザイナーのアンインストール
3	ContentsBridge Utility のアンインストール

アンインストールの注意事項

Launcher からアンインストールしないでください。また、Launcher に表示される「修復」メニューは実行しないでください。「修復」メニューを実行すると、アンインストールに必要なファイルが削除され、アンインストールができなくなります。この章で説明する手順に従ってアンインストールしてください。

ツールをアンインストールする

設定管理ツール、および障害情報取得ツールをアンインストールします。

1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。

2. [FUJIFILM Record Link 設定管理ツール] を選択し、[アンインストール] をクリックします。
確認画面が表示されます。
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
設定管理ツールのアンインストールが開始されます。
4. [FUJIFILM Record Link 障害情報取得ツール] を選択し、[アンインストール] をクリックします。
5. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
障害情報取得ツールのアンインストールが開始されます。

Input Service をアンインストールする

Input Service をアンインストールします。

1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。
2. [FUJIFILM Record Link Input Service] を選択し、[アンインストール] をクリックします。
確認画面が表示されます。
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
アンインストールが開始されます。

レコードデザイナーをアンインストールする

レコードデザイナーをアンインストールします。

1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。
2. [FUJIFILM Record Link レコードデザイナー] を選択し、[アンインストール] をクリックします。
確認画面が表示されます。
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
アンインストールが開始されます。

レコードオペレーターをアンインストールする

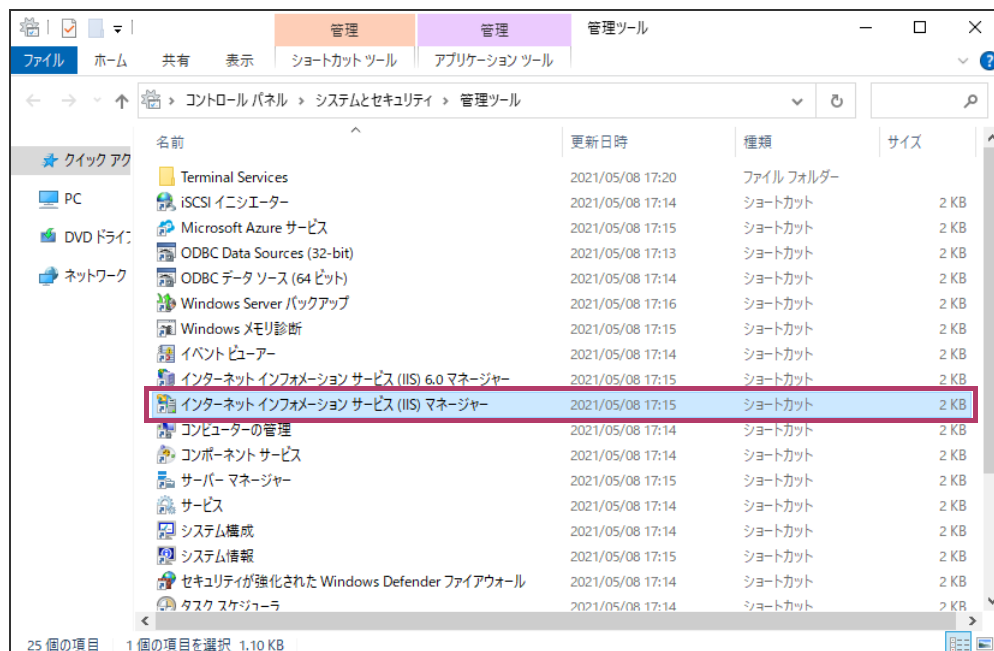
レコードオペレーターをアンインストールし、RecordOperator のアプリケーションプールを削除します。

レコードオペレーターソフトウェアをアンインストールする

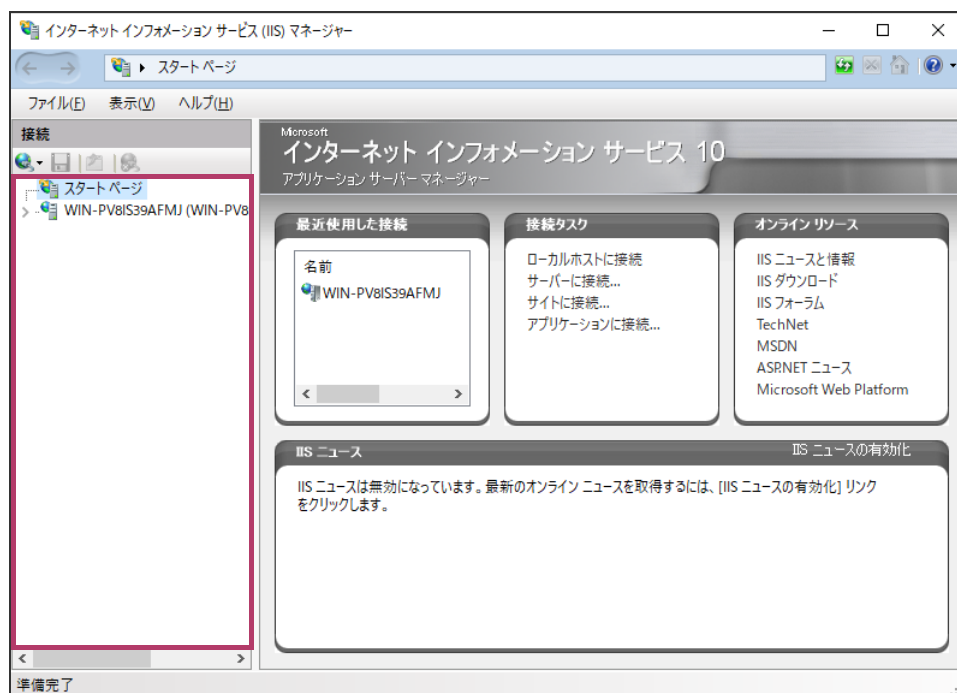
1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。
2. [FUJIFILM Record Link レコードオペレーター] を選択し、[アンインストール] をクリックします。
確認画面が表示されます。
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
アンインストールが開始されます。

RecordOperatorAppPool を削除する

1. [コントロールパネル] で [管理ツール] をクリックします。
2. [インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャー] をダブルクリックします。



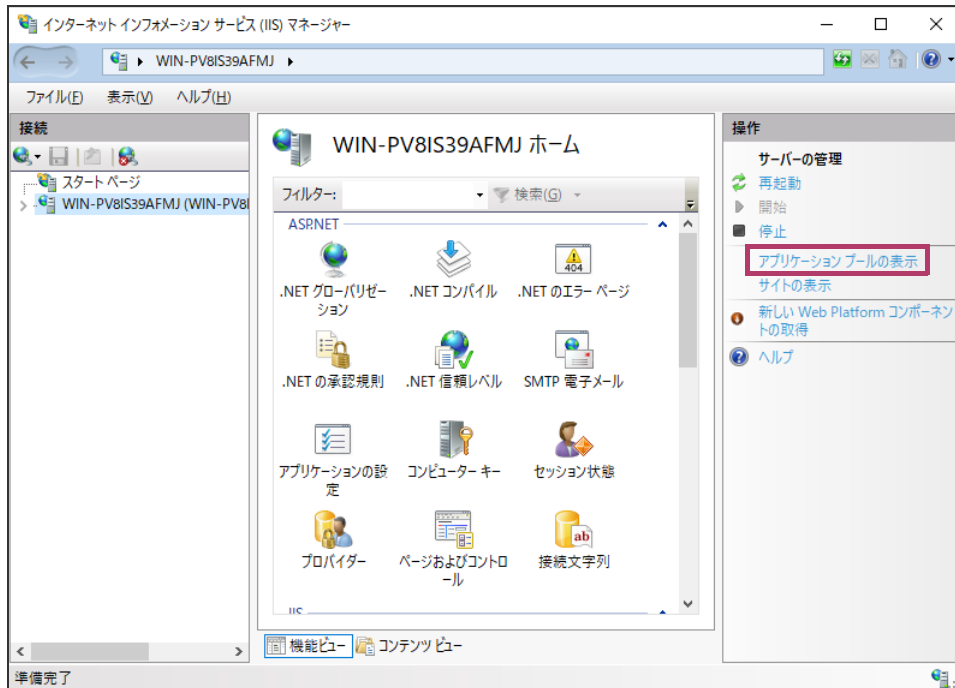
3. 左側の [接続] メニューから、PC を選択します。



補足

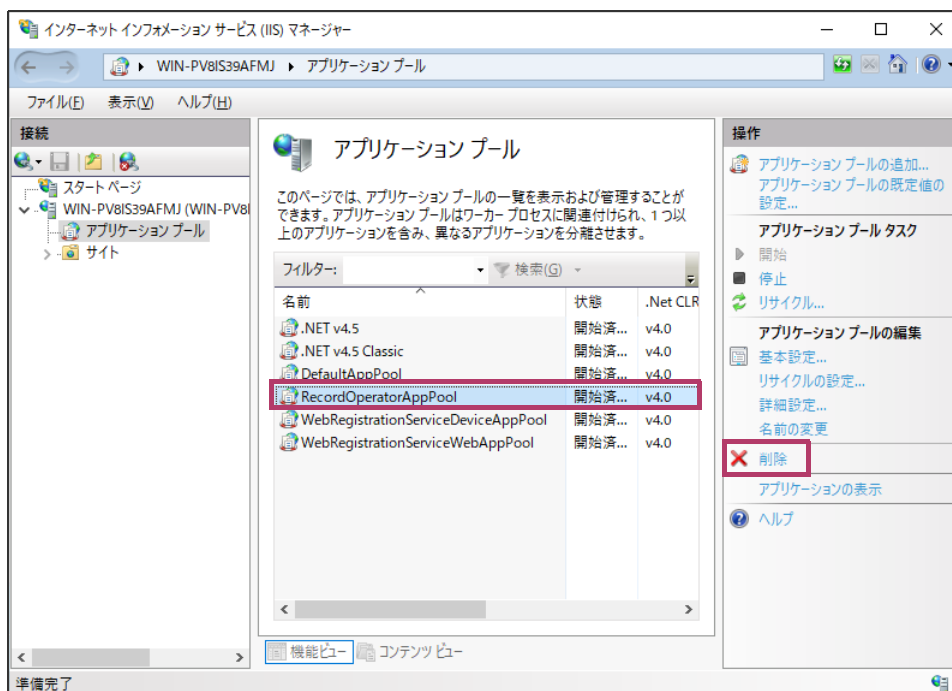
「Microsoft Web Platform を使用開始するかどうか」の確認ダイアログボックスが表示された場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

4. 右側の [操作] メニューから、[アプリケーション プールの表示] をクリックします。



5. [アプリケーション プール] 画面で、次の操作をします。

1. リストから [RecordOperatorAppPool] を選択します。
2. 右側の [操作] メニューから [削除] をクリックします。



6. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。 アプリケーションプールが削除されます。

Web 登録サービスをアンインストールする

Web 登録サービスをアンインストールします。

1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。
2. [Web 登録サービス] を選択して、[アンインストール] をクリックします。
確認画面が表示されます。
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
アンインストールが開始されます。
アンインストールが終了すると、再起動を促すメッセージが表示されます。
4. [OK] をクリックします。
OS が再起動されます。

FormDataEntry をアンインストールする

FormDataEntry をアンインストールします。

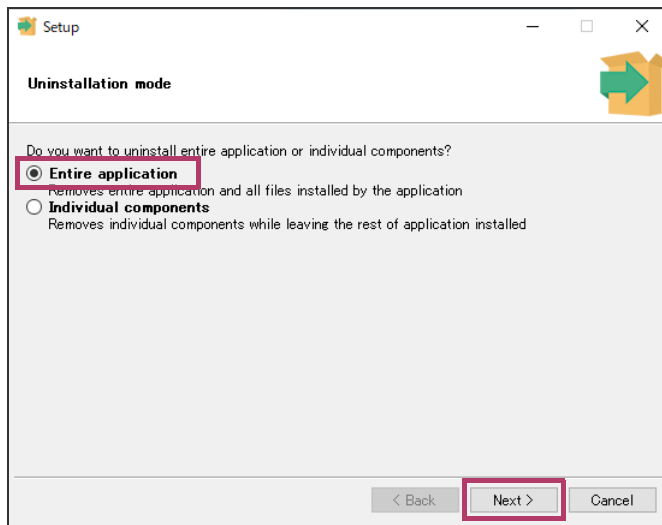
1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。
2. [FUJIFILM FormDataEntry] を選択して、[アンインストール] をクリックします。
3. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
アンインストールが開始されます。

PostgreSQL をアンインストールする

PostgreSQL をアンインストールします。

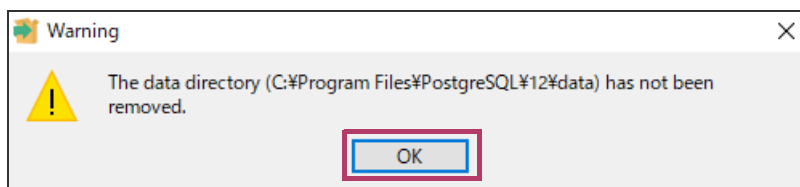
1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。
2. [PostgreSQL 14] を選択して、[アンインストールと変更] をクリックします。

3. PostgreSQL をアンインストールして良いか確認するメッセージが表示されます。
[Entire Application] を選択し、[Next] をクリックします。



アンインストールが開始されます。

4. データ領域のディレクトリーは削除していないことを警告するメッセージが表示されます。
メッセージを確認し、[OK] をクリックします。



補足

表示されたディレクトリーが必要ない場合は、アンインストール完了後に手動で削除してください。

5. 完了メッセージを確認し、[OK] をクリックします。
6. PostgreSQL のインストール先フォルダーをリネームします。



注記

PostgreSQL をアンインストールしても、データベースのデータは削除されません。アンインストール後は必ずインストール先フォルダーをリネームしてください。リネームしないで再設置すると、アンインストール前のデータで Record Link が稼働します。

ContentsBridge Utility をアンインストールする

ContentsBridge Utility をアンインストールします。

1. [コントロールパネル] で [プログラムと機能] をクリックします。
2. [FUJIFILM ContentsBridge Utility] を選択して、[アンインストール] をクリックします。
3. [削除] をクリックします。
4. メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
アンインストールが開始されます。

7 旧バージョンからの移行

移行時の注意事項

- FormDataEntry の各シナリオで指定した出力フォルダーのうち、ツールによって移行されるフォルダーは、次のフォルダー内にあるフォルダーです。
「C:¥Users¥Administrator¥Documents¥Fuji Xerox¥Record Link¥Scenario」
このフォルダー以外の場所に出力フォルダーを設定している場合は、手動でフォルダーを移動してください。
- 旧バージョンのデータを移行するときに、移行するデータ内にある「FujiXerox」という文字列が「FUJIFILM」に変換されます。
RecordLink によって作成されるフォルダー以外に、「FujiXerox」という文字列を使用した名前のフォルダーやファイルが、移行するデータ内に含まれている場合は、注意してください。

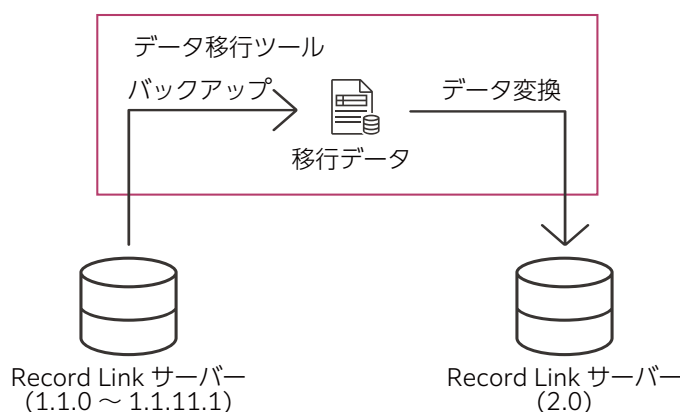
異なる PC に環境を構築してデータを移行する

データ移行ツールの概要

データ移行ツールは、Record Link 1.1.0～1.1.11.1の環境の帳票などのデータを、2.0の環境に移行できます。異なる PC に Record Link 2.0 の環境を用意し、従来の環境がインストールされている PC からデータを移行する場合などに使用します。

以下のバージョンの Record Link の環境から移行するためのバックアップファイルを取得し、移行できます。

対応するバージョン
1.1.0 / 1.1.1 / 1.1.2 / 1.1.3 / 1.1.4 / 1.1.5 / 1.1.6 / 1.1.7 / 1.1.8 / 1.1.9 / 1.1.10 / 1.1.11 / 1.1.11.1



データ移行ツールはメディアに格納されています。任意の場所にコピーして使用してください。

メディアの以下の場所に格納されています。

MigrationTool¥MigrationTool.exe

データ移行の流れ

移行作業の流れは、次のとおりです。

順番	作業項目	参照
1	既存の環境にデータ移行ツールをインストールする	
2	データ移行ツールを使用して既存の環境からバックアップデータを取得する	「バックアップデータを取得する」(P.97)
3	新しい環境 (PC) に Record Link 2.0 をインストールする	「インストール」(P.17)
4	Record Link 2.0 の環境にデータ移行ツールをインストールする	
5	バックアップデータを新しい環境 (PC) の任意の場所にコピーする	
6	バックアップデータをインポートする	「データを移行する」(P.98)

バックアップデータを取得する

既存の Record Link の環境からバックアップデータを取得します。



注記

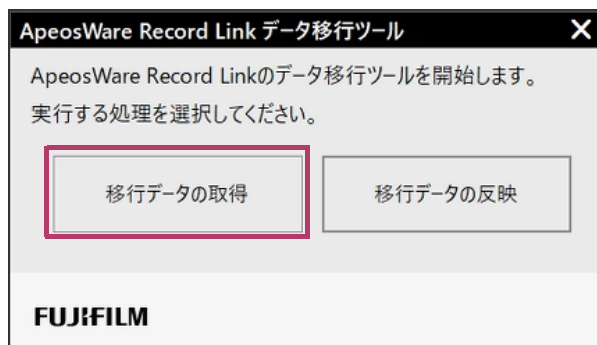
作業ユーザーには、必ず管理者権限を割り当ててください。また、ツールは「管理者として実行」で起動させてください。



補足

移行データを取得するには、Record Link 1.1.0 ～ 1.1.11.1 の環境がインストールされている PC にデータ移行ツールをインストールして、操作してください。

1. データ移行ツール (MigrationTool.exe) を起動します。
2. 「移行データの取得」をクリックします。

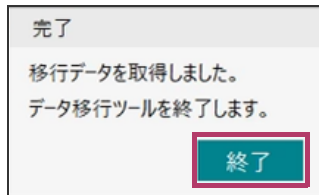


3. 「選択」をクリックしてバックアップデータの保存先フォルダーを選択し、「取得開始」をクリックします。



インストールされている Record Link のバージョンのチェックが行われ、問題ない場合はデータの取得が開始されます。

4. [終了] をクリックします。



データを移行する

既存の Record Link の環境から取得したバックアップデータを、Record Link 2.0 の環境に移行します。



注記

作業ユーザーには、必ず管理者権限を割り当ててください。また、ツールは「管理者として実行」で起動させてください。

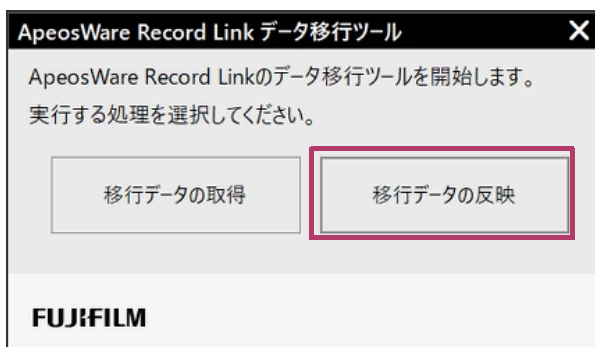


補足

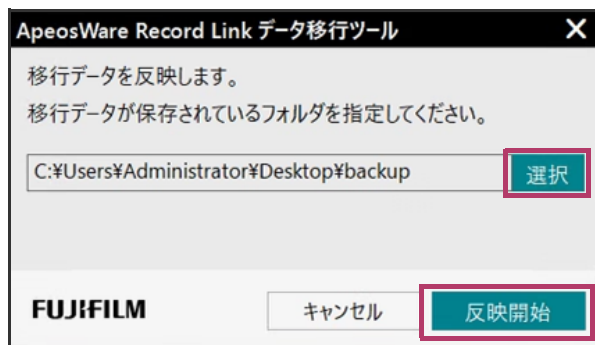
Record Link 2.0の環境がインストールされているPCにデータ移行ツールをインストールして、バックアップデータを移行してください。

1. データ移行ツール（MigrationTool.exe）を起動します。

2. [移行データの反映] をクリックします。

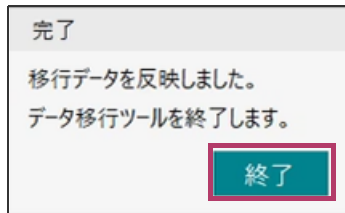


3. [選択] をクリックして移行データの取得で保存したバックアップデータを指定し、[反映開始] をクリックします。



インストールされている Record Link のバージョンのチェックが行われ、問題ない場合はデータの変換・移行が開始されます。

4. [終了] をクリックします。



移行完了後に、バックアップデータの削除を行うかどうかの確認ダイアログが表示されます。必要に応じて削除してください。

データ移行ツールのログ

ログファイルの出力先

ログファイルは以下の場所に出力されます。

{%ProgramData%} ¥FUJIFILM¥Record Link¥MigrationTool¥log



補足

「{%ProgramData%}」は、お使いの OS によって異なります。通常は「C:¥ProgramData」です。

ログファイル名

ログファイル名の命名規則は末尾に年月日が追加され、日付ごとにファイルが作成されます。

MigrationTool_yyyyMMdd.log

ログの内容

ログの内容は、操作日時、ログレベル、処理、メッセージが出力されます。

例：

2022-03-01 10:00:00.000,ERROR,Program.main," データ移行ツールは起動しています。"

ログレベル

ログレベルと内容は以下のとおりです。

項目	説明
FATAL	システムを継続動作させることが不可能な重大な障害が発生した場合に通知されます。
ERROR	システム内部に対して問題が発生した場合に通知されます。
WARN	システムに対し不正な処理が発生したが、システム内で当該処理を適切に除去した場合や、システムの動作自体に影響を与えないエラーが発生した場合に通知されます。
INFO	イベントおよびユーザー操作発生時の通知です。システムの挙動が正常かつ、イベントが適切に完了した場合に通知されます。

同一の PC 上で Record Link をバージョンアップする

移行ナビゲーションツールの概要

移行ナビゲーションツールは、Record Link のバージョンアップおよびデータの移行をウィザード形式で行うツールです。同一の PC 上で、既存の Record Link 環境から 2.0 の環境へバージョンアップし、かつ帳票などのデータを移行する場合に使用します。

以下のステップで移行が進められます。

- 1 既存の Record Link 環境から、帳票や、設定管理ツールの設定内容などのデータをバックアップする
 - 2 既存の Record Link 環境をアンインストールする
 - 3 Record Link 2.0 をインストールする
 - 4 バックアップデータを Record Link 2.0 の環境に移行する
- 以下のバージョンの Record Link の環境から 2.0 の環境に移行できます。

対応するバージョン
1.1.0 / 1.1.1 / 1.1.2 / 1.1.3 / 1.1.4 / 1.1.5 / 1.1.6 / 1.1.7 / 1.1.8 / 1.1.9 / 1.1.10 / 1.1.11 / 1.1.11.1

移行ナビゲーションツールはメディアに格納されています。任意の場所にコピーして使用してください。
メディアの以下の場所に格納されています。
MigrationNaviTool¥MigrationNaviTool.exe

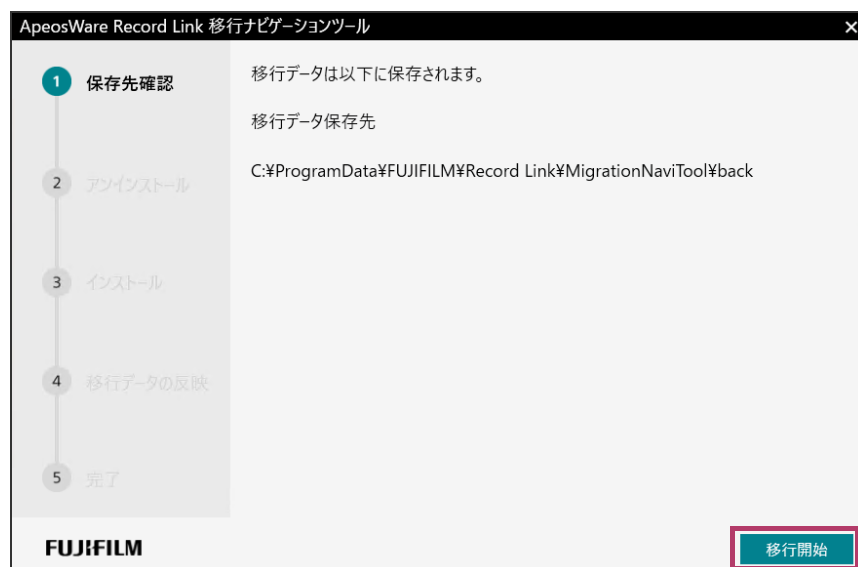


注記

既存の Record Link 環境をアンインストールしたあとに、システム障害が発生した場合に備えて、移行ナビゲーションツールを使用する前に、設定管理ツールを起動して、表示された設定内容をすべて記録してください。

Record Link の環境を移行する

1. 移行ナビゲーションツール（MigrationNaviTool.exe）を起動します。
2. [移行開始] をクリックします。



移行データがバックアップされます。

3. [次へ] をクリックします。

4. [アンインストール開始] をクリックします。



既存の Record Link がアンインストールされます。

5. [次へ] をクリックします。



6. [実行] をクリックします。



7. インストールする機能を選択し、[起動／インストール] をクリックします。



Record Link 2.0 がインストールされます。

8. [次へ] をクリックします。



9. [実行] をクリックします。

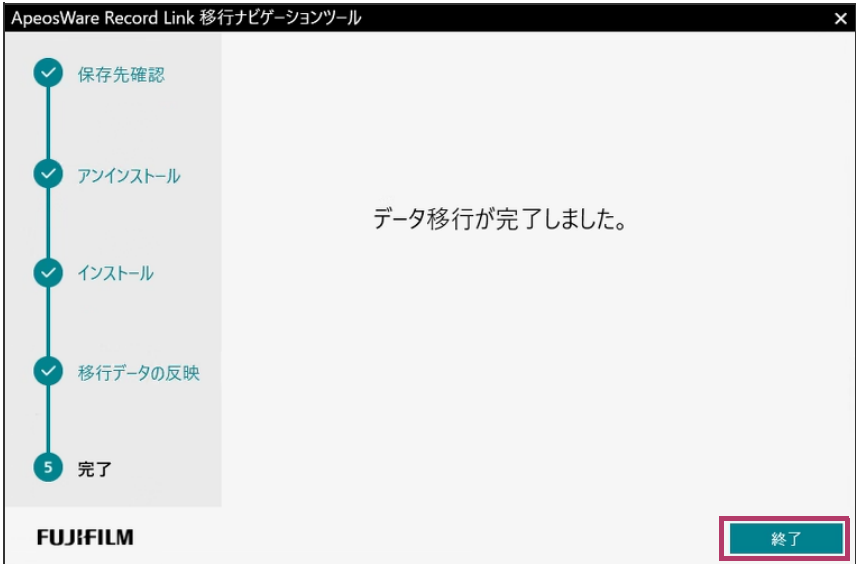


Record Link 2.0 にデータが移行されます。

10. [次へ] をクリックします。



11. [終了] をクリックします。



リカバリー

移行ナビゲーションツールを使用して、既存の Record Link 環境をアンインストールしたあとに、システム障害が発生した場合のリカバリー方法について説明しています。



補足

リカバリーには、環境移行前に使用していたバージョンの Record Link のマニュアルが必要です。

1. 移行前の Record Link のマニュアルに従って、Record Link の環境をアンインストールします。
次のフォルダーはアンインストールで削除されないため、任意の名前に変更または削除します。

削除されないフォルダー
C:\Program Data\Fuji Xerox\FormDataEntry
C:\Program Data\Fuji Xerox\Record Link
C:\Program Data\Fuji Xerox\SolutionBuilder
C:\Program Data\Fuji Xerox\WebRegistrationService

削除されないフォルダー
C:¥Users¥ {Record Link をインストールしたユーザー名} ¥Documents¥Fuji Xerox¥Record Link

2. 移行前のバージョンの Record Link のマニュアルに従って、Record Link の環境を再インストールします。
3. 移行前のバージョンの Record Link のマニュアルに従って、Record Link へのアクセスを終了し、サービスを停止します。
4. 移行前のバージョンの Record Link のマニュアルに従って、設定管理ツールを起動し、バックアップ時に記録したシステム設定情報を設定します。
設定管理ツールのデータはリストアできません。移行ナビゲーションツールを使用する前に記録した内容を参照して再度設定してください。
5. 移行前のバージョンの Record Link のマニュアルに従って、台帳データをリストアします。
リストアで使用するバックアップデータは、移行ナビゲーションツールでバックアップしたデータを使用します。

以下のフォルダーに格納されています。

{%ProgramData%} ¥FUJIFILM¥Record Link¥MigrationNaviTool¥back



「{%ProgramData%}」は、お使いの OS によって異なります。通常は「C:¥ProgramData」です。



バックアップデータについては「Record Link の環境を移行する」(P.100) の手順 2 を参照してください。

6. 移行前のバージョンの Record Link のマニュアルに従って、シナリオとフォームデータをリストアします。
リストアで使用するバックアップデータは、移行ナビゲーションツールでバックアップしたデータを使用します。

以下のフォルダーに格納されています。

{%ProgramData%} ¥FUJIFILM¥Record Link¥MigrationNaviTool¥back



「{%ProgramData%}」は、お使いの OS によって異なります。通常は「C:¥ProgramData」です。



バックアップデータについては「Record Link の環境を移行する」(P.100) の手順 2 を参照してください。

ログファイル

ログファイルの出力先

ログファイルは以下の場所に出力されます。

{%ProgramData%} ¥FUJIFILM¥Record Link¥MigrationNaviTool¥log



「{%ProgramData%}」は、お使いの OS によって異なります。通常は「C:¥ProgramData」です。

ログファイル名

ログファイル名の命名規則は末尾に年月日が追加され、日付ごとにファイルが作成されます。

MigrationNaviTool_YYYYMMdd.log

ログの内容



参照

ログの内容については「ログの内容」(P.99)を参照してください。

ログレベル



参照

ログレベルについては「ログレベル」(P.99)を参照してください。

8 付録

設定管理ツールの設定

設定管理ツールは、Record Link の各ソフトウェアの設定、ライセンスの登録、データベースやシステム管理者のパスワード変更を行うツールです。

項目ごとに設定できる対象が異なります。

○：設定可

－：設定不可

設定	設定対象	
	サーバー	クライアント PC
「レコードデザイナーの設定値を変更する」(P.108)	○	○
「レコードオペレーターの設定値を変更する」(P.113)	○	－
「Web 登録サービスの設定値を変更する」(P.122)	○	－
「バックアップツールの設定値を変更する」(P.129)	○	－
「Input Service の設定値を変更する」(P.131)	○	－
「データベース管理者のパスワードを変更する」(P.134)	○	－
「システム管理者パスワードを変更する」(P.134)	○	－
「レコードライセンスを管理する」(P.135)	○	－

設定管理ツールにログインする

次の手順で設定管理ツールを起動します。

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM] > [Record Link 設定管理ツール] を選択して、設定管理ツールを起動します。
2. [接続確認エラー] ダイアログボックスが表示された場合は、次の操作をします。
 1. [OK] をクリックします。
 2. データベースへの接続情報を入力して [更新] をクリックします。
3. [認証] ダイアログボックスで、次の操作をします。
 1. システム管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。



システム管理者の [ユーザー ID] および [パスワード] の初期値は「admin」です。これらの値は、設定管理ツールで変更できます。


2. [ログイン] をクリックします。

レコードデザイナーの設定値を変更する

レコードデザイナーの設定値を変更します。

[レコードデザイナー] タブの設定

1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードデザイナー] を選択します。
3. [レコードデザイナー] タブを選択します。
4. 次を設定します。

項 目	説 明
解像度のデフォルト値	差し込み PDF を出力するときの解像度のデフォルト値を選択できます。 選択肢は、300 dpi、400 dpi です。  補足 差し込み PDF を出力するとき、設定を変更できます。
確認メッセージを表示する下限のページ数	差し込み PDF を出力するとき、出力するページ数が多いと時間がかかります。そのため、出力するページ数が多い場合は確認メッセージが表示されます。この確認メッセージを表示させる下限のページ数を設定できます。 設定を変更する場合は、1 ～ 100000 から任意の数値をテキストボックスに入力します。初期値は 1000 ページです。

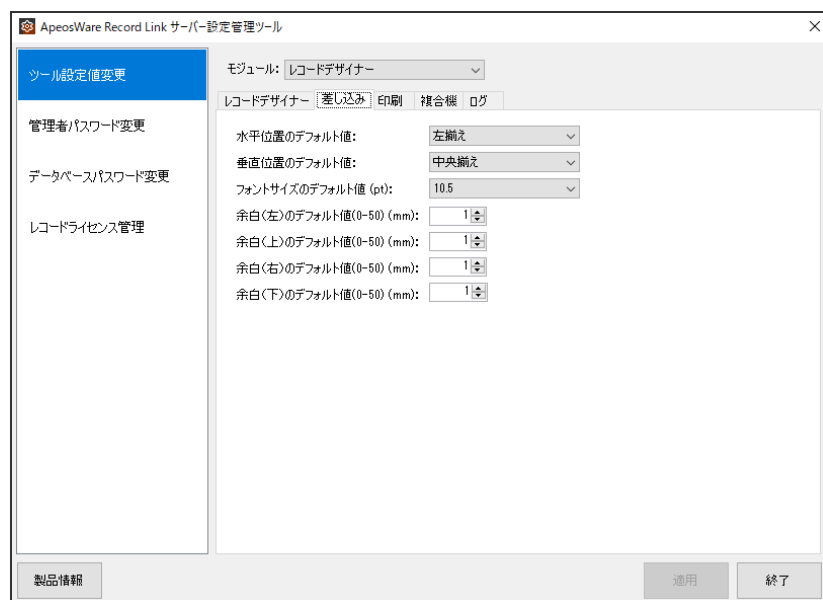
5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

[差し込み] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。

2. [モジュール] から [レコードデザイナー] を選択します。

3. [差し込み] タブを選択します。

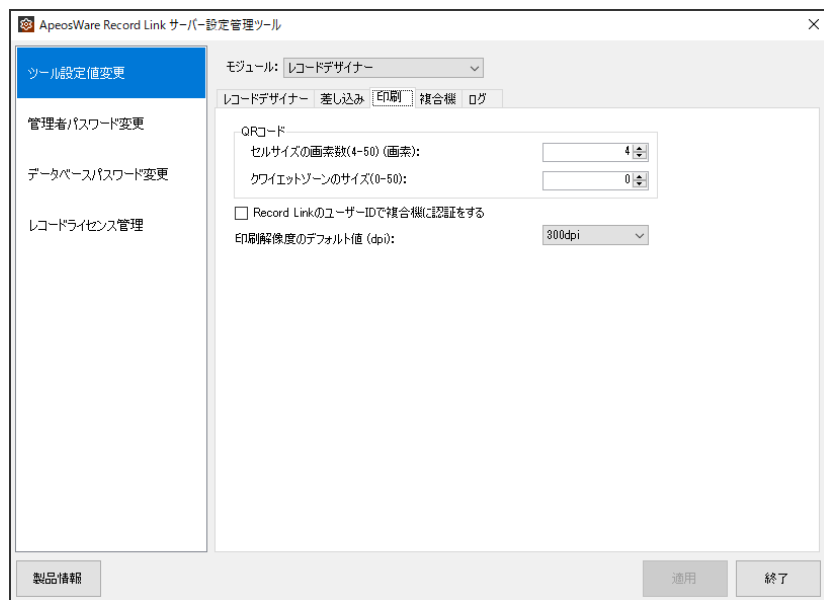
4. 次を設定します。

項 目	説 明
水平位置のデフォルト値	差し込み印刷をするときに、枠に対して文字を水平方向のどこに配置するかデフォルト値を設定します。 選択肢は [左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]、および [均等揃え] です。
垂直位置のデフォルト値	差し込み印刷をするときに、枠に対して文字を垂直方向のどこに配置するかデフォルト値を設定します。 選択肢は [上揃え]、[中央揃え]、[下揃え] です。
フォントサイズのデフォルト値	差し込み印刷をするときの、フォントサイズのデフォルト値を設定します。 選択肢は 6 ～ 96 pt です。
余白 (左) のデフォルト値	差し込み印刷をするときに、枠に対して左側の余白のデフォルト値を設定します。 設定できる値は、0 ～ 50 mm です。
余白 (上) のデフォルト値	差し込み印刷をするときに、枠に対して上側の余白のデフォルト値を設定します。 設定できる値は、0 ～ 50 mm です。
余白 (右) のデフォルト値	差し込み印刷をするときに、枠に対して右側の余白のデフォルト値を設定します。 設定できる値は、0 ～ 50 mm です。
余白 (下) のデフォルト値	差し込み印刷をするときに、枠に対して下側の余白のデフォルト値を設定します。 設定できる値は、0 ～ 50 mm です。


5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[印刷] タブの設定



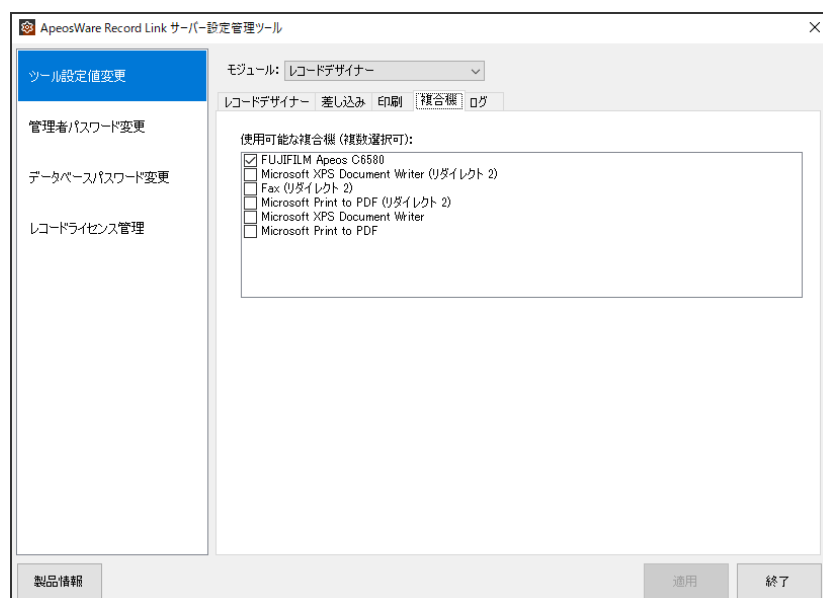
1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードデザイナー] を選択します。
3. [印刷] タブを選択します。
4. 次を設定します。

項 目		説 明
QRコード	セルサイズの画素数	セルサイズの画素数を設定します。QR コードのセルサイズとは、QR コードを構成する小さい正方形の大きさです。 設定できる値は、4 ～ 50 画素です。
	クワイエットゾーンのサイズ	クワイエットゾーンのサイズを設定します。クワイエットゾーンとは、QR コードの上下左右の余白のことです。 設定できる値は 0 ～ 50 セルです。
Record Link のユーザー ID で複合機に認証をする		Record Link のユーザー ID で複合機の認証を許可する場合は、チェックマークを付けます。
印刷解像度のデフォルト値		印刷するときの解像度のデフォルト値を設定します。 選択肢は、300 dpi、400 dpi、または 600 dpi です。  補足 印刷するときに設定を変更できます。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[複合機] タブの設定



[複合機] タブの内容を変更するには、次の操作をします。

1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードデザイナー] を選択します。
3. [複合機] タブを選択します。
4. [使用可能な複合機] エリアで、使用する複合機にチェックマークを付けます。

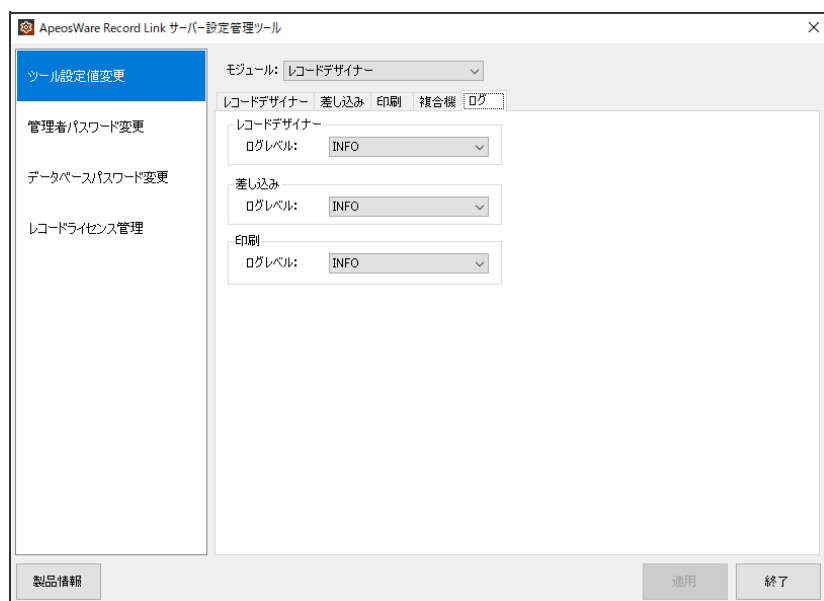


補足

複数の複合機を選択できます。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[ログ] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードデザイナー] を選択します。
3. [ログ] タブを選択します。
4. 次を設定します。



注記

通常時は、ログレベルを [INFO] にして運用してください。[DEBUG] は、不具合が発生したときの設定です。[DEBUG] で運用した場合、大量のログによるディスクの圧迫やパフォーマンスの低下が発生するおそれがあります。

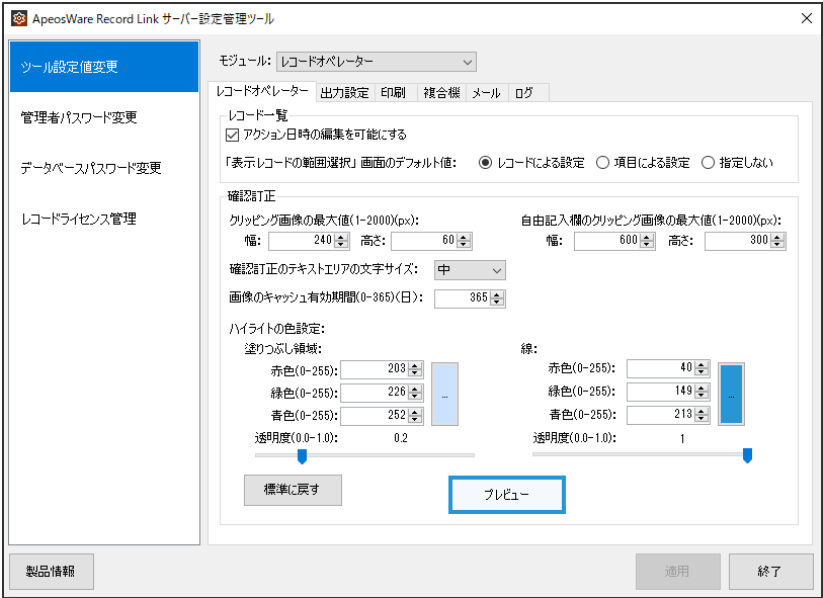
項 目	説 明
レコードデザイナー	レコードデザイナーに関するログレベルの設定をします。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。
差し込み	差し込みに関するログレベルの設定をします。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。
印刷	印刷に関するログレベルの設定をします。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

レコードオペレーターの設定値を変更する

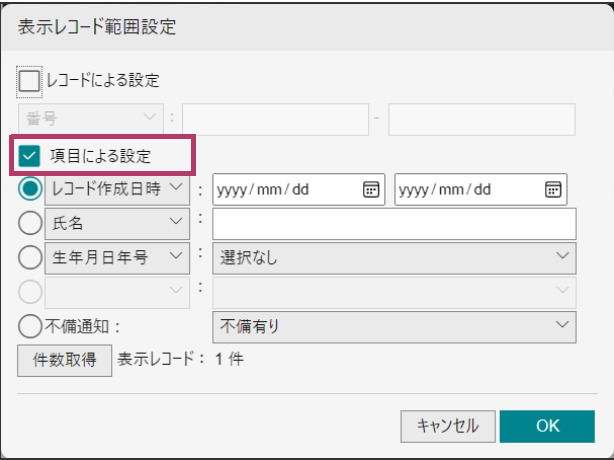
レコードオペレーターの設定値を変更します。

[レコードオペレーター] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードオペレーター] を選択します。
3. [レコードオペレーター] タブを選択します。
4. 次を設定します。

項 目	説 明
アクション日時の編集を可能にする	レコード一覧のアクション日時を編集する場合は、チェックマークを付けます。 この設定を有効にすると、レコードオペレーターの編集ダイアログボックスでアクション日時（レコード作成日時やレコード最終更新日時など）を変更できます。
「表示レコードの範囲選択」画面のデフォルト値：レコードによる設定	「表示レコード範囲設定」機能の、[レコードによる設定] チェックボックスに、デフォルトでチェックマークを付けるかどうかを指定します。 <div><div>表示レコード範囲設定</div><div><input checked="" type="checkbox"/> レコードによる設定</div><div>番号 : <input type="text"/> - <input type="text"/></div><div><input type="checkbox"/> 項目による設定</div><div><input checked="" type="radio"/> レコード作成日時 : <input type="text"/> yyyy/mm/dd <input type="text"/> yyyy/mm/dd</div><div><input type="radio"/> 氏名 : <input type="text"/></div><div><input type="radio"/> 生年月日年号 : <input type="text"/> 選択なし</div><div><input type="radio"/> : <input type="text"/></div><div><input type="radio"/> 不備通知 : <input type="text"/> 不備有り</div><div>件数取得 表示レコード： 1 件</div><div>キャンセル OK</div></div>

項 目	説 明
「表示レコードの範囲選択」画面のデフォルト値：項目による設定	<p>「表示レコード範囲設定」機能の、「項目による設定」チェックボックスに、デフォルトでチェックマークを付けるかどうかを指定します。</p> 
クリッピング画像の最大値	<p>確認訂正をするときに、記入済み帳票から切り取られる画像のサイズを制限できます。最大幅と最大高さを指定します。設定できる値は、1 ～ 2000 です。</p>
自由記入欄のクリッピング画像の最大値	<p>文字列の確認訂正をするときに、記入済み帳票から切り取られる画像のサイズを制限できます。最大幅と最大高さを指定します。設定できる値は、1 ～ 2000 です。</p> <p> 補足</p> <p>ここではデフォルト値の設定をします。すでにブラウザー上でクリッピング画像のサイズを変更している場合、ブラウザー上での設定が優先されます。</p>
確認訂正のテキストエリアの文字サイズ	<p>確認訂正で使用するテキストエリアの文字サイズを選択します。選択肢は、[小]、[中]、[大] です。</p>

5. 確認訂正でハイライトされる部分の背景および枠線の色を設定する場合は、次の操作をします。



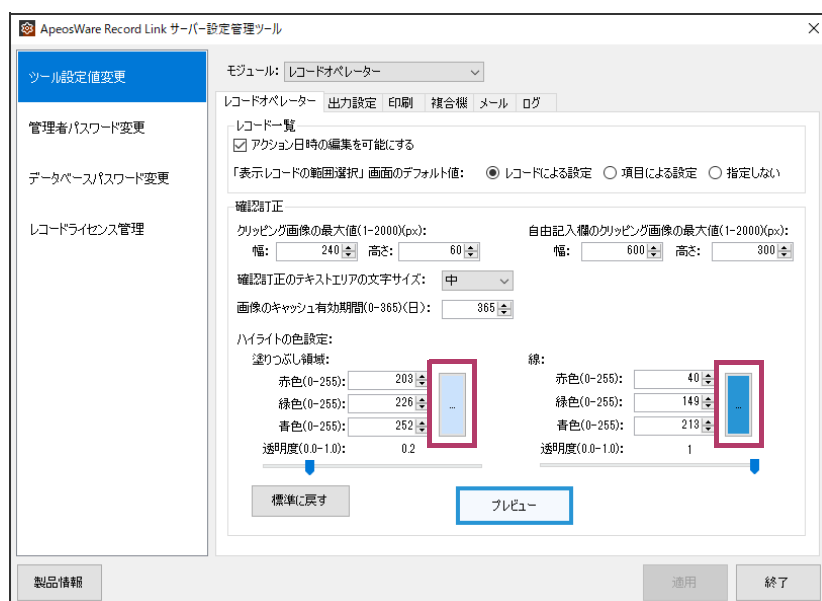
指定した背景および枠線の色を、サンプルエリアで確認できます。

■ RGB 値で色を指定する場合

1. 赤 (R) ・ 緑 (G) ・ 青 (B) を、0 ～ 255 の数値で指定します。
2. 「透明度」スライダーで、透明度を調節します。

■ [色の設定] ダイアログボックスで指定する場合

1. RGB 値を入力するエリアの右側の四角形をクリックします。



[色の設定] ダイアログボックスが表示されます。

2. [基本色] または [作成した色] から、任意の色を選択します。



【色の作成】機能を使うことで、任意の色を作れます。

3. [OK] をクリックします。

4. [透明度] スライダーで、透明度を調節します。

6. [適用] をクリックします。




「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。





7. [はい] をクリックします。




設定が反映されます。

「出力設定」タブの設定

1. 「ツール設定値変更」をクリックします。
2. 「モジュール」から「レコードオペレーター」を選択します。
3. 「出力設定」タブを選択します。
4. 次を設定します。

項 目	説 明
確認訂正後にファイル出力する	<p>確認訂正をしたレコードをファイルに出力するかどうかを指定します。チェックマークを付けた場合は、レコードオペレーターの確認訂正画面で「適用」をクリックすると、確認訂正終了ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで「OK」をクリックすると、レコードが出力されます。初期値は、チェックマークが付いています。</p>
ファイル名	<p>出力するレコードのファイル名を指定します。Record Link のキーワード書式を使用できます。初期値は、次のとおりです。 [sys:レコードID]_[sys:タイムスタンプ]</p> <p> 補足 レコードオペレーターの「CSV 出力」ボタンで出力時のファイル名は、変更できません。</p> <p> 参照 Record Link のキーワード書式については、『操作ガイド』の「Record Link キーワード書式」を参照してください。</p>
拡張子	<p>出力するレコードのファイル拡張子を指定します。初期値は「.csv」です。</p> <p> 補足 レコードオペレーターの「CSV 出力」ボタンで出力時の拡張子は、変更できません。</p>

項 目	説 明
出力先	<p>ファイルの出力先フォルダーのパスを指定します。 環境変数「{%ProgramData%}」も指定できます。指定したフォルダーパスが存在しない場合は、自動で作成されます。Record Link のキーワード書式を使用できます。 初期値は次のとおりです。 {%ProgramData%} ¥FUJIFILM¥Record Link¥RecordOperator¥RevisedData</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IIS_IUSRS グループへの書き込み権限がある出力先フォルダーを選択する必要があります。 ・ レコードオペレーターの [CSV 出力] ボタンで出力時の出力先は、変更できません。 <p> 参照 Record Link のキーワード書式については、『操作ガイド』の「Record Link キーワード書式」を参照してください。</p>
ファイル書式	<p>出力するレコードの書式を、次から選択します。初期値は [デフォルト] です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デフォルト デフォルトの書式で出力します。 ・ カスタム カスタムフォーマット定義ファイルを作成し、その書式に従ってレコードを出力します。 <p> 参照 デフォルト書式、カスタムフォーマット定義ファイルについては、それぞれ次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『操作ガイド』の「CSV ファイルの書式ガイド」 ・ 『操作ガイド』の「カスタムフォーマット定義ファイル」
文字エンコード	<p>[ファイル書式] または [CSV 出力ファイル書式] で [カスタム] を選択した場合に設定します。 出力ファイルの文字エンコードを [Shift-JIS]、[UTF-8] から選択します。初期値は [UTF-8] です。</p>
エスケープ処理	<p>[ファイル書式] または [CSV 出力ファイル書式] で [カスタム] を選択した場合に設定します。 出力データに対するエスケープ処理を次から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しない ・ CSV エスケープ処理 Record Link キーワード書式で置き換えられるデータ内に [""] が含まれる場合は、[""] に置き換えます。 ・ XML エスケープ処理 Record Link キーワード書式で置き換えられるデータ内に次の文字が含まれる場合は、XML エンティティ参照文字に置き換えます。 < > & ' " <p> 参照 Record Link のキーワード書式については、『操作ガイド』の「Record Link キーワード書式」を参照してください。</p>

項 目	説 明
カスタムフォーマット定義ファイル	<p>〔ファイル書式〕または〔CSV 出力ファイル書式〕で〔カスタム〕を選択した場合に設定します。</p> <p>カスタムフォーマット定義ファイルのパスを指定します。環境変数「{%ProgramData%}」も指定できます。</p> <p>初期値は次のとおりです。</p> <p>{%ProgramData%} ¥FUJIFILM¥Record Link¥RecordOperator¥settings¥CustomFormatter.dat</p> <p> 補足</p> <p>カスタムフォーマット定義ファイルは、IIS_IUSRS グループへの読み取り権限が設定されている必要があります。</p>
出力先にファイルがある場合	<p>〔ファイル書式〕または〔CSV 出力ファイル書式〕で〔カスタム〕を選択した場合に設定します。</p> <p>出力先に同じファイル名が存在したときの動作を、次から選択します。初期値は〔エラー〕です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エラー 出力しないで終了します。 ・上書き 既存のファイルに上書きします。 ・追記 同名のファイルの末尾に出力内容を追加します。 <p> 注記</p> <p>〔追記〕を選択した場合、元のレコードと追加レコードを区切る文字は出力されません。追記しても問題のないような書式を、カスタムフォーマット定義ファイルに設定してください。</p>
確認訂正後にファイル出力したレコードを削除する	<p>確認訂正後のレコードをファイルに出力したあとに、該当のレコードを台帳データベースから削除するかどうかを指定します。初期値は、削除する設定です。</p>
CSV 出力ファイル書式	<p>〔CSV 出力〕 ボタンをクリックして出力されるレコードの書式を、次から選択します。初期値は〔デフォルト〕です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デフォルト デフォルトの書式で出力します。 ・カスタム書式 カスタムフォーマット定義ファイルを作成し、その書式に従ってレコードを出力します。 <p> 参照</p> <p>デフォルトの書式、カスタムフォーマット定義ファイルについては、それぞれ次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『操作ガイド』の「CSV ファイルの書式ガイド」 ・『操作ガイド』の「カスタムフォーマット定義ファイル」

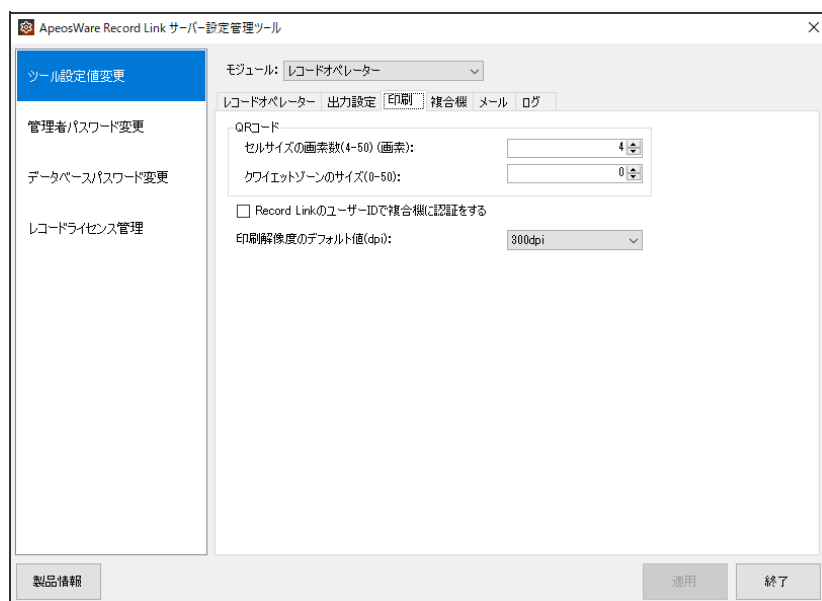
5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。


6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

[印刷] タブの設定

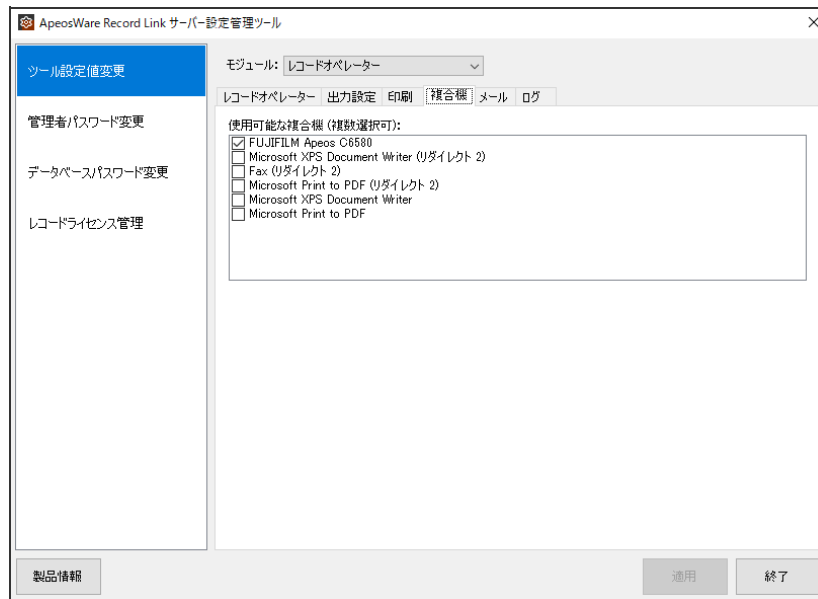


1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードオペレーター] を選択します。
3. [印刷] タブを選択します。
4. 次を設定します。

項 目		説 明
QRコード	セルサイズの画素数	セルサイズの画素数を設定します。QR コードのセルサイズとは、QR コードを構成する小さい正方形の大きさです。 設定できる値は、4 ～ 50 画素です。
	クワイエットゾーンのサイズ	クワイエットゾーンのサイズを設定します。クワイエットゾーンとは、QR コードの上下左右の余白のことです。 設定できる値は 0 ～ 50 セルです。
Record Link のユーザー ID で複合機に認証をする		Record Link のユーザー ID で複合機の認証を許可する場合は、チェックマークを付けます。
印刷解像度のデフォルト値		印刷するときの解像度のデフォルト値を設定します。 選択肢は、300 dpi、400 dpi、または 600 dpi です。  補足 印刷するとき、設定を変更できます。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[複合機] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードオペレーター] を選択します。
3. [複合機] タブを選択します。
4. [使用可能な複合機] エリアで、使用する複合機にチェックマークを付けます。

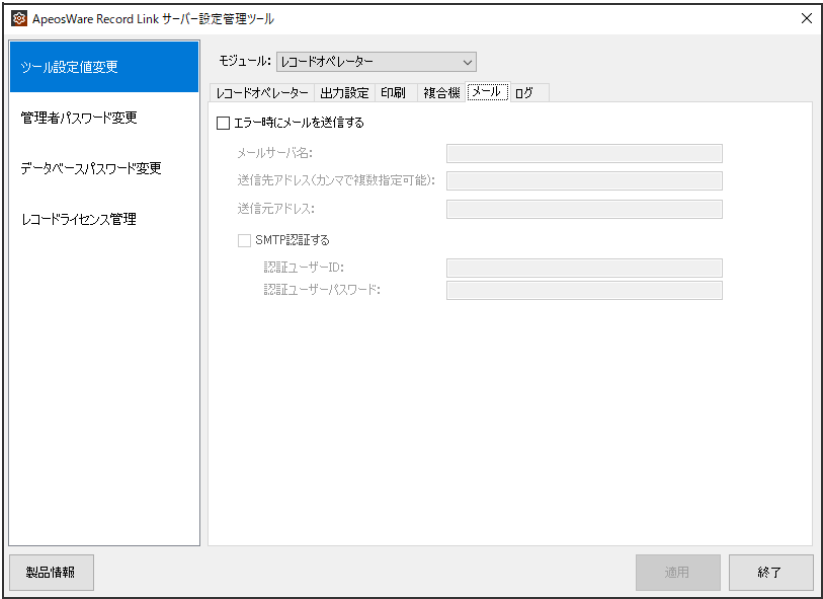


補足

複数の複合機を選択できます。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[メール] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードオペレーター] を選択します。
3. [メール] タブを選択します。
4. エラーが発生した場合にメールで通知する場合は、[エラー時にメールを送信する] にチェックマークを付け、次を設定します。

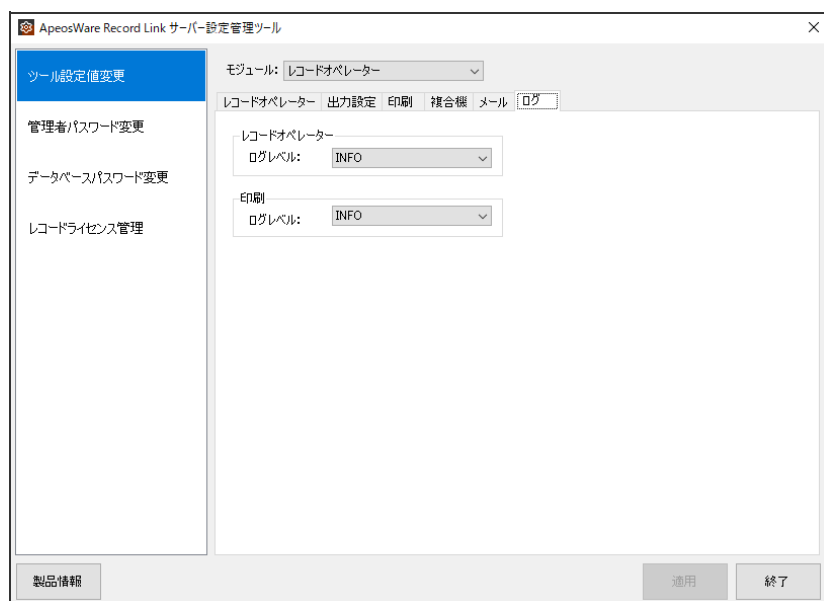
項 目	説 明
メールサーバ名	メールサーバー名を入力します。
送信先アドレス	送信先のアドレスを入力します。カンマ (,) を使うことで、複数のアドレスを指定できます。
送信元アドレス	送信元のアドレスを入力します。

5. SMTP 認証をする場合は、[SMTP 認証する] にチェックマークを付け、次を設定します。

項 目	説 明
認証ユーザー ID	SMTP 認証のユーザー ID を入力します。
認証ユーザーパスワード	SMTP 認証のユーザーパスワードを入力します。

6. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
7. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[ログ] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [レコードオペレーター] を選択します。
3. [ログ] タブを選択します。
4. 次を設定します。



注記

通常時は、ログレベルを [INFO] にして運用してください。[DEBUG] は、不具合が発生したときの設定です。[DEBUG] で運用した場合、大量のログによるディスクの圧迫やパフォーマンスの低下が発生するおそれがあります。

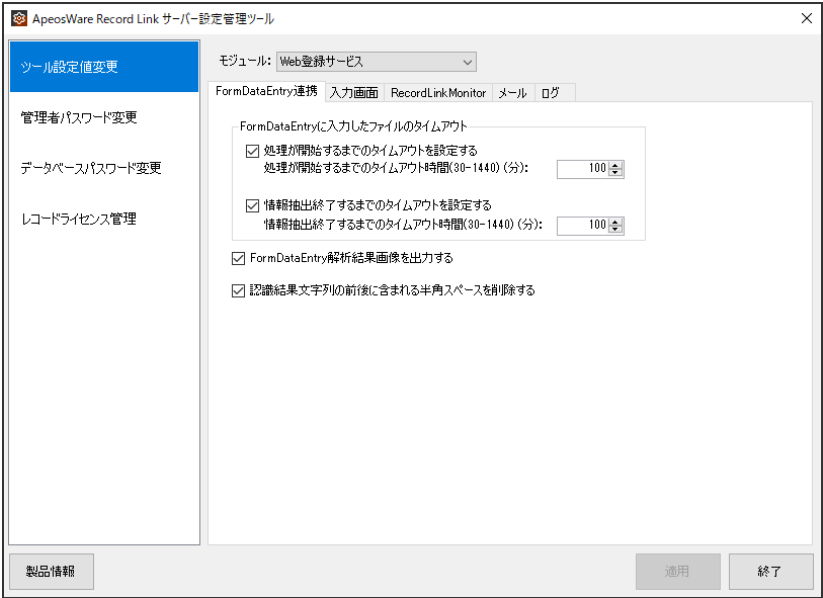
項 目	説 明
レコードオペレーター	レコードオペレーターに関するログレベルの設定をします。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。
印刷	印刷に関するログレベルの設定をします。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

Web 登録サービスの設定値を変更する


Web 登録サービス の設定値を変更します。


[FormDataEntry 連携] タブの設定



Web 登録サービスの [FormDataEntry 連携] タブの内容を変更するには、次の操作をします。

- 1. [ツール設定値変更] をクリックします。
- 2. [モジュール] から [Web 登録サービス] を選択します。
- 3. [FormDataEntry 連携] タブを選択します。
- 4. 次を設定します。

項 目	説 明
処理が開始するまでのタイムアウト時間	Web 登録サービスから FormDataEntry に入力するとき、処理が開始するまでのタイムアウト時間を設定します。 設定できる値は 30 ～ 1440 分です。  注記 <ul style="list-style-type: none">・チェックマークを外すとタイムアウトの設定をオフにできます。・ApeosWare Record Link は通常オフィス環境下（1 日内）での利用を想定しており、長時間・長期間の連続稼働を保証していません。本機能をオフにする場合は定期的なサーバーの再起動をしてください。
情報抽出終了するまでのタイムアウト時間	Web 登録サービスから FormDataEntry に入力するとき、情報抽出が終了するまでのタイムアウト時間を設定します。 設定できる値は 30 ～ 1440 分です。

項 目	説 明
FormDataEntry 解析結果画像を出力する	<p>FormDataEntry の解析結果の画像を出力する場合は、チェックマークを付けます。チェックマークを付けると、解析結果画像ファイルが次の仕様で出力されます。</p> <p>■出力場所 C:¥Users¥ {Windows ログオンユーザー名} ¥Documents¥FUJIFILM¥Record Link¥OcrResult の下の「業務名」フォルダー</p> <p>■ファイル名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単一ページの画像の場合 {業務レコード ID} _ {FormDataEntry に登録されたフォーム名} _ {FormDataEntry 認識処理時刻 17 桁} _0001.Tiff ・複数ページの画像の場合 複数ページの画像ファイルが上記の名前で出力されます。 また、1 ページに分割されたファイルが、次の名前で出力されます。 {業務レコード ID} _ {FormDataEntry に登録されたフォーム名} _ {FormDataEntry 認識処理時刻 17 桁} _0001_ {ページ番号 4 桁} .tif <p> 補足 複合機から原紙登録した画像を基にフォームを作成した場合、{FormDataEntry に登録されたフォーム名} は、次の構成になります。 {業務名} _ {帳票名} _ {原紙登録時刻 17 桁} _ {IP アドレス} {IP アドレス} は、ドット (.) の代わりにハイフン (-) が使用されます。</p>
認識結果文字列の前後に含まれる半角スペースを削除する	認識結果文字列の前後に含まれる半角スペースを削除する場合は、チェックマークを付けます。

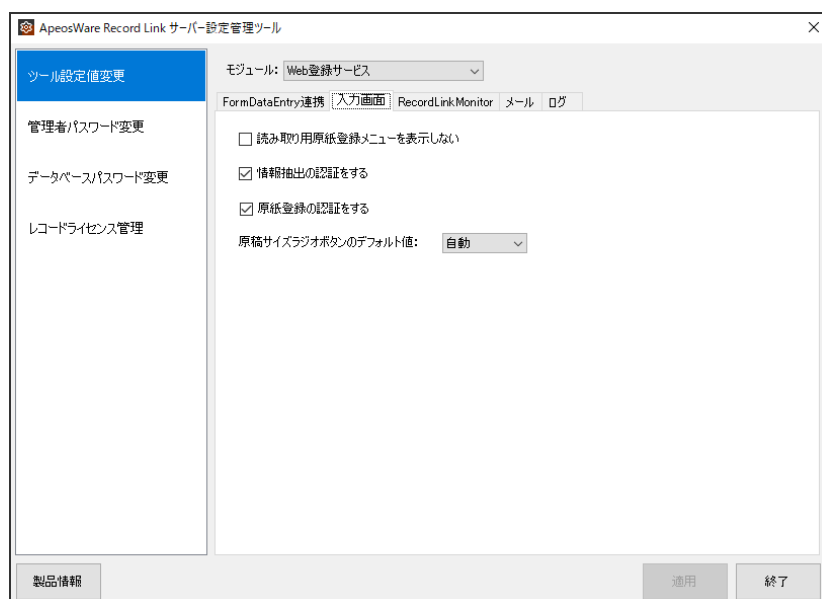
5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

[入力画面] タブの設定

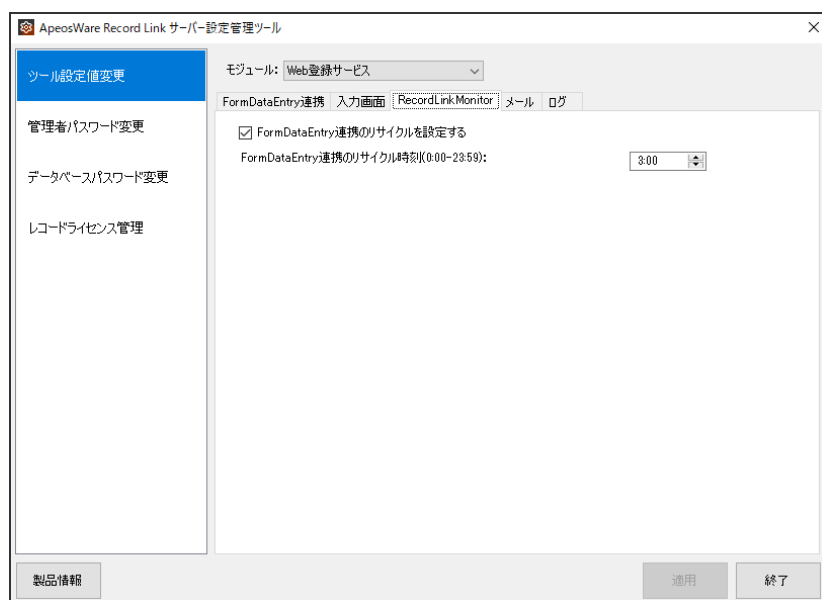


1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [Web 登録サービス] を選択します。
3. [入力画面] タブを選択します。
4. 次を設定します。

項 目	説 明
読み取り用原紙登録メニューを表示しない	以下の URL にアクセスしたときにメニューを表示せずに情報抽出画面にスキップします。 http:// {Record Link サーバーの FQDN または IP アドレス} / WebRegistrationService-Web/Menu
情報抽出の認証をする	Web 登録サービスで情報抽出をするときに、ユーザー認証をする場合はチェックマークを付けます。
原紙登録の認証をする	Web 登録サービスで原紙登録をするときに、ユーザー認証をする場合はチェックマークを付けます。
原稿サイズラジオボタンのデフォルト値	Web 登録サービスで表示される [原稿サイズ] を選択するときのデフォルト値を設定します。 選択肢は、[自動] または [混在] です。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[Record Link Monitor] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [Web 登録サービス] を選択します。
3. [Record Link Monitor] タブを選択します。

4. FormDataEntry 連携のリサイクル時間を設定します。



注記

- ・リサイクル時間は、Record Link を使用しない時間にしてください。
- ・チェックマークを外すとリサイクル時間の設定をオフにできます。
- ・ApeosWare Record Link は通常オフィスでの利用を想定しており、長時間・長期間の連続稼働を保証していません。本機能をオフにする場合は定期的なサーバーの再起動をしてください。

5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

[メール] タブの設定

ApeosWare Record Link サーバ設定管理ツール

ツール設定値変更

管理者パスワード変更

データベースパスワード変更

レコードライセンス管理

モジュール: Web登録サービス

FormDataEntry連携 入力画面 RecordLinkMonitor [メール] ログ

☐ エラー時にメールを送信する

メールサーバ名:

送信先アドレス(カンマで複数指定可能):

送信元アドレス:

☐ SMTP認証する

認証ユーザーID:

認証ユーザーパスワード:

製品情報 適用 終了

1. [ツール設定値変更] をクリックします。

2. [モジュール] から [Web 登録サービス] を選択します。

3. [メール] タブを選択します。

4. エラーが発生した場合にメールで通知する場合は、[エラー時にメールを送信する] にチェックマークを付け、次を設定します。

項 目	説 明
メールサーバ名	メールサーバー名を入力します。
送信先アドレス	送信先のアドレスを入力します。カンマ (,) を使うことで、複数のアドレスを指定できます。
送信元アドレス	送信元のアドレスを入力します。

5. SMTP 認証をする場合は、[SMTP 認証する] にチェックマークを付け、次を設定します。

項 目	説 明
認証ユーザー ID	SMTP 認証のユーザー ID を入力します。
認証ユーザーパスワード	SMTP 認証のユーザーパスワードを入力します。

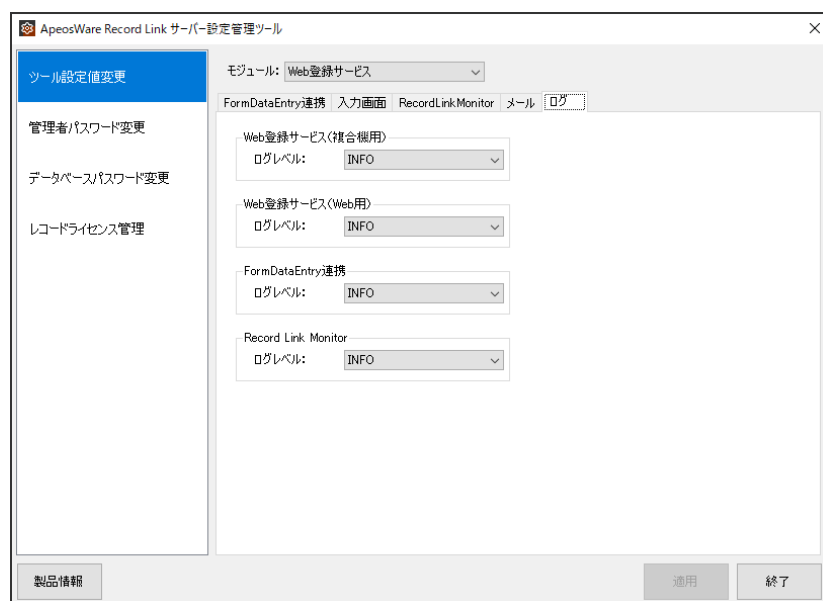
6. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

7. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

[ログ] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。

2. [モジュール] から [Web 登録サービス] を選択します。

3. [ログ] タブを選択します。

4. 次を設定します。



注記

通常時は、ログレベルを [INFO] にして運用してください。[DEBUG] は、不具合が発生したときの設定です。[DEBUG] で運用した場合、大量のログによるディスクの圧迫やパフォーマンスの低下が発生するおそれがあります。

項 目	説 明
Web 登録サービス (複合機用)	Web 登録サービスに関するログレベルの設定をします。 Web 登録サービスには、複合機用と Web ブラウザー用の 2 種類の設定があります。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。
Web 登録サービス (Web 用)	
FormDataEntry 連携	FormDataEntry との連携に関するログレベルの設定をします。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。

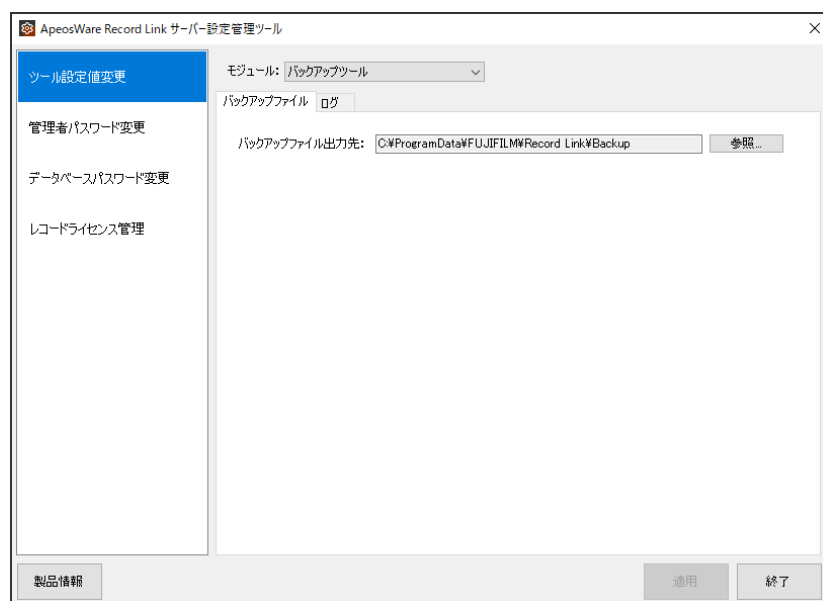
項 目	説 明
Record Link Monitor	Record Link Monitor に関するログレベルの設定をします。 選択肢は [INFO]、[DEBUG] です。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

バックアップツールの設定値を変更する

バックアップツールの設定値を変更します。

[バックアップファイル] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [バックアップツール] を選択します。
3. [バックアップファイル] タブを選択します。
4. バックアップファイルの出力先を設定します。



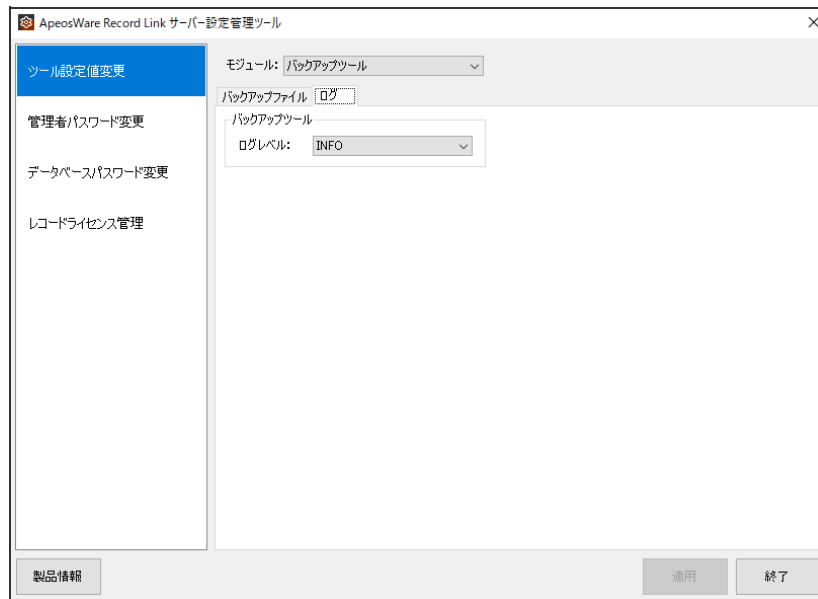
補足

初期値は「C:\ProgramData\FUJIFILM\Record Link\Backup」です。

1. [参照] をクリックします。
 2. バックアップを出力するフォルダーを指定します。
 3. [OK] をクリックします。
- 「バックアップファイル出力先」にフォルダーのフルパスが表示されます。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか?」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

[ログ] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。
2. [モジュール] から [バックアップツール] を選択します。
3. [ログ] タブを選択します。
4. バックアップツールのログレベルを、[INFO]、または [DEBUG] から選択します。



注記

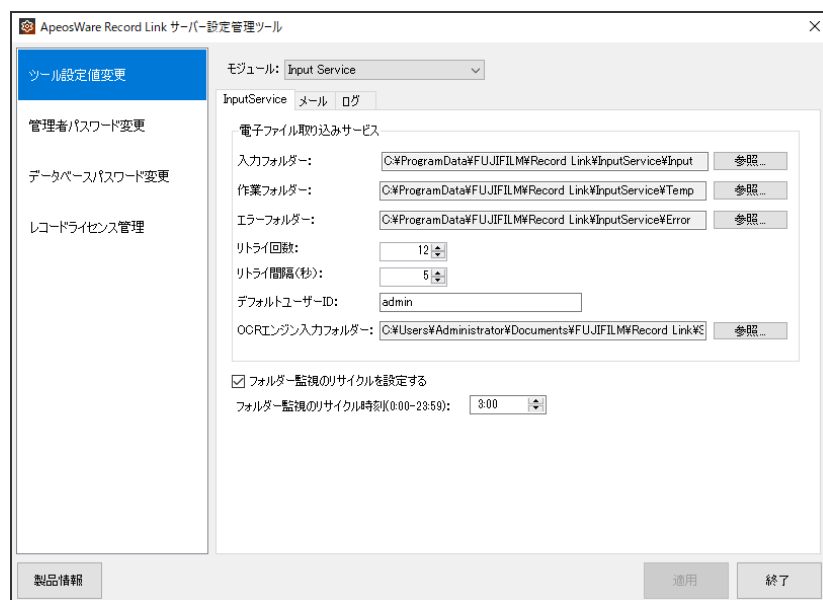
通常時は、ログレベルを [INFO] にして運用してください。[DEBUG] は、不具合が発生したときの設定です。[DEBUG] で運用した場合、大量のログによるディスクの圧迫やパフォーマンスの低下が発生するおそれがあります。

5. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

Input Service の設定値を変更する


Input Service の設定値を変更します。

[Input Service] タブの設定



1. [ツール設定値変更] を選択します。
2. モジュールから [Input Service] を選択します。
3. [InputService] タブを選択します。
4. 次を設定します。

項 目	説 明
入力フォルダー	画像データと属性データを入力するフォルダーのパスを指定します。 初期値は「C:\ProgramData\FUJIFILM\Record Link\InputService\Input」です。
作業フォルダー	処理中のファイルを保管する作業フォルダーのパスを指定します。 初期値は「C:\ProgramData\FUJIFILM\Record Link\InputService\Temp」です。
エラーフォルダー	処理中にエラーが発生した場合に保管するエラー用フォルダーのパスを指定します。 初期値は「C:\ProgramData\FUJIFILM\Record Link\InputService\Error」です。
リトライ回数	検出した画像データと属性データにエラーがあった場合に、最大で何回までリトライするかを、1 ～ 100 の範囲で指定します。初期値は「12」回です。
リトライ間隔 (秒)	検出した画像データと属性データにエラーがあった場合に、リトライする間隔を 1 ～ 60 (単位：秒) の範囲で指定します。初期値は「5」秒です。
デフォルトユーザー ID	属性データにユーザー ID が指定されていなかった場合に適用するユーザー ID を指定します。初期値は「admin」です。
OCR エンジン入力フォルダー	OCR エンジンの入力フォルダーのパスを指定します。 初期値は「C:\Users\Administrator\Documents\FUJIFILM\Record Link\Scenario」です。

項 目	説 明
フォルダー監視のリサイクル時刻	<p>Input Service のリサイクル時間（Record Link を使用しない時間）を指定します。ここで指定した時刻に、Input Service のリソースが開放されます。</p> <p> 注記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックマークを外すとリサイクル時刻の設定をオフにできます。 ・ApeosWare Record Link は通常オフィス環境下（1 日以内）での利用を想定しており、長時間・長期間の連続稼働を保証していません。本機能をオフにする場合は定期的なサーバーの再起動をしてください。

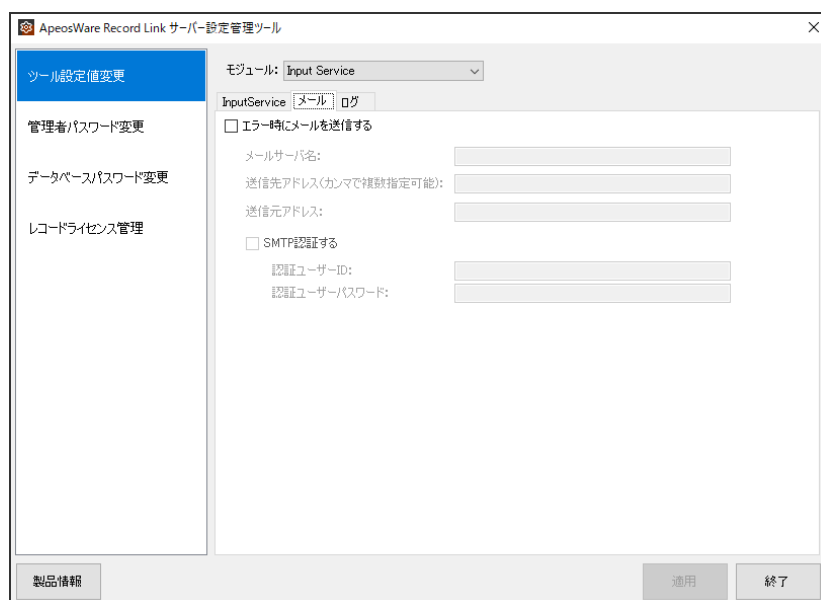
5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

[メール] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。

2. [モジュール] から [Input Service] を選択します。

3. [メール] タブを選択します。

4. エラーが発生した場合にメールで通知する場合は、[エラー時にメールを送信する] にチェックマークを付け、次を設定します。

項 目	説 明
メールサーバ名	メールサーバー名を入力します。
送信先アドレス	送信先のアドレスを入力します。カンマ (,) を使うことで、複数のアドレスを指定できます。
送信元アドレス	送信元のアドレスを入力します。

5. SMTP 認証をする場合は、[SMTP 認証する] にチェックマークを付け、次を設定します。

項 目	説 明
認証ユーザー ID	SMTP 認証のユーザー ID を入力します。
認証ユーザーパスワード	SMTP 認証のユーザーパスワードを入力します。

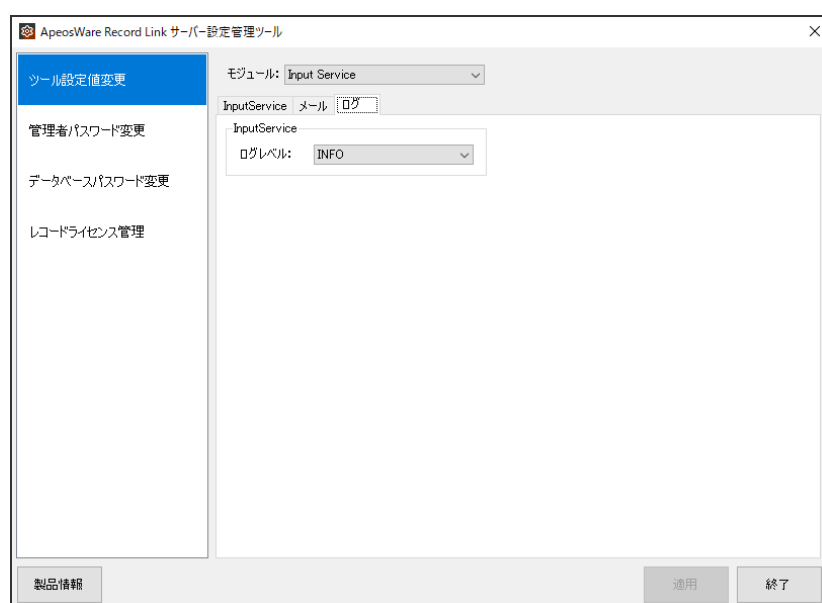
6. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

7. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

[ログ] タブの設定



1. [ツール設定値変更] をクリックします。

2. [モジュール] から [Input Service] を選択します。

3. [ログ] タブを選択します。

4. Input Service のログレベルを、[INFO] または [DEBUG] から選択します。

[INFO] を選択すると、操作ログとエラーログが出力されます。



注記

通常時は、ログレベルを [INFO] にして運用してください。[DEBUG] は、不具合が発生したときの設定です。[DEBUG] で運用した場合、大量のログによるディスクの圧迫やパフォーマンスの低下が発生するおそれがあります。

5. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

システム管理者パスワードを変更する

The screenshot shows a window titled "ApeosWare Record Link サーバ設定管理ツール". On the left is a sidebar with four menu items: "ツール設定値変更", "管理者パスワード変更" (highlighted in blue), "データベースパスワード変更", and "レコードライセンス管理". The main area contains the text "管理者のパスワードを指定してください。" followed by two input fields labeled "新しいパスワード:" and "新しいパスワード(確認):". At the bottom are three buttons: "製品情報", "適用", and "終了".

1. [管理者パスワード変更] をクリックします。
2. [新しいパスワード] および [新しいパスワード (確認)] に、新しいパスワードを入力します。
3. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
4. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

データベース管理者のパスワードを変更する

The screenshot shows the same window as above, but the "データベースパスワード変更" menu item is highlighted in blue. The main area contains the text "データベースサーバーのパスワードを指定してください。" followed by two input fields labeled "新しいパスワード:" and "新しいパスワード(確認):". The "適用" and "終了" buttons are still present at the bottom.

1. [データベースパスワード変更] をクリックします。
2. [新しいパスワード] および [新しいパスワード (確認)] に、新しいパスワードを入力します。

3. [適用] をクリックします。

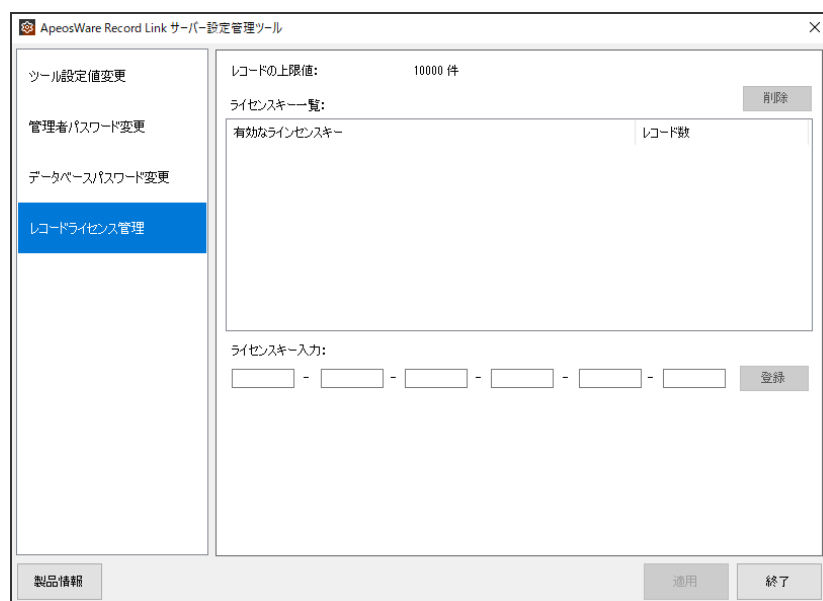
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

4. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

レコードライセンスを管理する

レコードライセンスを管理する操作方法を説明します。



レコードライセンスを登録する

レコードライセンスを登録することで、レコード登録可能数の上限値を上げることができます。レコードライセンスのご購入については、弊社担当者までご連絡ください。

1. [レコードライセンス管理] をクリックします。

現在のレコードの上限値や有効なライセンスキーが表示されます。

2. [ライセンスキー入力] エリアに、使用するライセンスキーを入力します。

3. [登録] をクリックします。

ライセンスキーが登録され、レコードの上限値が上がります。

4. [適用] をクリックします。

「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

5. [はい] をクリックします。

設定が反映されます。

レコードライセンスを削除する

レコードライセンスを削除するには、次の操作をします。

1. [レコードライセンス管理] をクリックします。

現在のレコードの上限値や有効なライセンスキーが表示されます。

2. [ライセンスキー一覧] エリアから、削除するライセンスキーを選択します。

3. [削除] をクリックします。
[ライセンスキー一覧] エリアから、ライセンスキーが削除されます。
4. [適用] をクリックします。
「設定を反映します。ApeosWare Record Link のサービスを再起動しますがよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
5. [はい] をクリックします。
設定が反映されます。

障害情報取得ツールについて

Record Link の動作ログや Windows の情報を収集するツールです。システムを診断し、トラブルの解決に役立てることができます。また、トラブルが発生して問い合わせ窓口に連絡するときは、障害情報取得ツールで取得した情報が必要になることがあります。

障害情報取得ツールを使用する

障害情報取得ツールを実行して、各種情報を収集します。



- ・ インストーラーログを取得する場合は、Record Link をインストールしたユーザーで起動してください。
- ・ このツールは、管理者権限で実行します。管理者権限で実行するには、Launcher を右クリックすると出てくるメニューから、[管理者として実行] を選択します。

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM] > [Record Link 障害情報取得ツール] を選択して、障害情報取得ツールを起動します。



FormDataEntry シナリオファイルを収集する場合は、PostgreSQL を開始した状態で起動してください。

2. ログを収集する期間を指定する場合は、[ログ取得期間を指定する] にチェックマークを付け、開始日と終了日を選択します。
 チェックマークを外した場合は、サーバーに存在するすべての期間のログを収集します。

3. 収集する情報レベルを [サーバーログ] または [クライアント PC ログ] から選択します。
4. [サーバーログ] を選択した場合は、収集する情報レベルを選択します。
 各情報の詳細は「障害情報取得ツールで収集できる情報」(P.145) を参照してください。

■ Windows のログを収集する場合

1. [Windows システム情報] にチェックマークを付けます。

■ 動作ログを収集する場合

1. [Record Link システムログ] にチェックマークを付けます。

■ 業務ログを収集する場合

業務ログを収集する場合は、事前に収集する情報を準備する必要があります。詳しくは「業務ログを収集する」(P.140) を参照してください。

1. [業務ログ] にチェックマークを付けます。
2. [追加] をクリックします。
3. ファイル選択ダイアログボックスが表示されるので、収集したい業務ログファイルを選択します。
 選択したファイルが一覧に表示されます。
4. 複数の業務ログファイルを収集する場合は、手順 2 ～ 3 を繰り返します。

■ FormDataEntry シナリオを収集する場合



補足

FormDataEntry シナリオリストに表示されたシナリオを更新する場合、ツールを再起動します。

1. [FormDataEntry シナリオ] にチェックマークを付けます。

2. 収集したいシナリオにチェックマークを付けます。

シナリオ名	ステータス	登録日時
Sample	有効	2022/01/12 11:58:03

5. 必要に応じて、[ZIP ファイルに圧縮する]、[ZIP ファイルにパスワードを付与する] にチェックマークを付け、[実行] をクリックします。

ログ取得期間を指定する
2022/01/12 から 2022/01/12 まで

取得する情報レベル
● サーバーログ
☒ Windowsシステム情報
☒ RecordLinkシステムログ
☒ 業務ログ

☐ FormDataEntryシナリオ

クライアントPCログ
☒ ZIPファイルに圧縮する
☒ ZIPファイルにパスワードを付与する

製品情報(P) 実行(E) キャンセル(Q)

補足

- ・ ZIP ファイルに圧縮する場合、次の場合は収集中のファイルが残ります。
 - ログ収集処理中に中止指示をする
 - ログ収集処理や圧縮処理がタイムアウトする
- ・ 各処理のタイムアウトは 600 秒で発生します。
- ・ Record Link を長期間利用していて、収集するログファイルが大量になる場合は、取得期間を指定して、収集するログファイルを限定することを推奨します。
- ・ タイムアウトが発生した場合は、不要な収集中のファイルを手動で削除してください。

6. フォルダー選択ダイアログボックスが表示されるので、保存先のフォルダーを指定します。

補足

FormDataEntry シナリオを収集する場合、出力先のファイルパスが 200 文字を超えると、出力に失敗します。シナリオ名を短くするか、出力先を変更してください。

7. [ZIP ファイルにパスワードを付与する] にチェックマークを付けた場合は、パスワードを入力して [OK] をクリックします。

指定した情報が収集され、ファイルに保存されます。

収集した情報のフォルダー構成

障害情報取得ツールで ZIP ファイルに圧縮する指定をした場合は、次の場所に圧縮ファイルが作成されます。

{選択した保存先フォルダー} ¥LogFiles¥yyyyMMdd_HHmms.zip

(yyyyMMdd_HHmms は、[実行] ボタンをクリックした日付時刻)

ZIP ファイルに圧縮しない場合は次のフォルダーが作成され、その下に各情報の収集フォルダーが作成されます。

{選択した保存先フォルダー} ¥LogFiles¥yyyyMMdd_HHmms

(yyyyMMdd_HHmms は、[実行] ボタンをクリックした日付時刻)

各情報の収集フォルダーは、次の構成になっています。

フォルダー名	内容
yyyyMMdd_HHmms	収集フォルダーおよび ZIP ファイル名
Windows システム情報	システムログの格納フォルダー
動作環境情報	動作環境情報を格納
Windows イベントログ	Windows イベントログ (アプリケーション、システム) を格納
IIS	IIS ログを格納
RL システムログ	Record Link システムログの格納フォルダー
RecordDesigner	レコードデザイナーのログを格納
setting	レコードデザイナーの設定ファイルを格納
Launcher	Launcher ログ、Dism ログ、MSI ログを格納
Tool	設定管理ツールのログを格納
Web 登録サービス	Web 登録サービスのログ、イベントログを格納
Conf	Web 登録サービスの設定ファイルを格納
RecordOperator	レコードオペレーターのログを格納
setting	レコードオペレーターの設定ファイルを格納
FormDataEntry	FormDataEntry の実行ログ、エラーログを格納
YYYYMMDD	FormDataEntry のジョブログを格納
RecordBackup	RecordBackup のログを格納
setting	RecordBackup の設定ファイルを格納
PostgreSQL	PostgreSQL サービスの動作ログを格納
InputService	Input Service のログを格納
setting	Input Service の設定ファイルを格納
業務ログ	各業務ログの格納フォルダー

フォルダー名	内容
FormDataEntry シナリオ	FormDataEntry のシナリオファイルの格納フォルダー

業務ログを収集する

次の業務ログを収集できます。

- ・台帳データファイル
- ・帳票ファイル
- ・スキャン画像ファイル
- ・情報抽出時のログファイル

台帳データファイルを収集する

問題が発生している業務の台帳データをデータベースから CSV ファイルで取得し、障害情報取得ツールの業務ログに追加します。

1. レコードデザイナーを起動し、障害が発生している業務の管理者でログインします。
admin ユーザーでログインしてもかまいません。



参照

『操作ガイド』の「台帳データを管理する」

2. 問題が発生している業務情報を選択し、[データ管理] プルダウンリストから [レコードエクスポート] を選択します。



3. 次の操作をします。
 1. [件数取得] をクリックし、エクスポートされるレコードの件数を確認します。
 2. [レコード ID のエクスポート] のチェックマークが外れていることを確認します。

3. [OK] をクリックします。



エクスポートするレコードの条件やレコード ID の付与は、指示や必要がなければ指定する必要はありません。

4. ファイル選択ダイアログボックスで、[ファイルの種類] に CSV フォーマットを選択し、任意のフォルダーを指定して [保存] をクリックします。

5. 次の操作で、業務ログを収集します。

1. 「障害情報取得ツールを使用する」(P.136) を参照して、障害情報取得ツールを起動します。
2. [サーバーログ] を選択し、[業務ログ] にチェックマークを付けます。
3. [追加] をクリックし、手順 4 で保存したファイルを指定します。



拡張子が「.dat」になっていますが、内部フォーマットはテキストの CSV 形式です。

4. [実行] をクリックします。

帳票ファイル (XPS ファイル) を収集する

問題が発生している業務に登録した帳票ファイル (XPS) を、障害情報取得ツールの業務ログに追加します。Record Link に登録されている帳票ファイルは取り出すことができないため、業務に登録したオリジナルの帳票ファイルを障害情報取得ツールの業務ログに追加します。



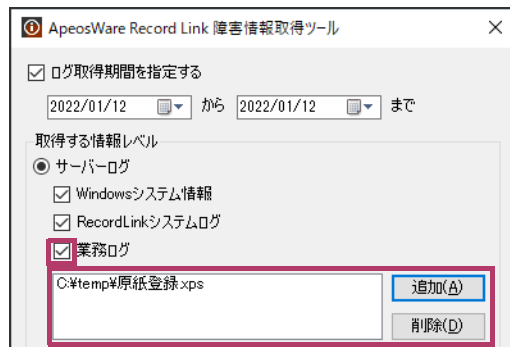
「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

1. オリジナルの帳票ファイルを特定します。

2. 次の操作で、業務ログを収集します。

1. 「障害情報取得ツールを使用する」(P.136) を参照して、障害情報取得ツールを起動します。
2. [サーバーログ] を選択し、[業務ログ] にチェックマークを付けます。

3. [追加] をクリックし、オリジナルの帳票ファイルを指定します。



4. [実行] をクリックします。

スキャン画像ファイルを収集する

複合機でスキャンした帳票などの画像に問題が発生している場合は、その画像ファイルを、障害情報取得ツールの業務ログに追加します。

1. スキャン画像を Record Link に取り込んだ（スキャンした）日時を特定します。

2. エクスプローラーで、スキャン画像処理用フォルダーを開きます。

スキャン画像は、次のフォルダーに保存されています。

C:\ProgramData\FUJIFILM\Record Link\WebRegistrationService\Storage

3. 特定した日時の名前を持つフォルダーを、任意のフォルダーにコピーします。

フォルダー名の書式は次のとおりです。

{年月日時分秒ミリ秒} _ {IP アドレス}

{年月日時分秒ミリ秒}：スキャン画像ファイルが生成されたシステムの時刻

{IP アドレス}：登録した複合機の IP アドレス

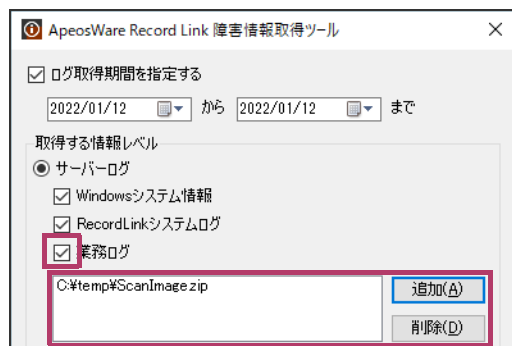
4. 手順 3 でコピーしたフォルダー内に画像ファイルがある場合は、弊社への持ち出しが可能かどうかを確認します。

5. 手順 3 でコピーしたフォルダーを、ZIP 形式で圧縮します。

6. 次の操作で、業務ログを収集します。

1. 「障害情報取得ツールを使用する」(P.136) を参照して、障害情報取得ツールを起動します。
2. [サーバーログ] を選択し、[業務ログ] にチェックマークを付けます。

3. [追加] をクリックし、ZIP ファイルを指定します。



4. [実行] をクリックします。

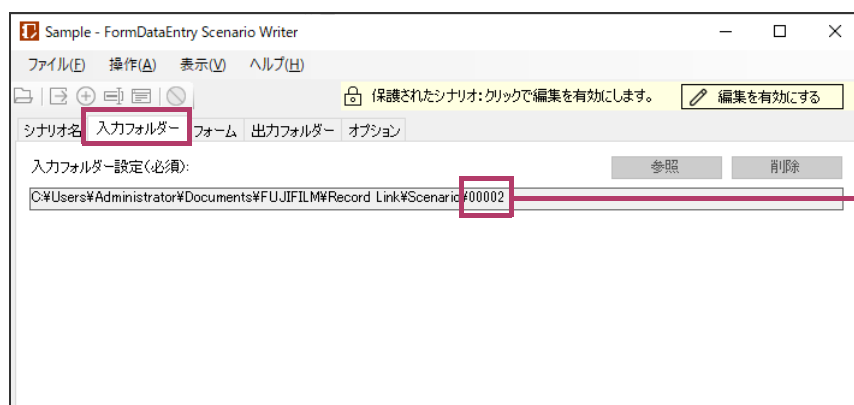
情報抽出時のログファイルを収集する

複合機でスキャンした帳票などで情報抽出に関する問題が発生している場合は、情報抽出時のログファイルを障害情報取得ツールの業務ログに追加します。

1. レコードデザイナーを起動し、問題が発生している業務の業務 ID を特定します。



2. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM] > [Studio] を選択して、FormDataEntry Studio を起動します。
3. 編集するシナリオを選択し、[ファイル] > [シナリオ編集] を選択します。
Scenario Writer 画面が表示されます。
4. [入力フォルダー] タブをクリックし、入力フォルダーパスの末尾の業務 ID が、レコードデザイナーで特定した業務 ID と同じになっていることを確認します。



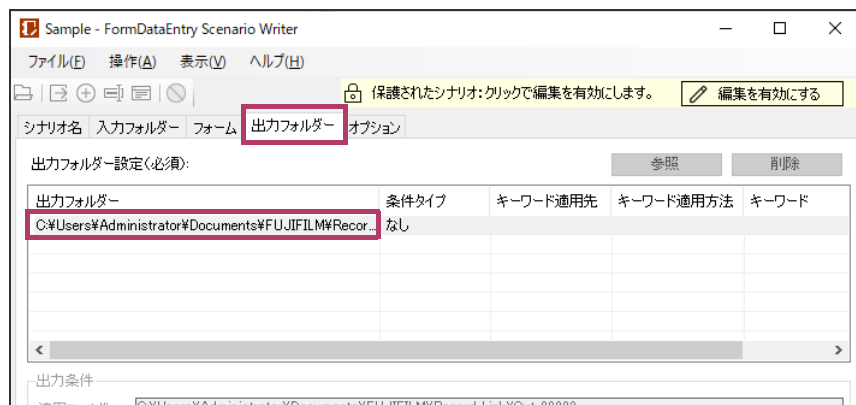
入力フォルダーパスの末尾が業務 ID です。



注記

画面右上の [編集を有効にする] は、クリックしないでください。

5. [出力フォルダー] タブをクリックし、出力フォルダーパスを特定します。



6. 特定した出力フォルダー内にログファイルがあることを確認します。

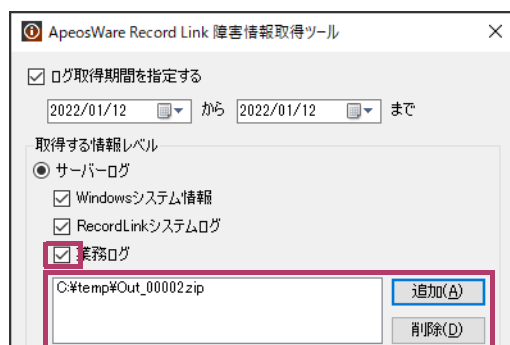
情報抽出に問題が発生した場合、出力先フォルダーには次の3つのログファイルが作成されます。

ファイルの種類	拡張子	内容
情報抽出後画像ファイル	Tiff	情報抽出時の補正後の画像ファイルです。
読み取り結果ファイル	csv	読み取り結果が格納されています。
ログファイル	xml	読み取り時の詳細な結果が格納されています。

7. 出力フォルダーを任意のフォルダーにコピーし、ZIP形式で圧縮します。

8. 次の操作で、業務ログを収集します。

1. 「障害情報取得ツールを使用する」(P.136)を参照して、障害情報取得ツールを起動します。
2. [サーバーログ]を選択し、[業務ログ]にチェックマークを付けます。
3. [追加]をクリックし、ZIP化した出力フォルダーを指定します。



4. [実行]をクリックします。

障害情報取得ツールで収集できる情報

障害情報取得ツールで収集できる情報は次のとおりです。

サーバーログ

分類	項目
Windows システム情報	OS の名前、バージョン、リソースなどの OS 情報
	コンピュータ名、TCP/IP の設定などのネットワーク情報
	イベントログ
	Internet Information Services のログ
	実行中のプロセス一覧
	インストールされているアプリケーションの一覧
	ApeosWare Record Link が使用するレジストリ情報
Record Link システムログ	ApeosWare Record Link コンポーネントバージョン一覧
	レコードデザイナーログ
	レコードデザイナー設定ファイル
	インストーラーログ ^{*1}
	設定管理ツールログ ^{*1}
	Web 登録サービスログ
	Web 登録サービス設定ファイル
	レコードオペレーターログ
	レコードオペレーター設定ファイル
	FormDataEntry ログ
	バックアップツールログ
	バックアップツール設定ファイル
	PostgreSQL サービス動作ログ
	Input Service ログ
	Input Service 設定ファイル
業務ログ	台帳データファイル
	帳票ファイル (XPS ファイル) ^{*2}
	スキャン画像ファイル
	情報抽出時のログファイル
FormDataEntry シナリオ	FormDataEntry シナリオファイル

*1 [ログ取得期間を指定する] で指定した期間に関わらず、すべてのログファイルを収集します。

*2 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

クライアント PC ログ

分類	項目
Windows 情報	OS の名前、バージョン、リソースなどの OS 情報
	コンピュータ名、TCP/IP の設定などのネットワーク情報
	イベントログ
	Internet Information Services のログ
	実行中のプロセス一覧
	インストールされているアプリケーションの一覧
	ApeosWare Record Link が使用するレジストリ情報
動作ログ	ApeosWare Record Link コンポーネントバージョン一覧 ^{*2}
	レコードデザイナーログ ^{*2}
	レコードデザイナー設定ファイル ^{*2}
	インストーラーログ ^{*1 *2}
	設定管理ツールログ ^{*1 *2}

*1 [ログ取得期間を指定する] で指定した期間に関わらず、すべてのログファイルを収集します。

*2 クライアント PC にコンポーネントがインストールされていない場合は収集されません。